

地域子育て支援拠点事業に関するアンケート調査 2015
地域子育て支援拠点における「つながり」に関する
調査研究事業 報告書

平成 28 年 3 月 31 日

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会

はじめに

乳幼児期の子育て家庭の孤立や育児不安等が指摘されています。それは人類が進化の過程で確立した本能的に「仲間と共同で子どもを育てる」という欲求がなかなか実現できないからだと言及する研究者もいます。乳幼児期の育ちは、家庭を基盤としながらも、子ども同士や地域の世代を超えた様々な人との交流によって育まれます。従って、子育て世代の転勤等による移動や核家族化によって人と人とが交流する機会が減少し、子育て家庭の孤立が進む現代において、子育てのスタート時に親子が気軽に集い、つながりあうことができる地域子育て支援拠点は、かつてないほど重要な役割を期待されているといえます。

地域子育て支援拠点事業は、保育所等で実施されてきた地域子育て支援センター事業や子育て親子が気軽に集い交流できるつどいの広場事業に加えて児童館の活用も図り、平成19年度からは地域子育て支援拠点事業となり、全国10,000か所を目指して拡充してきました。自治体独自の事業も含めて現在8,000か所以上で実施されています。この間、「拠点型地域子育て支援におけるプログラム活動のあり方に関する研究(主任研究者:渡辺顕一郎)ⁱ」において、拠点事業におけるプログラム活動は、子どもの人格の基礎が形成されるこの時期に、豊かな子育てを行うためには、親の主体性を尊重し、親としての成長に寄り添う視点が重要であり、同時に地域の子育て機能を高めていくことが必要であることが導きられました。

そこで今回、子育てひろば全国連絡協議会では、これまでの調査研究を踏まえ、乳幼児期の親子の交流の場である地域子育て支援拠点事業の基本的な利用者の状況を把握し、さらに地域子育て支援拠点が子育て家庭に果たす役割を検証するために、全国の事業を運営している240団体と、その主な利用者である母親2400人を対象にアンケートを実施しました。その結果、実感としてはあったものの興味深いデータとして、母親自身が育った市区町村で子育てができていない利用者が72.1%にのぼることが明らかになりました。自分が生まれ育った場所以外での子育ては、母親にとって物理的・心理的な孤立につながる状況をもたらしている状況が把握され、私たちは、これを「アウェイ育児」と名付け、地域子育て支援拠点の利用前後の意識の変化、及び拠点が果たしている役割に着目しました。

今後「つながり」をつくり、アウェイをホームに変える地域子育て支援拠点の役割について、さらに分析を行いたいと考えます。

調査にご協力いただいた皆様方に感謝申し上げますとともに、乳幼児子育て家庭がこれまで以上に安心して子育てできる社会づくりのために貢献していきたいと思っております。

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
理事長 奥山千鶴子

ⁱ 渡辺顕一郎、杉山恵理子他「拠点型地域子育て支援におけるプログラム活動のあり方に関する研究(主任研究者:渡辺顕一郎)平成17年度児童関連サービス調査研究等事業報告書、財団法人こども未来財団、2006

— 目 次 —

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
II 調査結果	2
II-1 事業実施団体の調査結果	2
1. 団体のプロフィール	2
(1) 運営形態	2
(2) 運営主体	2
(3) 保育施設の併設状況	3
(4) 運営年数	4
2. 地域子育て支援拠点事業の実施状況	5
(1) 開設曜日	5
(2) 1日の平均利用者数（親子合計人数）	7
(3) 受け入れ体制	8
① 事業に関わるスタッフ総数	8
② 1日あたりの配置スタッフ数	9
(4) スタッフの有給での研修への参加状況	10
(5) 継続的なボランティア活動に参加している人の状況	11
(6) 利用者が拠点内で昼食を取ることを認めている状況	12
3. 拠点で利用者同士のつながりづくりのために行っている工夫	13
(1) 利用者同士がつながるための工夫	13
(2) 利用者や支援者が地域や他の団体とつながる工夫	22
4. 拠点以外に実施している事業	32
5. 会員に関する情報	34
(1) NPO法人子育てひろば全国連絡協議会の会員の有無	34
(2) NPO法人子育てひろば全国連絡協議会の研修への参加経験の有無	35
II-2 拠点利用者（母親）の調査結果	36
1. 利用者（母親）のプロフィール	36
(1) 年代	36
(2) 母親のきょうだい人数	37
(3) 同居家族の状況	38
(4) 母親の就労状況	39
① 就労の有無	39
② 現在就労していない理由	40
③ 就労する母親の就労形態	41
(5) 現在育てている子どもの人数と年齢分布	42

2. 地域子育て支援拠点利用者のつながり状況	43
(1) 子ども時代に地域活動に参加した経験	43
(2) 自分の育った市区町村での子育ての実施状況	44
(3) 現在子育てを行っている市区町村から引っ越す可能性の有無	45
(4) 近所で子どもを預かってくれる人の有無	46
(5) メールやSNSでやりとりする友人の有無	47
3. 地域子育て支援拠点の利用状況	48
(1) 子どもの拠点の利用状況	48
(2) 家族形態別でみた拠点の月あたりの利用頻度	49
(3) 就労状況別でみた拠点の月あたりの利用頻度	50
① 就労の有無別の利用頻度	50
② 就労形態別の利用頻度	50
4. 地域子育て支援拠点の利用前後の子育て状況や心理状況	51
(1) 単純集計結果による利用前後の状況	51
(2) 拠点利用後、子育ての状況がプラスに変化した利用者（事業の寄与率）	53
(3) 拠点利用後のプラス変化による利用者（母親）の特性	55
① 拠点の利用によりもたらされたプラス変化の個数のカウント	55
② 拠点の月あたりの利用頻度	56
③ 母親のプロフィールの状況	56
(ア) 年代	56
(イ) 母親のきょうだい人数	57
(ウ) 家族構成	57
(エ) 就労状況	58
(オ) つながり状況	59
(4) 自分で育った市町村で子育てしているか否かによる違い	62
① A群とB群の母親の属性などの相違	62
② A群とB群の母親の拠点利用前の子育て状況の違い	64
③ A群とB群の母親の拠点利用後の子育て状況の違い	66

I 調査の概要

1. 調査目的

地域子育て支援拠点が利用者親子に果たす役割と、そこで生まれる「つながり」を明らかにするため、地域子育て支援拠点事業を運営している団体、その団体が運営する事業を利用している母親を対象に、アンケートによる調査を実施し、運営団体の状況をはじめ、子育てを取り巻く利用者の背景や状況、事業利用前後の子育てに関する意識や態度の変化を把握することを目的に実施しました。拠点で生まれる「つながり」とは、親子が自己肯定感をはぐくみ、家庭を超える関係性の広がりを持ち、地域社会の一員として、生涯にわたり、安心と信頼に基づくあたたかい関係性の連鎖を自らつむぎ出す一歩であると定義し、調査ではこの「つながり」に着目して質問項目などを設定しました。

2. 調査設計

(1) 調査対象：地域子育て支援拠点事業を運営する団体・計240団体

(会員79、非会員161団体)

※利用者については、各団体において任意の開所曜日・時間に1拠点あたり10人程度に無作為配布するよう依頼

(会員約790人、非会員約1,610人、計約2,400人)

(2) 調査内容：①事業実施団体調査（保育施設の併設状況、運営形態・運営主体、運営年数、1日あたりの利用者数、スタッフの配置状況、拠点でのつながりづくりのための工夫点など）

②事業利用者調査（子どもの年齢、拠点の利用頻度、回答者自身の年齢、きょうだい数、同居者、就労状況、地域や友人等とのつながり状況、拠点利用前後の子育ての状況の変化など）

(3) 調査方法：①郵送配布・郵送回収

②各拠点の利用時に、団体を通じてアンケート調査票を利用者に配布し、郵送により回収を実施

(4) 調査期間 平成27年11月1日～11月30日

3. 回収結果

	対象数	有効回答数	有効回答率
① 団体調査	240団体	172団体	71.7%
(うち) 会員	79団体	68団体	86.1%
(うち) 会員外	161団体	104団体	64.6%
② 利用者調査	2,400人	1,136人	47.3%

Ⅱ 調査結果

Ⅱ－１ 事業実施団体の調査結果

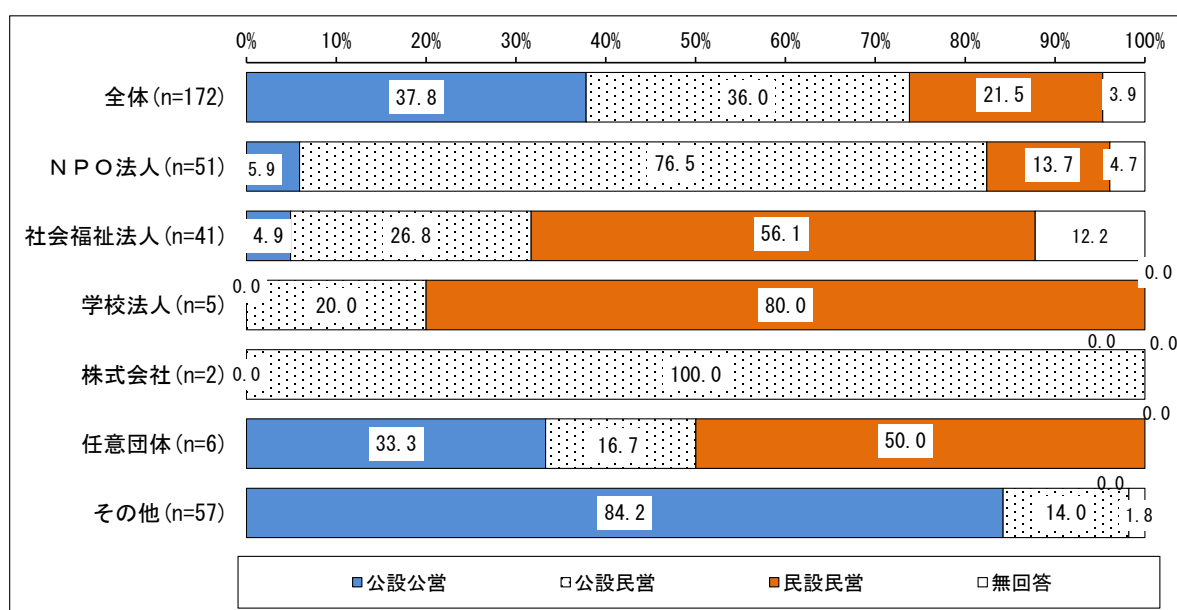
1. 団体のプロフィール

(1) 運営形態

回答団体全体では、公設が73.8%を占め、そのうち「公設公営」が37.8%、「公設民営」が36.0%と各々で半々を占めています。一方、「民設民営」は全体の21.5%となっています。(図表1-1-1)

運営主体別では、社会福祉法人や学校法人は「民設民営」が半数を超え、学校法人では80.0%を占めています。(図表1-1-1)

【図表 1-1-1 運営形態 (全体、運営主体別)】

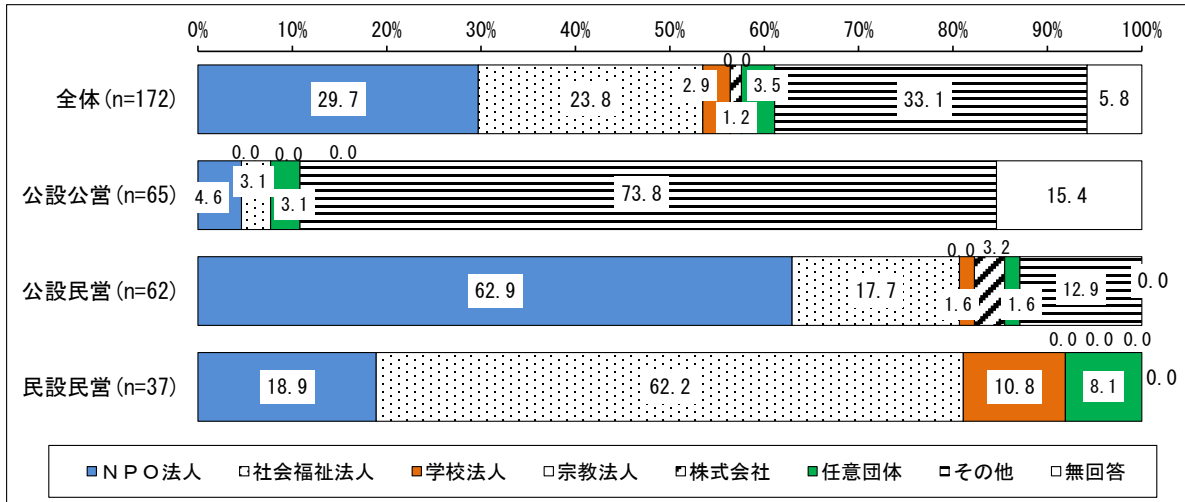


(2) 運営主体

回答団体全体では、「NPO法人」が29.7%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が23.8%、「その他」(市町村など)が33.1%となっています。(図表1-1-2)

運営形態別では、公設公営は、「その他」(市町村など)が73.8%を占め、公設民営は「NPO法人」が62.9%を占めています。また民設民営は「社会福祉法人」が62.2%で最も多くなっています。(図表1-1-2)

【図表 1-1-2 運営主体（全体、運営形態別）】

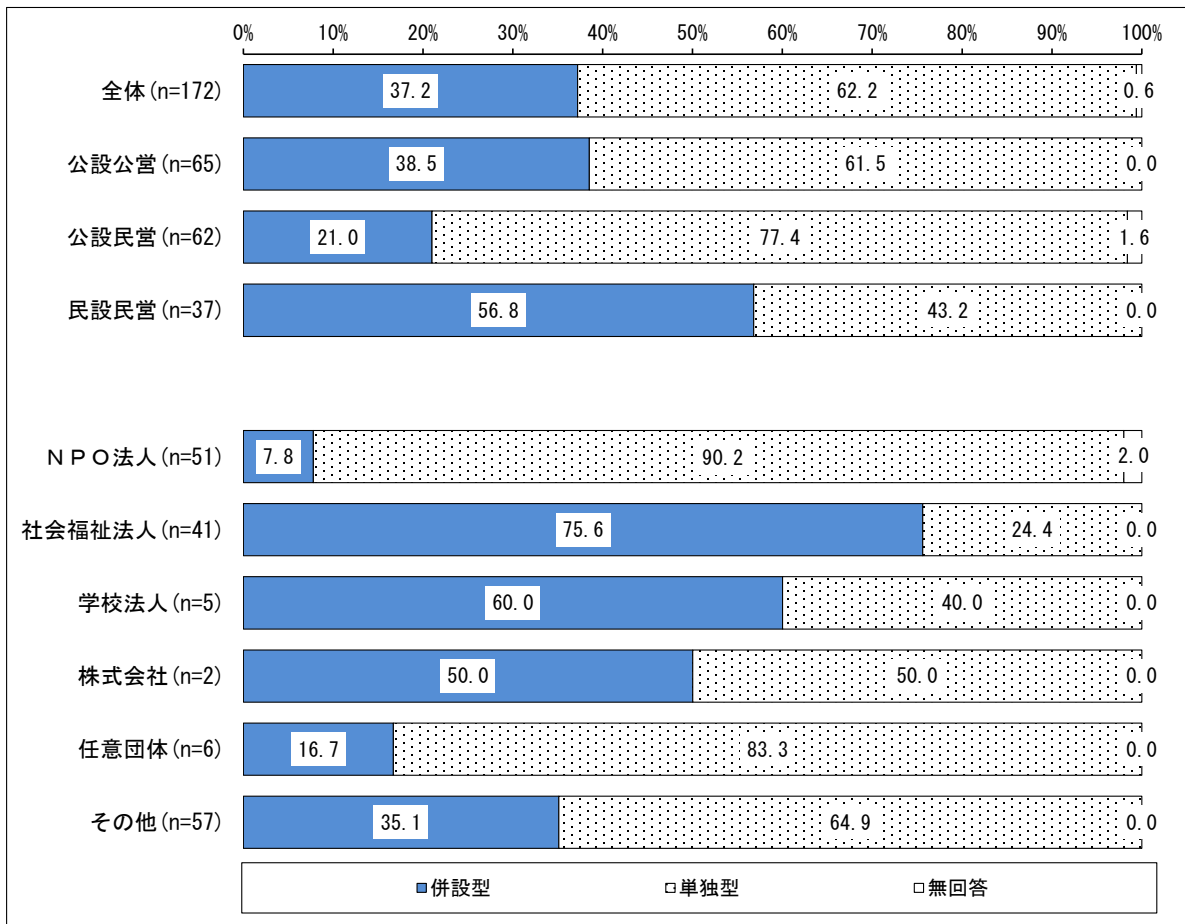


(3) 保育施設の併設状況

回答団体全体では、保育施設などとの「併設型」が37.2%に対し、「単独型」が62.2%と全体の3分の2を占めています。（図表1-1-3）

運営形態別でみると、「併設型」は民設民営で56.8%と半数を超えています。一方、「併設型」の割合は、公設で高く、公設公営では61.5%、公設民営では77.4%を占めています。（図表1-1-3）

【図表 1-1-3 保育施設の併設状況（全体、運営形態別、運営主体別）】

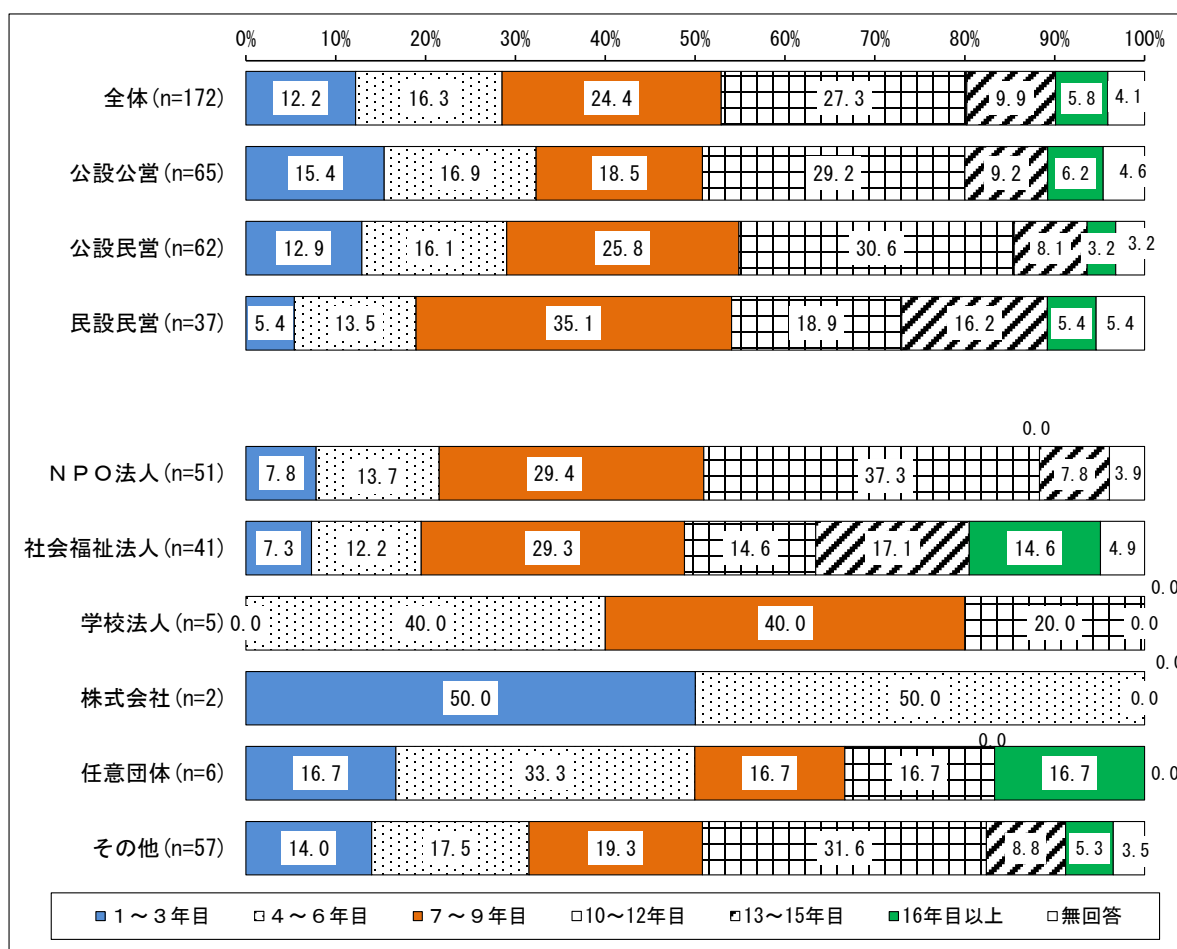


(4) 運営年数

回答団体全体では、「7～9年目」が24.4%、「10～12年目」が27.3%で、7年～12年目の団体が全体の半数を占めています。また、「13～15年目」が9.9%、「16年目以上」が6.8%と、13年以上運営している団体も2割近くとなっています。(図表1-1-4)

運営形態別で見ると、13年以上運営する団体は社会福祉法人が31.7%で、「10～12年目」(14.6%)を合わせると、10年以上運営する団体が半数近くを占めています。NPO法人では、「10～12年目」の団体が37.3%で最も多く、12年以下が88.2%を占めています。これら以外の法人についても12年以下の年数の割合が高くなっています。(図表1-1-4)

【図表 1-1-4 運営年数 (全体、運営形態別、運営主体別)】



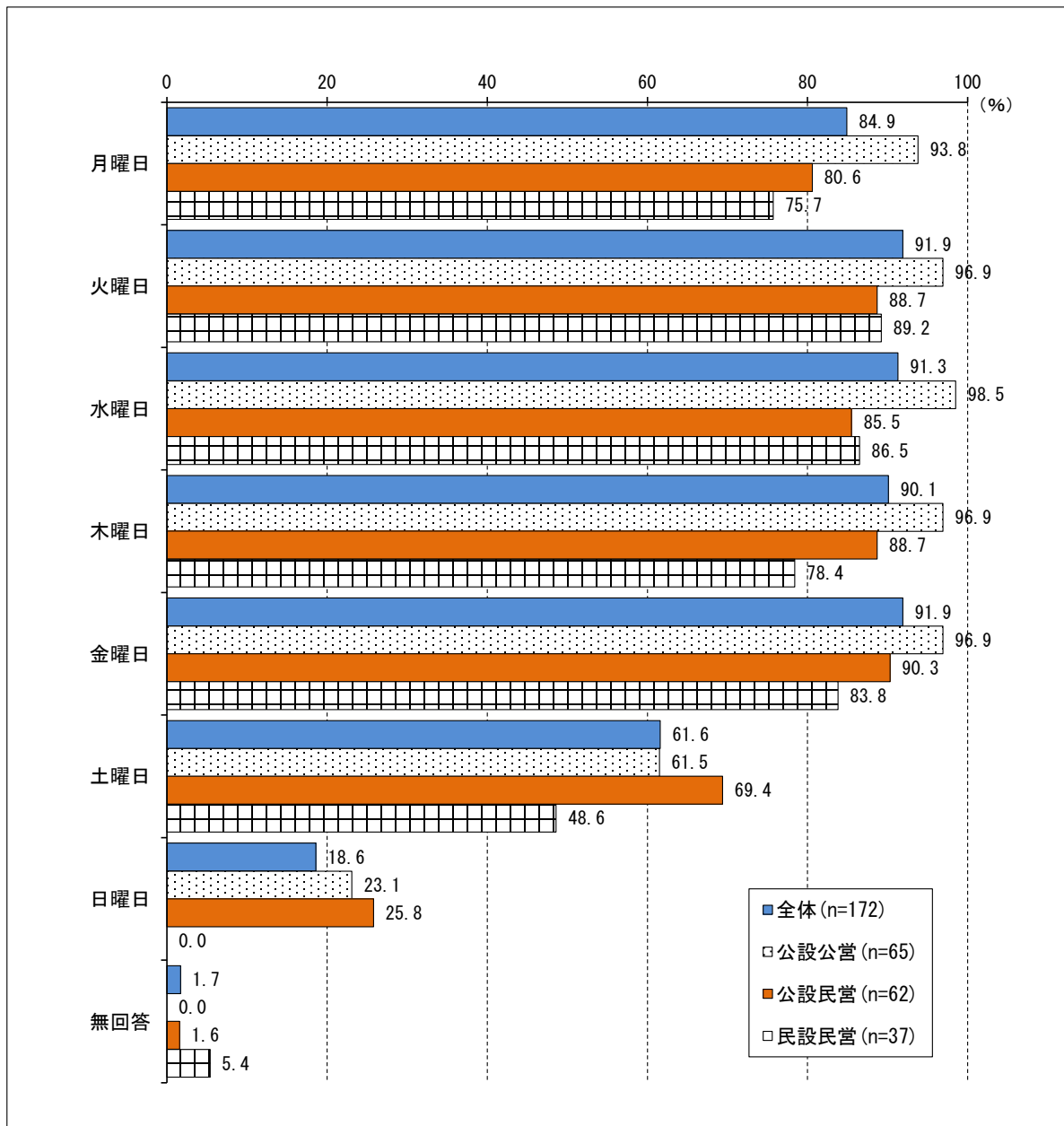
2. 地域子育て支援拠点事業の実施状況

(1) 開設曜日

回答団体全体では、月曜日から金曜日までの平日に開設する団体が8割以上を占め、「土曜日」は61.6%、「日曜日」は18.6%と、平日に比べ開設する団体の割合は少なくなっています。(図表1-2-1①)

運営形態別では、平日の開設割合は公設公営で高く、これに比べ公設民営及び民設民営では低くなっています。一方、土曜日・日曜日に開設している団体の割合は、平日に比べ全般に低くなっている中、民設民営の開設割合は高くなっています。(図表1-2-1①)

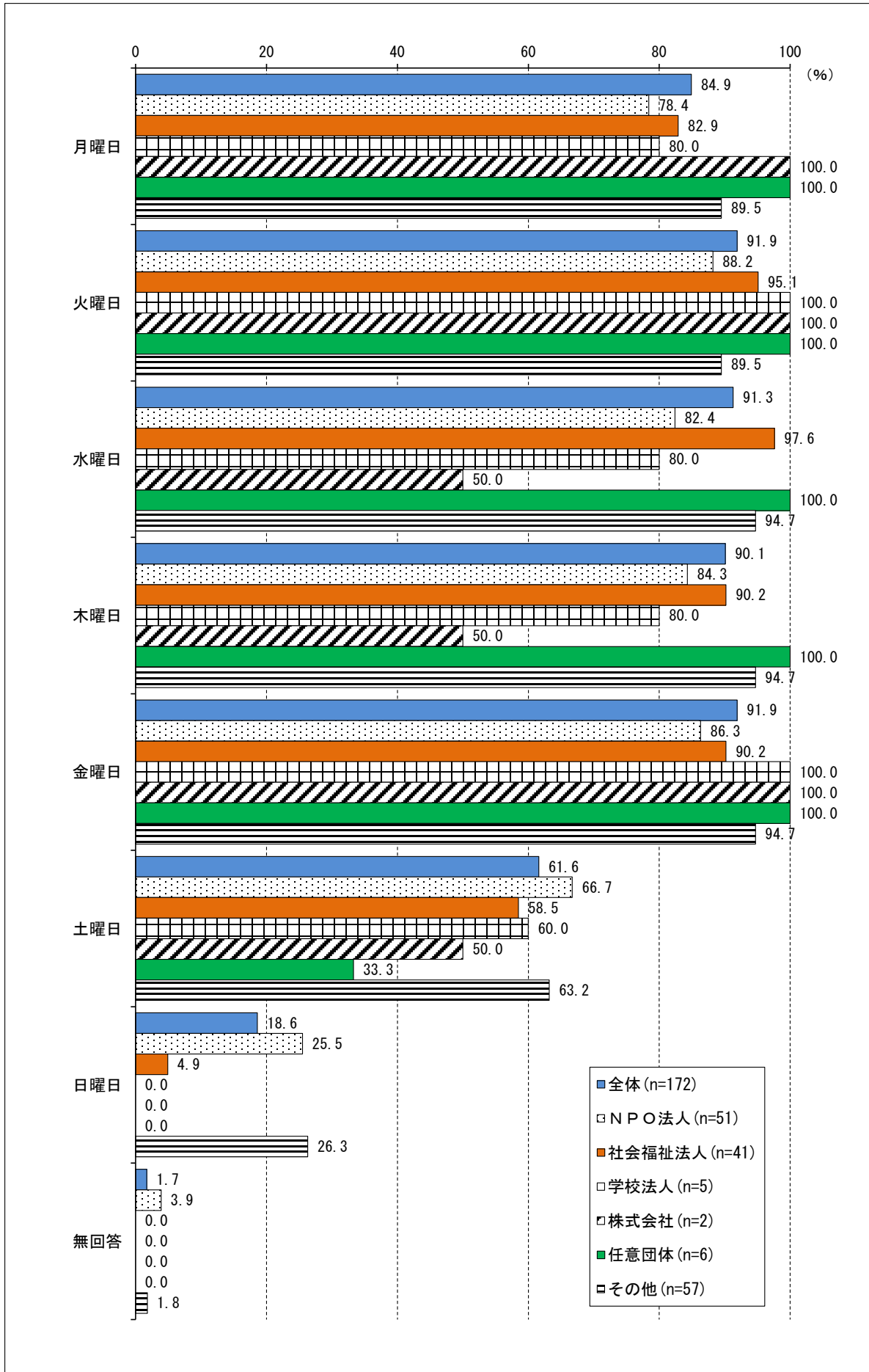
【図表 1-2-1① 開設曜日（全体、運営形態別）】



運営主体別では、平日の開設割合は各法人いずれも8割以上を占めています。

土曜日・日曜日に開設している団体の割合は、NPO法人や社会福祉法人の割合が高くなっています。(図表1-2-1②)

【図表 1-2-1② 開設曜日（全体、運営主体別）】



(2) 1日の平均利用者数（親子合計人数）

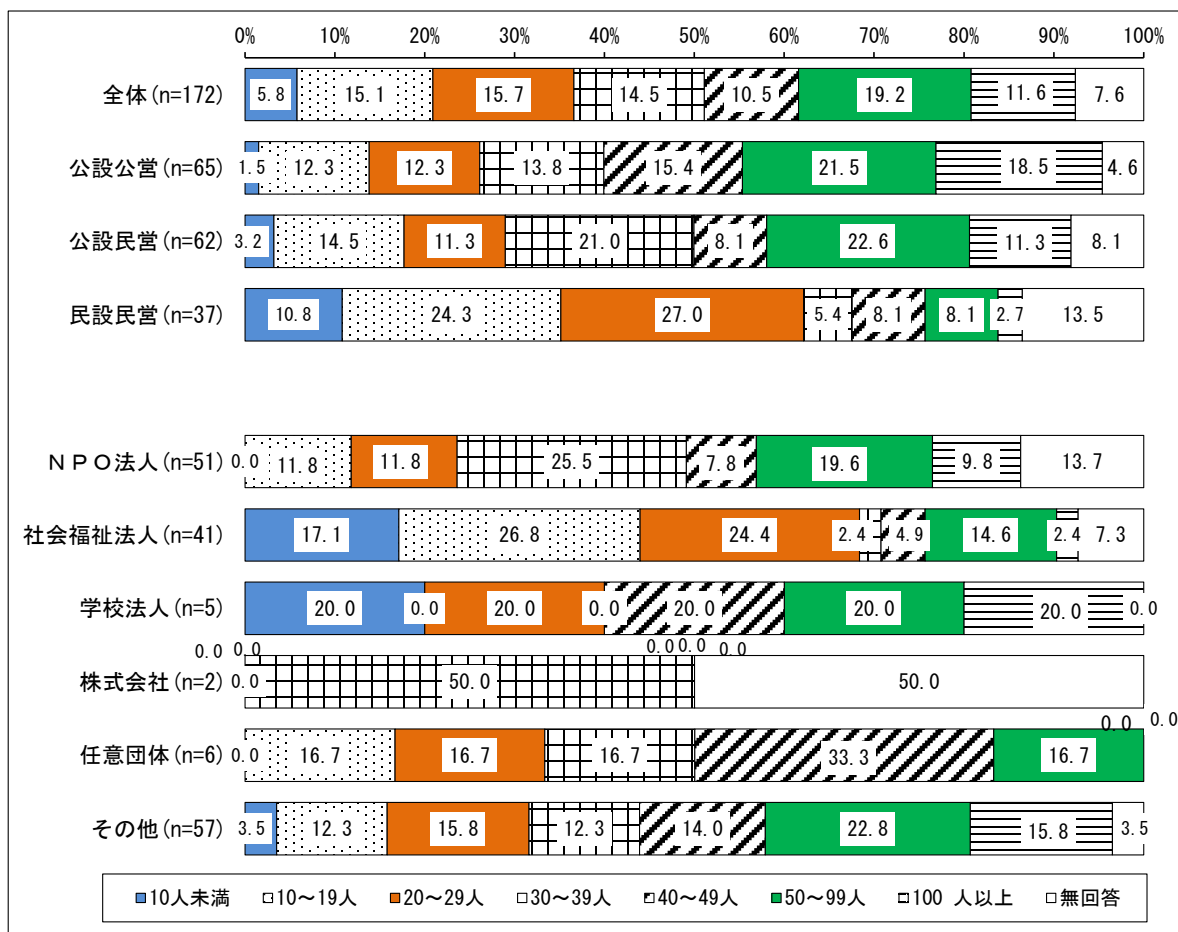
回答団体全体では、1日あたり10～39人程度の利用がある団体が45.3%と半数近くを占める一方、50人以上の利用者を受け入れている団体が30.8%で、比較的大規模な拠点を運営している団体もみられます。（図表1-2-2①）

運営形態別では、50人以上の利用者の割合は、公設公営が40.0%、公設民営が33.9%であるのに対し、民設民営は10.8%の一方、29人以下が62.1%と、公設と民設で受け入れ人数に大きな差がみられます。（図表1-2-2①）

運営主体別で見ると、NPO法人は「30～39人」が25.5%で最も多く、これに次いで「50～99人」が19.6%で、50人以上の利用者を受け入れている拠点が29.4%あります。

社会福祉法人は、「10～19人」が26.8%、「20～29人」が24.4%で、10～29人の利用がある拠点が半数を占めています。（図表1-2-2①）

【図表 1-2-2① 1日の平均利用者数（親子合計人数）（全体、運営形態別、運営主体別）】



(3) 受け入れ体制

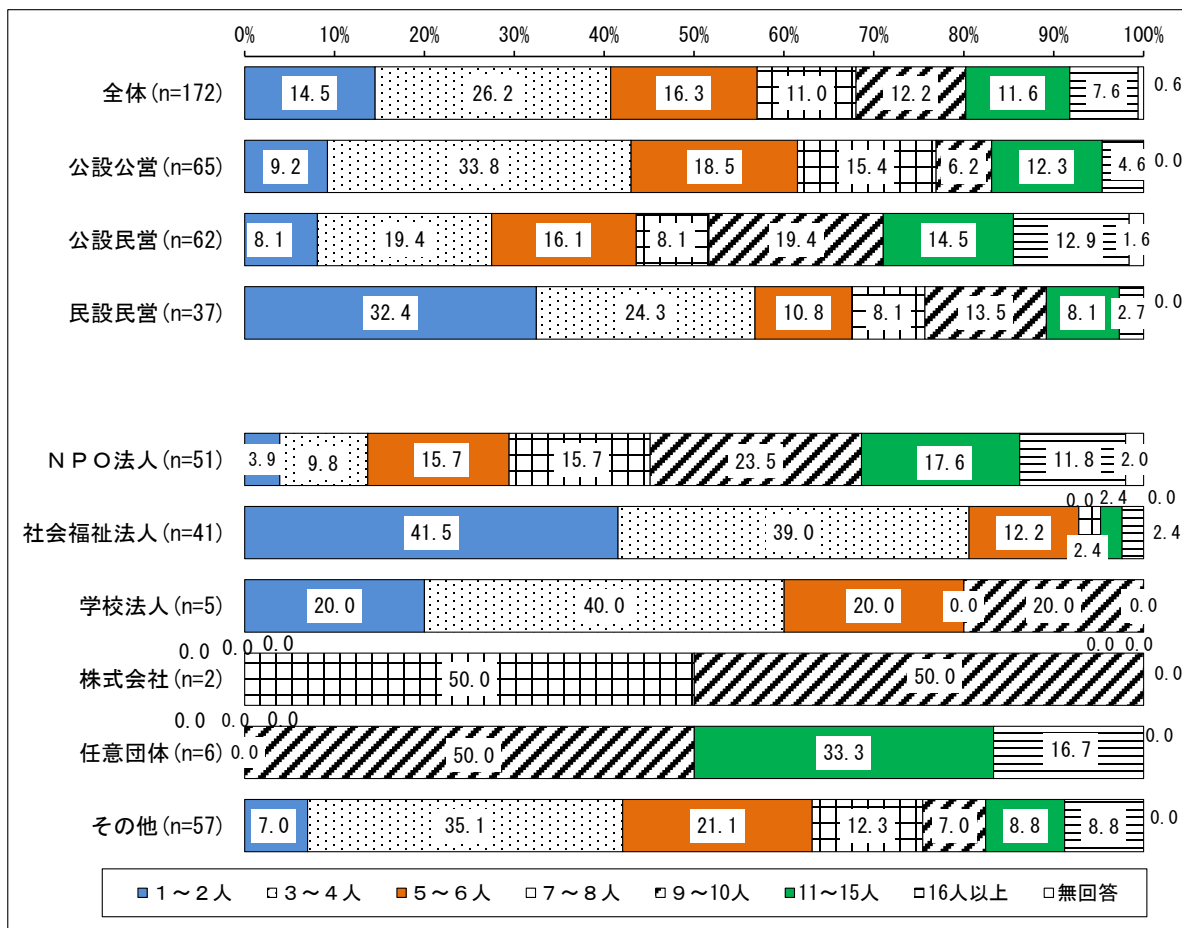
① 事業に関わるスタッフ総数

回答団体全体では、「3～4人」が26.2%で最も多くなっています。(図表1-2-3①)

運営形態別では、公設公営は「3～4人」が33.8%、次いで「5～6人」が18.5%で、3～6人程度の拠点が52.3%を占めています。公設民営は「3～4人」と「9～10人」が19.4%が多く、その他の人数分布はあまり大きな違いはなく、スタッフの配置人数は拠点により様々な状況になっている状況がうかがえます。一方、民設民営の場合は、「1～2人」が32.4%で最も多く、次いで「3～4人」が24.3%で、4人以下が56.7%を占め、受け入れ人数が比較的小規模であることに比例してスタッフの配置人数も少なくなっています。(図表1-2-3①)

運営主体別でみると、NPO法人は「9～10人」の23.5%を山にその前後の人数が多くなっていますが、社会福祉法人や学校法人は4人以下の割合が半数以上を占め、法人間でスタッフの人員体制に違いがみられます。(図表1-2-3①)

【図表 1-2-3① 事業に関わるスタッフ総数（全体、運営形態別、運営主体別）】



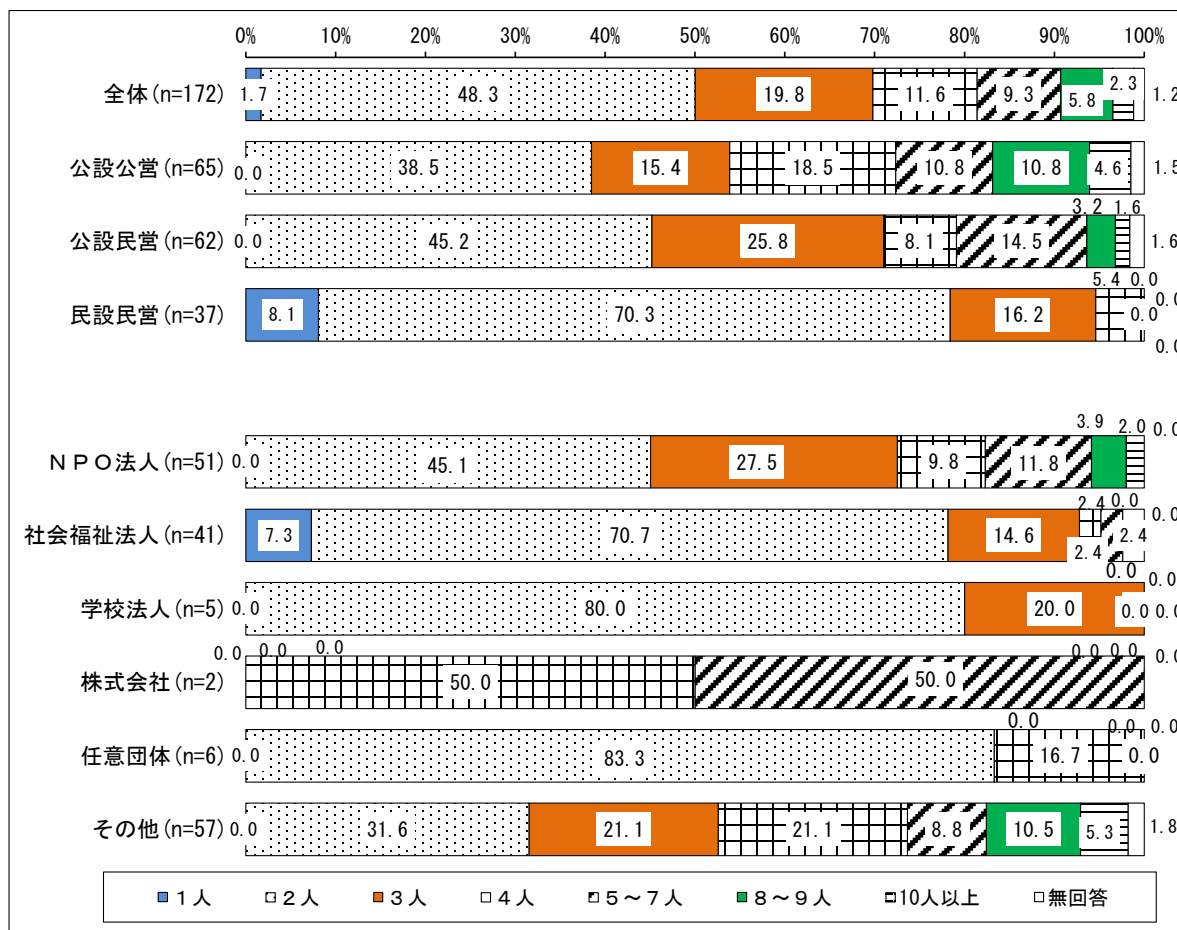
② 1日あたりの配置スタッフ数

回答団体全体では、「2人」が48.3%で最も多く、次いで「3人」が19.8%となっています。(図表1-2-3②)

運営形態別では、公設・民営とも「2人」が最も多く、特に民設民営は70.3%と公設に比べ高くなっています。公設の場合は、公営・民営とも3人以上配置している拠点が1割前後あり、民設民営に比べ1日あたりの配置スタッフは充実しています。(図表1-2-3②)

運営主体別でみると、株式会社を除く法人では「2人」が最も多く、特に社会福祉法人・学校法人の割合が高くなっています。これら法人に比べ、NPO法人では3人以上の各割合も高くなっており、法人により配置スタッフの充実度に違いがみられます。(図表1-2-3②)

【図表 1-2-3② 1日あたりの配置スタッフ数（全体、運営形態別、運営主体別）】



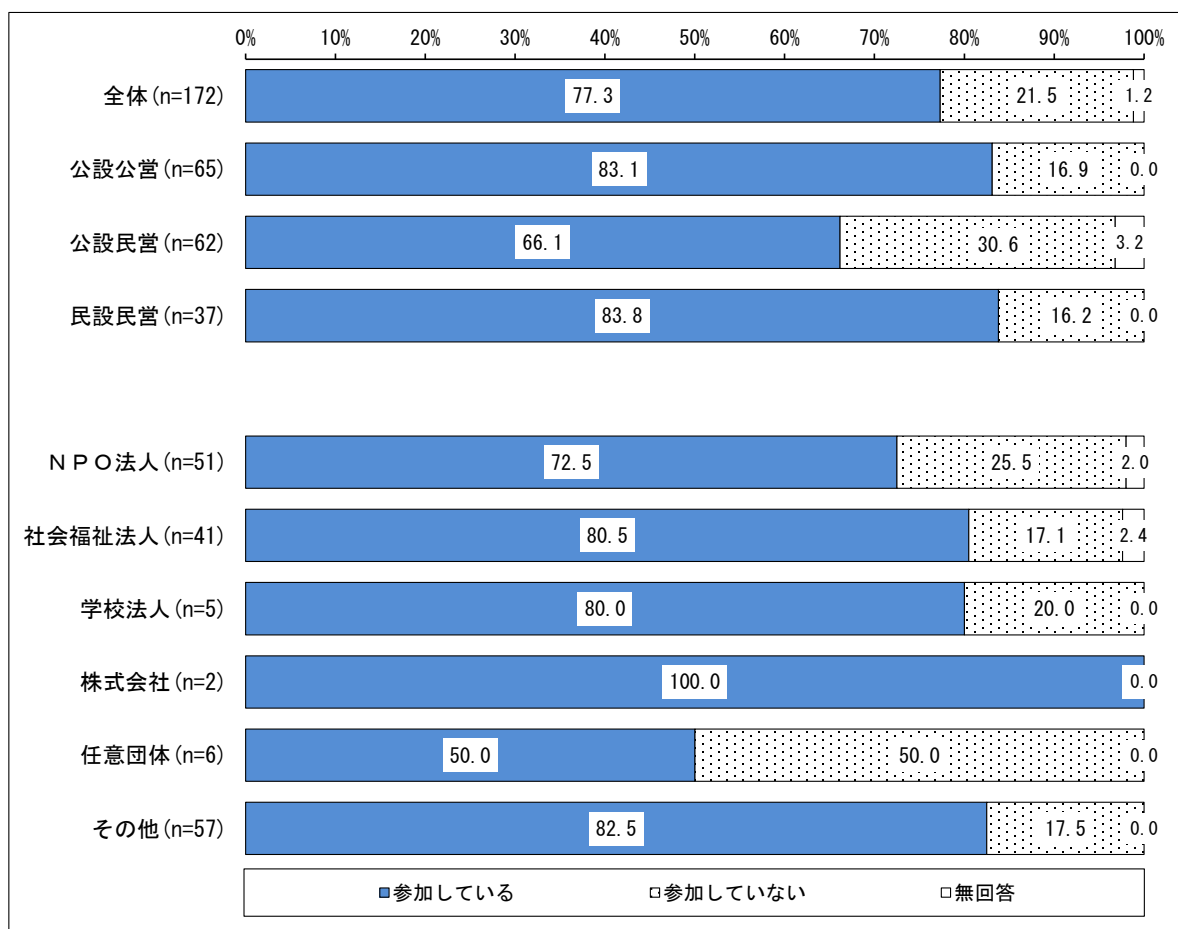
(4) スタッフの有給での研修への参加状況

回答団体全体では、有給で研修に参加している団体は77.3%に対し、有給で参加していない団体は21.5%となっています。(図表1-2-4)

運営形態別では、有給で研修に参加している割合は、公設公営と民設民営が8割を超えているのに対し、公設民営は66.1%で低くなっています。(図表1-2-4)

運営主体別でみると、任意団体を除く法人では、有給で研修に参加している割合のほうが高くなっています。(図表1-2-4)

【図表 1-2-4 スタッフの有給での研修への参加状況（全体、運営形態別、運営主体別）】



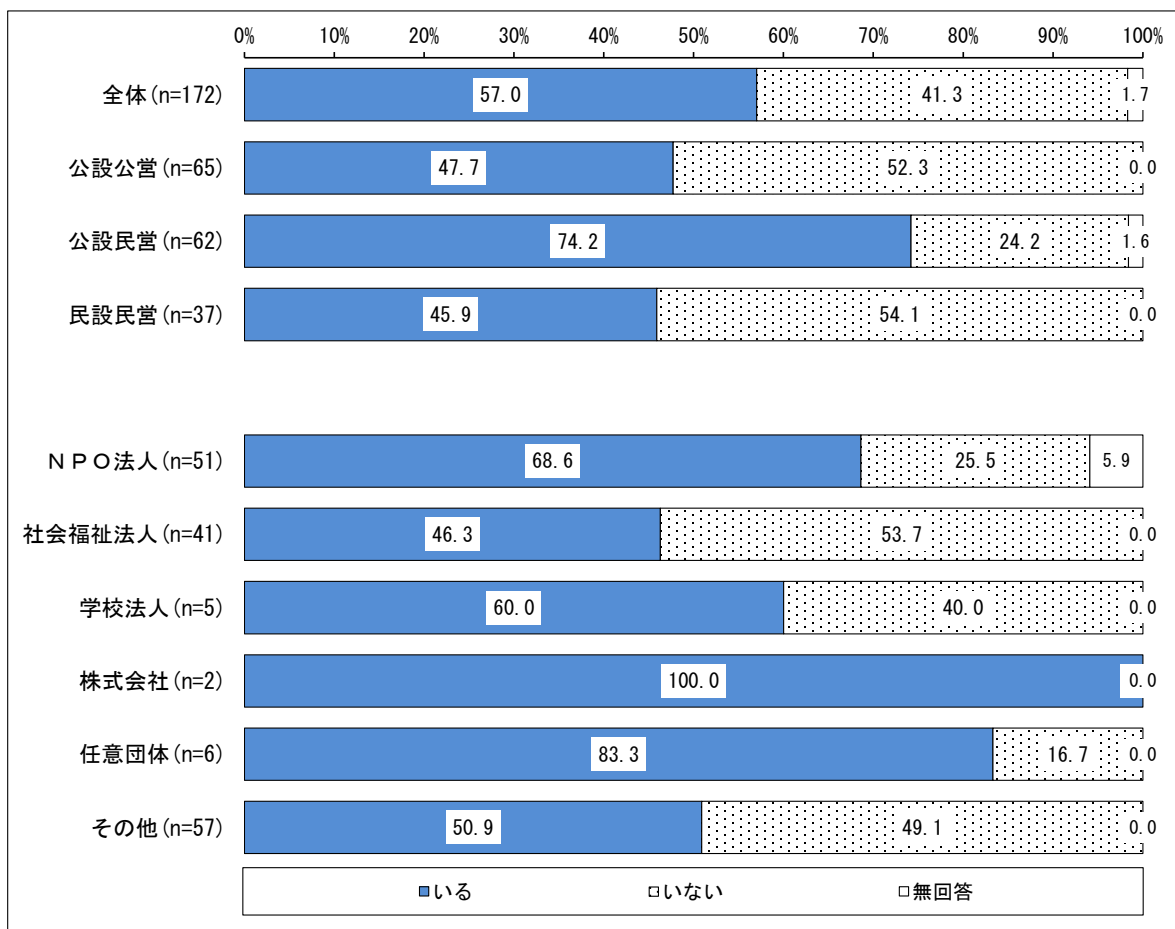
(5) 継続的なボランティア活動に参加している人の状況

回答団体全体では、継続的なボランティア活動に参加している人の割合は57.0%と半数を超えています。(図表1-2-5)

運営形態別では、公設民営で継続的なボランティア活動に参加している人の割合が74.2%と高くなっています。(図表1-2-5)

運営主体別では、NPO法人や学校法人、株式会社、任意団体で継続的なボランティア活動に参加している人の割合が半数を超えています。(図表1-2-5)

【図表 1-2-5 継続的なボランティア活動への参加状況（全体、運営形態別、運営主体別）】



(6) 利用者が拠点内で昼食を取ることを認めている状況

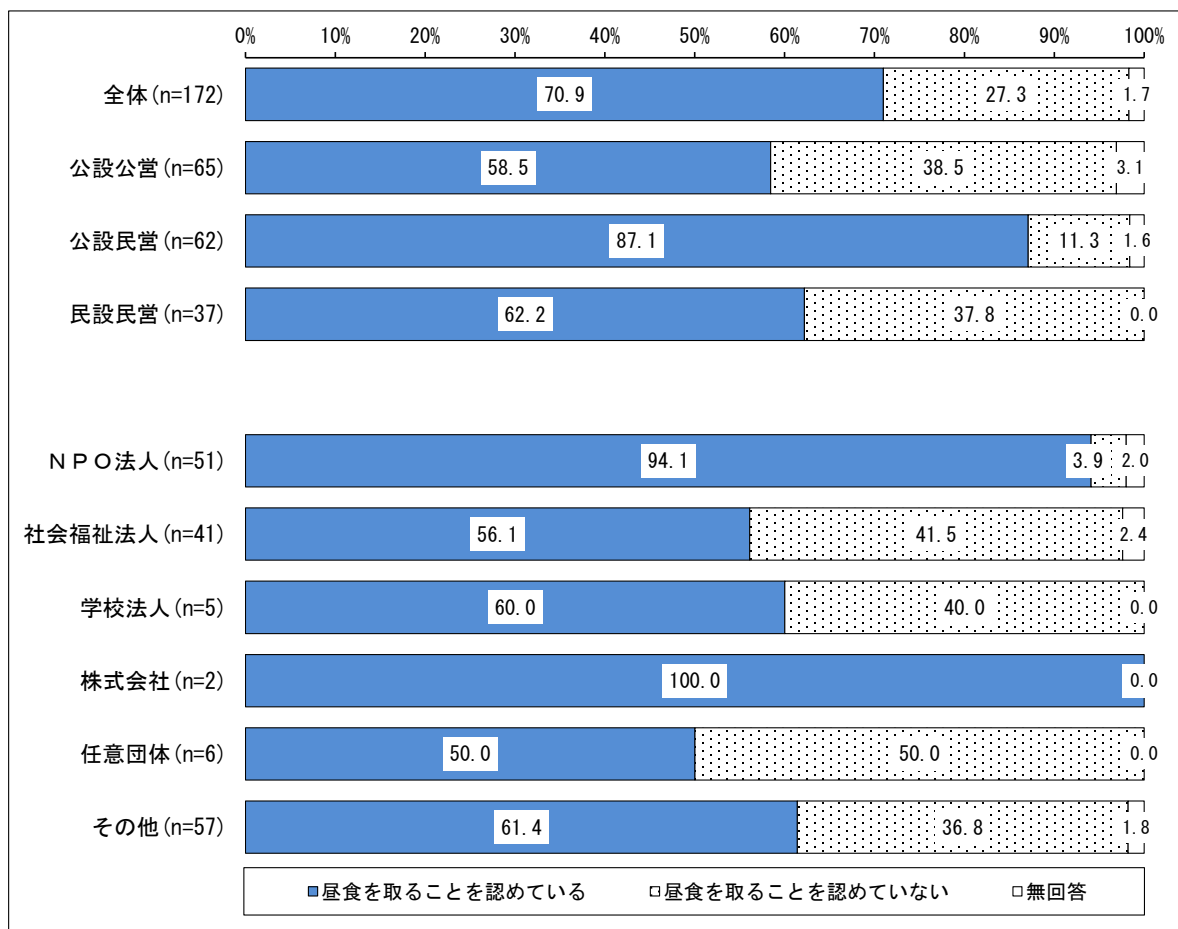
回答団体全体では、70.9%の拠点が利用者に拠点内で昼食を取ることを認めています。

(図表1-2-6)

運営形態別では、公設民営で認めている割合が87.2%と高くなっています。(図表1-2-6)

運営主体別では、NPO法人では94.1%が利用者に拠点内で昼食を取ることを認めています。それ以外の法人でも半数以上が認めています。(図表1-2-6)

【図表 1-2-6 利用者が拠点内で昼食を取ることを認めている状況(全体、運営形態別、運営主体別)】



3. 拠点で利用者同士のつながりづくりのためにしている工夫

(1) 利用者同士がつながるための工夫

回答のあった172団体中、具体的な記述があったのは158団体で、次のような内容となっています。

<ul style="list-style-type: none"> ・親子遊びやベビーマッサージ等を通じて、利用者間の交流あり。
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日々顔を合わせ、名前を呼び、昼食を一緒にテーブルでいただく。 2. 月一回利用者同士の行事予定、役割分担等自主的に行う。 3. 月に1～2回困っていること等グループワークを行う。 4. 先輩ママもどんどん来てもらい、地域への顔つなぎをスムーズに行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんをつなげるために初利用の人は必ず紹介するようにしている。 ・保健師さんに手紙を出してもらって、ひろばで交流会を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとの座談会を実施。その時に先輩ママとして参加してもらっている。 ・利用者に「〇〇の話ができる」等の名札を着用してもらい、利用者同士の話のきっかけにしよう。
<ul style="list-style-type: none"> ・母子分離の行事（料理教室やヨガ等）を開催 ・年齢層別のママ、県外から来られたママのサロンを毎月1回開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・寝返りをする前の子どもを持つ母親の集まり）、NP講座等を開催し、グループづくりの支援をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべり広場、だっこ講座などの開催 ・刺繍、ベビーマッサージなど有料の企画をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・つながりの場としての支援センターであることがひとつの目的なので、来てもらうことで、まずはつながりの機会ができています。さらに、実施している活動（例：食講座で一緒に調理する）の中で、つながりの場を作っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・普段の会話の中から、利用者同士がつながれる何かをキャッチして、橋渡しをしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・名札の着用。名札は月齢別に色分けしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しめるふれあいタイム。講座などを開催し、親しくなられた利用者同士で動物園に行ったり、食事をしたり、ママ友を広げている様子。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の得意分野を表面化してもらい、共有時間を設置してあげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・親子交流の場とし、体験学習（例：みんなでクッキング、芋掘り、おやつ作りなど）行事をする。みんなで散歩に行くことや、砂場で一緒に遊ぶなど、一緒に楽しく過ごすことで交流を深める。
<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん向け教室を通じて、つながりを作る。 ・NP お母さんひろば ・NP お父さんひろば
<ul style="list-style-type: none"> ・初めての方の利用のときは、年齢や住まいの近くの方同士を話がはずむまで仲介したり、悩み等が出たときは、〇〇さんはどうですか？と振ってみる等。
<ul style="list-style-type: none"> ・12か月の四季を通じて、制作をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・出張ひろば、月1回2ヶ所 ・リサイクル品のやりとり ・妊婦からの0歳親子が集まる時間、ファミリーで集まる日の設定 ・同年齢、同郷などをきっかけにつなぐ（その他共通の悩みごとなど）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 歳児、1 歳児、2 歳児の親子向けのサロンの実施 ・ 子育てサークル育成及び活動支援 ・ ママ講座として、保護者の得意としていることを他の利用者へ伝える事業の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規利用者のための交流会実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援センター内での活動のあとに職員が育児相談等の話を受ける中で、同じ悩みをもつ母同士なら話題をふるなど介入し、母同士で話せるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施日には、担当保育士が遊びの提供をしており、個々の親子でふれ合う遊びだけでなく、他の親子とも触れ合えるような遊びの提供も工夫している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者同士でサークルを立ち上げている。 ・ 年齢別の日を設け、年齢、月齢の近い親子が過ごせる場を提供している。 ・ 近隣の幼稚園の行事に参加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠足、運動会、リトミック、スイミング等の行事をし、利用者同士が関わったり、交流できる工夫をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ お互いが困ったことを話し合う時間を設けている。 ・ はじめての方の紹介 ・ 幼稚園に入園した子のママたちが幼稚園の紹介
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者さんの座談会をイベントに組み込む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの企画など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月決まった日時に子どもを遊ばせながら利用者同士（プレママも含む）の交流 ・ 参加者を募り、グループ活動を通して親子の交流を図る
<ul style="list-style-type: none"> ・ わらべうたの日、ベビーマッサージ、骨盤ケア、パパ講座、ふたごちゃん&みつごちゃんの日、育児講座、転勤族ママの日、みつごちゃんデー、外国人ママの日
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週金曜日の「お楽しみの日」や季節の行事、運動会など交流の場を設ける ・ 一緒に外に出る（野菜市めぐり、水族館、いちご狩りなど） ・ 運動したり、勉強したり、一緒に学ぶ機会をつくる（キッドビクス、ベビーマッサージ、音楽遊び）など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを連れていける場所の案内などを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の話題やつながりをつくるために、最小限のさしさわりのない個人情報（たとえば住んでいる地域や出身地）などをとりあげて、話題提供したり、共通の悩みを話題にしたりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 座談会、0 歳児ミニ教室、1 歳児ミニ教室などで同年齢の人とつながる機会。自由時間もスタッフが入って、利用者さん同士をつなげるように努めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サークル活動 ママサークル活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ ベビーマッサージなどのミニ講座をしている
<ul style="list-style-type: none"> ・ サークル活動（2 種）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「初めて利用の方の日」を設け、初めての方でも来ることがしやすい日程設定。 ・ 利用者（継続的）の方は新規の方への声かけをお願いしたりする雰囲気づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 月齢、住所での話題を投げかけ、共通の話につながるようにしたり、0 歳児あつまれおしゃべり広場を設け、早い月齢でのつながりを作る働きかけをしている。公園案内で外でも遊べる場所を紹介している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 名札に名前・生年月日・地域などを記入して付けてもらう。利用者同士で声をかけたり、支援者が間に入り、言葉かけをしてつなげています。

<ul style="list-style-type: none"> ・初めて利用する方、また来所して間もないという生後6カ月くらいのお子さんを対象に、子育て中でうれしかったこと、困ったことなどを皆で（8～10組くらい）話し、共感し合い、利用者同士がつながり合っているプログラムを企てている。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員が利用者同士をつなぐように心がけている。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンを実施し、交流につなげている。 ・広場内で、スタッフが声かけを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・サロンに保育士が午前・午後1時間常駐している ・年齢別の広場等で、保護者の方の交流をすること
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークル育成の実施 ・その他セミナーの実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ひろば→幼児グループ活動へ→小学生として活動できることをお知らせする。幼児グループ活動から利用者同士のグループ作りへとつなげるように働きかける。
<ul style="list-style-type: none"> ・手作りコーナー（母親向け）等準備し、お互いに教えたり、教えあったりして、自然に会話ができ、仲間づくりのきっかけになるようにしている。（小物、かご作り、デコパージュせっけん等） ・昼食の時間は重要。食事を一緒にとることで、仲よくなれる。子どもへのお弁当作りについてお互いの情報交換の時間になっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひろば内での講座、講演会の参加によるつながり
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と一緒に行事。行事を職員と一緒に作りあげている。サークル支援 ・予約制のプログラムをテーマごとに設定。（発達、療育、0才児育ち、きょうだい児育て等） ・予約なしで自由参加の場の設定（0才児育て、絵本大好き、双子・三つ子育て等） ・定例プログラム（おはなし会、わらべ歌等）
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別の講座を毎月計画している。 ・自主サークルを月2回利用している
<ul style="list-style-type: none"> ・講座などに参加した親子が継続して月1回集まり、子育ての悩みなど話ができるようにサークルを作るように声かけをしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動を週1回設定している。
<ul style="list-style-type: none"> ・同じメンバーで4回あつまる講座を毎月している。
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに参加していただき、会話のきっかけを作ったり、スタッフが雑談を交えながら利用者同士と話をしたりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの月齢、年齢で集う講座を開き、話すきっかけづくりにスタッフが加わる。 ・常にスタッフが利用者の中において、話を聞いたり、他の親子紹介を積極的に行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・名札をつける。 ・初めての利用者は、みなさんにご紹介する。 ・同じくらいの月齢の親子をご紹介する。 ・対象を絞った「しゃべり場」などテーマを設定し、悩みを交流したり、取り組みを工夫している。
<ul style="list-style-type: none"> ・行事などを通して交流を深めたり、スタッフが仲立ちしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・同じくらいの月齢の子ども同士の親を紹介する。 ・名札を付けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・BPプログラム ・高齢者とのふれあいとお誕生会 ・交流を含めた講座（茶話会、おやつ作りなど）
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士の交流を目的とした講座を開催（例 転入者向けのピアサロン、1歳児・2歳児あつまれなど）
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士に共通の話題を提供して、きっかけ作りする ・拠点に来れば安心できる環境づくりに心がけて、孤立感を持たれないように声かけに努める
<ul style="list-style-type: none"> ・外へ出かける機会が少ない年齢の子どもとお母さんを対象にして、ストレッチのワンポイントレッスンやティータイムを通してお友達づくりをするベビママタイムを実施。 ・親子で集まり、おしゃべりをしながら趣味の手芸を楽しむ部活動を実施 ・預かりっこ
<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を行ったり、情報交換の場を設ける
<ul style="list-style-type: none"> ・ママスタッフ（サークルのようなもの）参加者を募り、利用者の方々に運営、開催できるように支援している。（会への助言、参加、場所提供等）
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルを作ることや個人が仲よくなれるような声かけ ・様々な行事（参加することで、つながりを作れるよう工夫した行事） ・出産前からのつながり作りのためにプレママセミナーの開催
<ul style="list-style-type: none"> ・企画（製作・クリスマス会 etc）を多く取り入れている。その企画も製作などでは年齢別にし、ふれあいがたくさん持てるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・日常のひろばの中での支援者のつながる工夫（コーディネーター的役割） ・親たちの自主活動＜自分たちで何かに取り組む中で①つながりをつくる、②みんなのために力を発揮する、③親自身が支援センターをつくっているという思いを育てる＞ ・親たちがリーダーとなり、同世代の人たち同士の会を進めつながりをつくる
<ul style="list-style-type: none"> ・親子遊びを通しての交流 ・自由に利用できるスペースに、職員が時折入り、お話会やお茶会をする
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフがつながるための声かけ ・年齢別、同級生がつながる限定日 ・親子遠足 ・料理体験 ・青空保育 ・出前保育（地域へ） ・年齢別おはなし会 ・BPプログラム
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者有志のお楽しみ会などを開催し、そこで出し物の企画、練習を通じてつながりを持ってもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のお子さんの月齢、年齢、住んでいる地域、共感できそうな人など、共通点のある人同士をスタッフがつなげるようにしている。また、同じような関心のあるテーマで集まれるようなプログラムを実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターの行事の時など、お手伝いをお願いしたり、母親講師として得意なこと、また、元の職業を活かしたことなどを講習会等で他の親子に披露していただく。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけではなく、親の親睦を目的としたおしゃべり会や手芸の日などを設置している。

<ul style="list-style-type: none"> ・ピアカウンセリングの効果を評価し、個別の日常的な課題について、日常的に話し合う時間・場を設けている。 ・体験活動の機会を開設日毎に設け、活動を通じて、交流しやすい雰囲気を創出している。 ・名札を付けて、外見から同年齢などの情報が読み取れ、会話のきっかけづくりを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望を考慮して、活動内容を決めたりしている。 ・年齢別交流、運動会、クリスマス会、収穫祭などの行事に参加し、クリスマス会では利用者が参加できるコーナーを作り、みんなで楽しめるようにしている。利用者同士でサークルを作り、定期的に活動している。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士で連絡先の交換をしている。 ・雑談をできる雰囲気を作る。 ・行事（体操、ベビーマッサージ、遊び広場、公園遊び）等
<ul style="list-style-type: none"> ・同学年のつどいを月1回開催。イベントの際は、お母さん方のお手伝いをお願いし、自然と会話がうまれるようにしている。 <p>スタッフが開放に入り、利用者さんから質問があったときは他の方に振るなど会話が広がっていく工夫をする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を把握し、必要に応じてさりげなくつないでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動 ・あえて、年齢（学年）に合わせた自由開放（0歳児、2歳児以上、1歳児～の3パターン）
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、子育て座談会やベビーマッサージ、うたサークル等を行い、交流の場としている。 ・年に数回、パン教室、フラワーアレンジメント講座、歯みがき講座等を行い、交流の場としている。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの名前と月齢をシールに記入し、お互いに声をかけやすくしている。 ・月齢の近い子の親同士をスタッフが紹介して繋がれるようにしている。 ・離乳食や卒乳など困っていることがある人がいたら、他の方に声をかけ情報もらえるように。
<ul style="list-style-type: none"> ・自由参加制ではあるが、午前中のみ曜日による参加対象年齢を決めていることが利用者同士の輪を広げ、つながりを深めている
<ul style="list-style-type: none"> ・サークルさんへの育成支援 ・ネットワーク作り
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを使って自由に書いたり、見たり、コメントしたりする。おすすめの店、育児の悩みなど内容は自由。
<ul style="list-style-type: none"> ・料理をする企画を実施 ・製作をする企画を実施 →利用者同士のコミュニケーションを図る ・日々園を開放し、交流できる場を設けている
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合わせた行事を開催しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者をみんなに紹介するなど、つながるきっかけをつくる。（住んでいる地域が近い、子どもの月齢が同じなど、お互いの共通点を引き出しながらつながるきっかけを作りだす）
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なイベントを企画している。

<ul style="list-style-type: none"> ・子育て講座（Nobody's Perfect）などを通して、利用者同士がより親しくなれるような講座の企画。 <p>新しい方と以前からの利用者の共通項をみつけてつながるような声かけ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・様子を見ながら声かけ。（・初めて同士の方 ・保育所や幼稚園等のことで悩んでいたり、子育てのことで悩んでいる方に、上の子がいる方にこのようなときはどうだったかと声かけすることもある） ・ランチルームがある
<ul style="list-style-type: none"> ・職員を仲立ちに、共通点のある会話などから・・・ ・イベントのおしゃべり（フリートーク）の時に <p><あえて設定したという風にならないように自然な流れ、形を意識して行っています></p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自主サークルのお手伝いをして仲間づくりのサポートをしている。 ・新しい方が利用しやすいよう、他の方への紹介や保護者講座の開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に見守られている空間の中で、利用者同士が話しやすいよう声かけをしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・共通の話を投げかける。 ・お母さんが一人にならないよう、座る位置など気を付ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・名札に居住地（町名）を記入し、近くに住んでいる人がわかるようにしている。趣味の話やオススメカフェ、おでかけスポットなどの話題を提供し、ひろばで仲よくなった親子が地域に出ていきやすくなるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・親子で交流が持てるような空間、雰囲気作り ・同年齢など、相手の共通点を伝えるようにし、紹介する ・みんなで見守るような体制づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・NP 講座、BP 講座や親子講座を企画している。 ・スタッフが利用者同士の橋渡し等をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ、自発的に活動したいことがある場合の支援（バンド、フリマなど）
<ul style="list-style-type: none"> ・一人でくる方が多いので、スタッフが声かけをしてつなげている。 ・学年ごとに名札の色を変えて利用者同士がつながりやすいようにきっかけを作っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・親子サークルの開設 ・おまつり、クリスマス会など ・パパと一緒に参加してもらおう戸外での活動（パパ広場） ・講習会 ・多胎児交流会開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・初めての来所者や市外からの転入者など、友達や知り合いがいない親子には職員が声をかけ、他の利用者とのつながりが持てるように橋渡しをする。 ・年齢ごとの色分けの名札を付けることで、同年齢同士のつながりが持てるようにする。 ・赤ちゃんタイムやファミリーデーなどのプログラムを用意して、赤ちゃんを持つ親子やマタニティ、父親や祖父母がつながる機会を作る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひろば内でイベントをする ・スタッフが仲介して、おしゃべりをする（初対面同士）
<ul style="list-style-type: none"> ・施設内で、育児サークル、ベビーマッサージを行ったり、家庭的な雰囲気の中で、お母さんたちには、友達づくりの場となるよう声かけ・支援を促している。

<ul style="list-style-type: none"> ・初めて来られた利用者さんを、他の利用者さんにご紹介したり、一人の利用者さんのお話を他の利用者さんにつなげたり、子どもさんの遊んでいる様子から、お母さん同士をつなげています。また、何かひとつのテーマでみなさんにうかがって、みなさんで話してみたり、いろいろな講座の中で子育てを考える機会をもつ工夫をしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・行事・講座を通じて、利用者同士が親しくなるよう、交流を促しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・0～3歳をもつ親子の集まりを開設（BPプログラム、あそびの部屋、お話会など）し、情報交換できるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・同じような情報を求めている人がいたら紹介。家が近そうな人
<ul style="list-style-type: none"> ・共通点（子どもの月齢・年齢や母親の出身地等）がある保護者を紹介する。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園施設と併設のため、園行事に参加したり、支援センターでも事業を組んでコミュニケーションがとりやすい工夫をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期のマタニティサークル（全3回）の開催を通してグループ作り。NP（ノーバディーズ パーフェクト）講座（全6回）の開催を通して、以後自主サークルとして活動。ベビーマッサージ教室（全3回）での仲間作り。
<ul style="list-style-type: none"> ・同年齢の子どもを持つ親同士で、自分たちがやりたいサークルを作って活動している。
<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児、2～3歳児の集まる日を企画する
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士でのお茶の時間をとっている
<ul style="list-style-type: none"> ・同年齢の子どもをもつ親や、同地域からの利用者を紹介し、話の輪に加わりやすいよう配慮し、行事への参加や協力を依頼しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・1人で来所の方には、同じ月齢の子どもを紹介して、一緒にお話する機会を作るなど、スタッフが間に入ることで利用者同士がつながっていけるように配慮しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日30分程度、絵本、紙芝居、製作、ふれあい等の遊びの時間を設定して、利用者同士が集う機会を作っています。楽しく交流されています。
<ul style="list-style-type: none"> ・月齢が近いお子さんや、住んでいるところが近い等、コミュニケーションがとりやすいように教えてあげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域への活動内容のおたより配布 ・地域の公的な施設におたよりの掲示と配布
<ul style="list-style-type: none"> ・同年齢の子の集まる会を開催（1歳6ヶ月までの子どものサロン） ・1歳6ヶ月健診後の気になる親子の会を開催
<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動の支援（場所、おもちゃの貸し出し） ・利用者をボランティアとして登録する
<ul style="list-style-type: none"> ・共通の話題作り ・先輩ママの体験談を伝えてもらう
<ul style="list-style-type: none"> ・0歳だけの自由遊び ・ママの講座（5講座×2回）
<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢に応じた講座の開催
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の様子を見ながら、同年齢の子ども同士、母親同士のつながりが持てるように、スタッフが声がけをする。 ・子どもの名前、年齢がわかるように名札を付けてもらい、呼び合えるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2～7か月の赤ちゃん対象の講座を実施して、初めの子育てをする母親同士の友達作りのきっかけとなるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年代に合わせてプログラムを構成し、関係づくりを促す。 ・ 赤ちゃん向けママの会、外あそび中心の会 ・ 固定メンバーで継続するプログラムをもつ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢別（月齢別の場合も）で、活動する日を設けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児の保護者対象のおしゃべり会、1～2歳児の保護者対象のおしゃべり会 ・ スタッフが1人で来ている利用者同士をつなぐ努力。 ・ ノーバディーズパーフェクトやBPなどの講座の開設
<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子遊び実施の際、情報交換等の場と一緒に参加し、子どもだけでなく、大人（母親）も友達づくり支援している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てサロン内で実施する講座・相談等で利用者同士がつながるきっかけとなったり、初めて参加の利用者等のニーズに合わせて利用者同士がつながるように配慮している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、午前中は企画した小イベントがあり、保育士（支援の専任）がお母さん方のつなぎ合いを促します。また、企画に利用者にも参加してもらったり、自ら講師になってもらうなどしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子に名札を付け、月齢も記入してもらい、同じ月齢で利用者同士、話しかけやすいようにしている。 ・ アドバイザー（スタッフ）が利用者同士の共通点を見つけ、言葉がけをしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 母親達の自主運営の会。父親達の自主運営の会。 ・ ママスタッフ 10名前後で年1回の情報誌の作成。毎月の手づくりの会の講師をママに依頼。その他病院情報、ママの知恵を集めた情報誌など、をママ数名ずつのグループで作成。ママ達で結成された外遊び隊など。 ・ 発達の課題を抱える親子のためのガイドブック作成。利用者の中から当事者にもスタッフとして参加してもらった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムの中で、自己紹介の時間を必ず入れ、つながるきっかけをつくる。 ・ ハグモミ等のタッチケアコミュニケーションを取り入れている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めての来所時は、より多くの声かけ、同じような月齢の子を紹介。 ・ 仲間作りのお手伝い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者同士でのサークル活動を支援する。同じ地域に住む母子に対して、地域の子育てサロンやひろばを紹介する。 ・ 赤ちゃんタイムで同じ年齢を持つ母・子同士つながりを持つ。 ・ 親子ひろばで同じ年齢をもつ母・子同士つながりを持つ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携会議をしている参加団体は（公民保育園、公立幼稚園、各校区の民生委員、小学校、更生保護女性会、市の子育て支援課等） ・ サークルへの貸館 ・ 保健所のフォロー教室（1才6ヶ月と3才6ヶ月）
<ul style="list-style-type: none"> ・ およこ広場や赤ちゃんタイムなど自己紹介したり、子育ての悩み、困ったことなど交流する場を設けたり、日頃、子どもたちが喜ぶようなおもちゃを揃えたり、環境設定する中で、子どもの関わりから親同士が仲良くなっていけるような雰囲気作り。

<ul style="list-style-type: none"> ・講座内で利用者同士が情報交換したり、交流できる時間を工夫しています。(NPプログラム、井戸端会議、リフレッシュ講座)
<ul style="list-style-type: none"> ・講座を定例化する(月1回又は連続講座)ことで、子ども同士の成長をお互いに確認できる。顔見知りになることで、より親しくなるきっかけとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、託児付きの「リフレッシュ講座」を開催。ひろばで月1回、出張ひろばで月に1回、「リトミック」を開催(音を通じて、ふれあいを実施)。ボランティアスタッフとして利用者より「ママスタッフ」を募集(現在、6人活動中)。主任児童委員さんが、ふれあい遊びに参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃よりの傾聴(月会や地域などに応じてつなげる)。 ・セミナー開催(興味のあるものをつなげる)。 ・利用者同士でサークルを作っている。 ・利用者同士がつながれるようスタッフにより橋渡し。 ・名札を利用(初心者マークも)。
<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じられる製作を行い、利用者同士が交流するきっかけを作る。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士でスキンシップをとれるよう、親子ふれあい遊びの中で親同士が肩をもんだり、ふれあえるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士が拠点以外で、どのように交流しているかまでは、把握していないが、拠点内では、じっくり話せるように支援者が子どもを見ていたり、話すきっかけを与えたりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・親も子ども名札を付ける。 ・新規利用親子を皆に紹介する。 ・同じ月齢、同じ居住区、同じ出身地などの親子を紹介する。 ・利用者同士が同じテーマで語り合えるような場を設定する。 ・皆で弁当を食べる(時には1品持ち寄りも)。 ・頼み事をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・通常利用時、利用者同士がつながり合う声かけや紹介をしている。 ・サロンや行事などで、会話や交流がうまれる工夫をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・新規の利用者が孤立しないように職員が声掛けをしたり、会話が弾むよう間に入ったりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動に場所を提供し、職員も手伝っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・親子向け広場の開催やママ同士のおしゃべり会の実施 ・スタッフの声かけ
<ul style="list-style-type: none"> ・趣味や資格、お子さんの月齢等を把握し、ファシリテートをしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・午後から室内を開放し、お弁当を食べながら、おしゃべりし、ママ友へとつながる。
<ul style="list-style-type: none"> ・皆が参加する「歌や手遊び」の時間の時に、初めての利用者には自己紹介してもらい、「どこの地域から来たか」「何才か」などの話から、他の方との話のきっかけづくりになる。季節のこと、食べ物、行楽など、興味・関心がある話題を持ちかけ、話しやすい雰囲気をつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・広場内の全員の参加者が交流できるような一斉プログラムを実施してる。
<ul style="list-style-type: none"> ・週に一度30分程のリズム遊びの中で、コミュニケーションが取れるように工夫している。

<ul style="list-style-type: none"> ・昼食時間を設け、よりリラックスして情報交換、交流が進むよう配慮。 ・初回利用者に配慮し、利用者同士でつながるよう、声かけに留意。 ・講習会等は、体験型を中心に参加者同士のつながりに配慮。
<ul style="list-style-type: none"> ・同じ年齢の子の小集団での遊びや絵本の読み聞かせなど提供する。 ・住所の近い人など紹介してあげる、話す機会をつくってあげる。 ・自主運営で育児サークルを立ち上げている利用者からの誘いがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催
<ul style="list-style-type: none"> ・同年齢・同月齢の子ども同士、関われるように年齢別の事業を企画している。 ・定員はあるが、参加者を募集して、連続で参加してもらう事業もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・広場で食事の時間を設け、時間に余裕を持って過ごしてもらえようようにしている。その中で、お互いの交流が生まれると思います。

(2) 利用者や支援者が地域や他の団体とつながる工夫

回答のあった172団体中、具体的な記述があったのは153団体で、次のような内容となっています。

<ul style="list-style-type: none"> ・市内7ヶ所の担当者会、ひと月おきに行い、情報交換、学び、活動する。 ・担当者会「連絡協議会」ひと月おきに行い、情報交換、学び、活動する。 ・地域の公民館、銀行ロビーにて「相談会」を行う（月一回） ・民生委員、保健師との交流。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークル支援（ひろばから見学に行く。子どものお世話などサークル活動のお手伝い） ・地域（自治体）のお祭りに参加。 ・子育てサロンへひろばから利用者と訪問。 ・町内会の防災訓練へ参加。 ・見守り隊のおじいちゃんと交流。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設と共催事業を行う際、地域の方にも声をかけ、来ていただいている。
<ul style="list-style-type: none"> ・納涼祭やクリスマス会に地域で活躍されている方をゲストで迎えたり、当日ボランティアとして民間団体や主任児童委員さんに参加してもらっている。 ・広場近くの小規模多機能グループホームの方々と年2回ほど交流している。 ・県内の子育て支援団体との交流をもっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て広場等でのボランティアの育成やスタッフが出向き一緒に広場を行っている。 ・要保護児童対策協議会、地域発達支援会議等に出席している。
<ul style="list-style-type: none"> ・他団体のカレンダーを配置する。 ・他団体と一緒に子育て応援団という企画運営をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりはできていない状況ですが、団体としては、保育所で実施されるイベントに参加する機会を設定したりして、保育所とのつながりはできています。また、高齢者福祉施設に隣接しているため、施設の高齢者の方が活動を見学されることもあります。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサークル等のポスター掲示。行った人の感想などを聞いて、また他の人に伝える。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者同士の交流会を設けて、各団体の良さを発揮しながら、利用者対象の講座を担当したりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者としては、「地域子育て支援センター連絡会」を設立し、各センターが隔月集合し定例会としている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の催し物などチラシを配布したり、ほかの団体の予定表のファイルを置く。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域子育てサロンに出かけての支援など
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな地域の活動やイベント、講座を紹介する、参加する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ フレンド通信の折り込みチラシで出している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接する施設の避難訓練に利用者に参加 ・ 夏休みボランティアに地域の小・中・高・大専、一般の方が参加 ・ 市立中職場体験の場 ・ 地域の子育てイベント参加（年1回）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年1回「子育てイベント」を開催し、地域の方のフリーマーケットや社会福祉協議会赤い羽根募金、保育所の保育士とかかわる場を設けている。 ・ 毎月1回、保育所の先生と遊ぶ日を設定。その他保健センター、発達相談支援センター、社会福祉協議会による出前講座の利用等実施している。 ・ 子育て教室（2歳半対象）を年3回行っており、保育所の保育士が親子遊びを担当したり、2歳児の心と体の発達について、保健センターの保健師や支援センター主任保育士が担当し講話をしたりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な地域の支援者が当拠点にアウトリーチしてくる仕組みが複数あります。そのうちの一部を次に示します。 ①公立保育所や地域子育て支援センターの保育士が当拠点にアウトリーチし、利用者を対象に子育て相談にのったり地域資源を紹介したりする。 ②地域の産科施設（ここで出産し、当拠点の利用者となった家庭対象）と合同セミナーを開催。地域の小児科医も当拠点にアウトリーチしてくる。 ③区の歯科医師会と連携し、歯科医が相談員として当拠点にアウトリーチしてくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の行事に参加 ・ 園庭開放で園児と一緒に遊ぶ ・ 地域の農家で芋掘りをしたり、牛舎を訪れたりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の地区子育て支援センターの職員が総合子育て支援センターに一同に会い、情報交換や研修を実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ バスツアーを企画し、他の支援センターと交流している。 ・ 地域の方を講師として招き、講座を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のおまつりに参加できるよう、ひろばでも地域の人と一緒にイベントを開いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館から読み聞かせ ・ 保育園から出前保育 ・ 児童館から出張児童館
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育てイベントを案内する。 ・ 地域の子育てサークルの紹介。サークルの参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の参加

<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援拠点事業連絡協議会で大学、保育所、児童館等の子育てひろばの現状報告やメーリングリストを活用し、情報交換を行っている。 ・サークル交流会の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーデー、マタニティーデー、子育て相談日、ライフプランについて、スマートフォンを知ろう。保健師さんの育児相談、保育士さんの育児相談、助産師さんのおっぱい相談の日、うたの日、臨床心理士、カウンセラーさんの相談日
<ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成推進事業では、市の子どもまつりを市及び関係団体で実行委員会を作って地域全体で子育てする気運を作る。 ・市のコンサートでは、市内子育て支援センターが中心となって高校吹奏楽、保育所保護者赤ちゃん登校日を学んだ小学生の発表など、赤ちゃんから大人が楽しむ手作りコンサートを開催
<ul style="list-style-type: none"> ・市、公民館との情報交換。イベントを通して情報交換。
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の同じような施設の提供やイベント情報を提供している。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、保健センターの保健師さんや歯科衛生士さんに来てもらったり、地域の商店街さんとコラボ企画したり・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・町の子育て支援ネットワーク ・子育て支援センター、七夕まつり、夏まつり、秋まつり
<ul style="list-style-type: none"> ・保育交流（公立、法人）、地域子育て広場
<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター保健師による乳幼児相談（月1回） ・他の子育て支援拠点に出向いての協働活動（月1回） ・県総合人材チャレンジセンターによる就労（女性再就職支援）相談会（年1～2回）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のNPO団体との交流会、県主催の子育てフェスタへの参加、地域のボランティア受入（学生、教員研修）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の拠点事業で年に5回の会議で報告・情報交換などを行っています。 ・市のフェスティバル（子育て支援）で協力しあいながら、つながっています。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て団体と共同で、外遊び講座や出張ひろばを行っている。（毎月行っているものと、年2～3回行うプログラムがある）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われている子育てサークル支援 ・地域の公園に出向き、子育て中の方と地域の方をつなぐようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・サークル支援 ・情報提供 ・他団体との交流を持つようにしている
<ul style="list-style-type: none"> ・出前保育 ・サークル支援 ・サークル間の交流
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の集落センター、公民館等でボランティアさんと一緒に歌や手遊び、読み聞かせ、体操や昔遊びを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・常に他の団体、地域の活動等をお知らせする。
<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の一角にあるため、地域の行事やお祭りに参加している。年に一度は、地域の方を迎え入れる日を作り、施設を開放、勤労感謝の日は手作りプレゼントを地域の方へ贈っている。日常的な関わりを地域、ひろばとともに大切にしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・就労相談、求人情報発信

<ul style="list-style-type: none"> ・行事を地域の人たちと一緒にやる。支援者は外へ出向き、顔見知りになる。
<ul style="list-style-type: none"> ・他施設と共催で多文化子育てのプログラムを実施（通訳・翻訳を依頼） ・地域の子育て関連団体とつながり、定期的に会議を実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・七夕・お月見（団子作り）・節分の行事を地域の方と交流する講座をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育てネットワーク連絡会を作り、利用者が地域の支援や子育てサロンなどを利用できるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て講座の開設 ・イベントの開催
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の支援センターで合同イベントを企画して年に1回行っている ・地域の（サロンさん、公民館、児童センター、図書館など）合同で「フェスティバル」イベントを年に1回行っている ・月に1回地域（サロン、児童センター、支援センター）で会議もしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・隣の保育園との交流（行事の参加や園庭開放の利用等）
<ul style="list-style-type: none"> ・他の団体の情報誌を常に置き、積極的に行事の紹介等していく。 ・保健センター、健診日に出張
<ul style="list-style-type: none"> ・区の保健福祉課とつながりを作り、区の取り組みの託児などしている。また、行政主催の子育て広場（市民センター月1回）で拠点アピールしている。 ・ママサークルに対しての助成金のお知らせをしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・近くの公園で紙芝居を読んだりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィン時、周辺の商店に協力していただき、お店を回ってお菓子をいただいている。 ・商店街のお祭りに参加している（夏祭り、踊りに団体で参加）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のネットワークの情報提供 ・地域のイベント参加 ・読み聞かせ、ボランティアとの交流
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルや母親クラブが当館のイベントに参加する機会を設けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・センター長が、校区の民生委員・主任児童委員と連携することで、地域の活動や行事に気軽に参加できるように情報提供等している。
<ul style="list-style-type: none"> ・区内の様々な団体が一堂に会するイベントへの参加を続けています。 ・区の子育てひろばが一堂に会する連絡会へ参加
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人会の方を拠点のイベントに招待し、交流する ・地域のイベントに拠点の親子と一緒に参加交流する ・保育へ訪問し交流を行ったり、地域の保育所と一緒に子育て支援活動を行う
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方がボランティアで草刈り等環境整備をしてくださるので、利用者、職員でお礼を伝える。 ・地域の幼稚園（幼稚園、保育園）交流会 ・ママスタッフが給食センターで給食試食会、保健センターでおやつ作りをする
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の中・高・大学・専門学校生の職場体験や実習の受け入れ ・健康相談会の開催を助産師会や栄養士会に依頼している ・ボランティア養成講座を他の子育て支援団体、行政と共催で行っている（年2回） ・戸外活動を他のNPOに誘ってもらっている（いもほりなど）

<ul style="list-style-type: none"> ・支援とこども園が主体として、演奏家などを呼んでのコンサートでは、老人クラブの人たちも招待し、ふれあいを持っている。 ・企画の一つの工場見学では、地域の煎餅店に行き、交流を持った。
<ul style="list-style-type: none"> ・開所以来、世代交流があり、地域の人たちも来ています。 ・町内会行事に参加して交流しています。 ・市の健診などに参加 ・様々な講座
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生や地域の人を交えてのおまつりの開催（夏まつり、じどうかんまつり）
<ul style="list-style-type: none"> ・出前保育 ・相談員 ・市主体の子育て支援イベントなど、各支援センターや内容（一時、ファミサポなど）の周知 ・各支援センターで情報交換 ・一時保育 ・市の保健師さんとの連携 ・どんどやき（地域の方々と）
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援関係機関ネットワーク会議の開催 ・民生委員との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・協働で事業を実施したり、プログラムに協力しあうことで、利用者さんが他団体の人や地域とつながりができる。 ・市内のイベントや情報を提供し、地域の資源に触れるきっかけを作る。
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの施設や団体からの手紙やチラシを常に利用者が自由に手に取って見られるよう設置しておき、必要があれば紹介していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師さんと定期的に情報を交換し、各事業への参加を勧めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、交流を持つように行事などに参加してもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会や出張子育てひろばにおいて、地域資源（人も含む）を活用、また発掘している。 ・ボランティア受入れ等の体制を整備し、新しいアクターのもつ（知る）社会資源を活用し幅を広げる。 ・他の事業でつながりづくりを日ごろから行っている。 ・依頼を受けたものは、基本的に快く了解する。
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の公民館、幼稚園に行き、未就児、地域の方に参加してもらう出前保育、料理教室などして、地域交流をしている。 ・中学校、高校に出向き、利用者親子と生徒との交流をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センターで6ヶ月育児相談の事業に協力 ・地域の子育てサロンへの協力 ・保健師の個人相談を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人会、ライオンズクラブ、歌声サークル etc に協力を依頼し、センター主催イベントの手伝いをお願いしている。 ・近所に散歩に行く。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育行事への参加の呼びかけ
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の子育て支援センターとつどいの広場と協力してのイベントや運動会

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学校に安全ボランティアとして参加している。 ・地域の大学の学生ボランティアさんと一緒に夏まつり、クリスマス会、おもちゃつき等、様々なイベントを行い交流している。 ・地域の保育所の子育て支援事業とイベントや「公園で遊ぼう」等を行っている。 ・手づくりサークルのお母さんたちにママスタッフとして活動にご協力いただき交流している。
<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから地域で開催される会議に出席しています。 ・利用者の方から情報がもらえるよう発信しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自主サークルの支援をするとともに、地元の利用者に自主サークルの呼びかけをしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・多世代との交流 ・高校生の受け入れ ・おまつり等の協力
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の子育て支援センター合同企画の各センターの玩具など持ち寄り、一堂にあそびの広場を開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・市で開催している祭りに参加し、他の団体との交流をしている ・おたよりを地域の施設に配布している
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報等の発信（支援側） ・参加を促す。（地域や団体等の催し物）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育てサロンや出前保育等を実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とつながるイベントに参加（夕涼み会、クリスマス会、健康ふくしまつり）
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターに併設しているため、他の団体にはつなげやすい。 ・サークル、サロン、イベントや団体のチラシやポスターを掲示している。 ・ファミリーサポートセンターの事務局の併設 ・園庭に保育所等の園児が遊びに来ている。 ・同敷地内にて、ボランティア団体や子育て支援センターのイベントを実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットなど自由に手にとれるように置いてあります。 ・会話の中から必要と感じれば、紹介することもあります。 ・施設支援者や地域のボランティアさんをイベントに招き、紹介することもあります。
<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会を開催し、地域のサークルの方に一緒に参加してもらったり、演奏を聴かせてもらったりする。 ・畑作りを民生児童委員さんと一緒に行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・育児講座というダンス、人形劇、読み聞かせ等の講座を子育て支援団体に依頼して事業をしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・広場からサークルを作り、お母さん同士がつながるようしている ・デイサービスへ訪問し、お年寄りとの交流をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・市内にある地域子育て支援拠点や子育てサロンのチラシを設置。 ・子育てカフェ（市内で子育て支援を行っている支援者、団体の集まり）への参加。 ・町内会行事への参加。 ・学区担当保健師と共に民生委員等の会議に参加。 ・小学校区での子育て会議 ・中学校の「図書館事業」を通して、学校関係者、地域の支援者との関係づくり

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区社会福祉協議会での、地域の愛育委員、婦人会、民生委員、町内会関係者等々とのつながり作り ・ 市内外の大学、学生との協働
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティセンターの子育て広場や親子サークルの紹介など、チラシを掲示したり、お知らせしたりする。 ・ 出前保育として地域へ出向く。 ・ 会議や研修会、情報交換会などを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て支援ネットワークに参加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の機関に協力してもらい、継続して行っている事業複数。 ・ 利用者さんとのかかわりの中で、必要と思えば紹介したり、情報提供する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のおまつりに参加 ・ 他団体と連携して子育てセミナー開催
<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子サークル運営のサポート、地域・コミュニケーション冊子発行 ・ 行政、子育て支援連絡会との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の学内にあるため、学生が広場を訪れたり、行事の中でお互いが交流する機会をつくる。 ・ 敬老の日の近日で、老人ホームなどを親子で訪れ交流する。（1回／年） ・ 母親クラブや公民館などの親子クラブなどの情報提供や紹介。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のイベントに参加したり、出店したりしている。利用者に宣伝する。 <p>地域の子育て支援連絡会に参加し、情報交換をしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科、小児科医院を併設しているため、そこから施設を利用させていただくお母さん方も多くなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者さんのお住まいの場所から近くの拠点やサークルなどをご案内してこちらへの参加をおすすめしたり、スタッフも地域の拠点やサークル、公民館に出向くことで、共通の利用者さんを地域につないでいる。 <p>また、ひろばとして、地域の行事に参加し、地域の方が、遊びに来てもらえるようにして、ひろばを周知してもらえよう努力をしています。ボランティアセンターやインフォメーションセンターとも連携して、地域で子育て支援のボランティアをしたい人とひろばやサークルをつなげています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の公民館などを利用して、サロン活動を行っている利用者、支援者を対象に、交流運動会・研修会を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他団体のチラシ（紹介）を提示。 ・ 他団体のメンバーに広場のボランティアとして来てもらう など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の公民館等に出向き、子育て相談を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内にある公民館等に「出前」で事業を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者と祖父母世代との交流イベントの開催。地元の中学生へのパパママ体験講座開催時の赤ちゃんボランティアとして参加。 ・ 他の団体（市内子育て支援センターを運営する団体）とのネットワークとして、毎月1回の会議の開催。このネットワークで市民まつりへの参画や妊婦歯科健診時に“支援センターの紹介”を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 園行事（運動会、クリスマス会、祖父母交流、地域との合同避難訓練）と一緒に参加している。 ・ 子育てクラブや講座開催の際、講師依頼をして、利用者との交流を図っている。

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの受け入れ、更生保護女性の会の方々の協力も得て活動している。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の市民団体による広場イベント・講座を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・他の団体との横のつながりがあるので、他のイベント広告や紹介をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・広場に併設しているカフェは、地域や他の団体にも開放しているため、昼食時やおやつの時間を共有でき、世代を超えたコミュニケーションの場として利用されているところです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひろば内の掲示板やラックに、地域や他の団体が行っているイベント情報などを掲示し、スタッフとの話の中で利用者さんが希望しそうな情報がある場合は紹介するなどしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループに月1回、身体測定と交流の場を設けていただいています。また、地域の小学校見守り隊の方の見守りと外周りの作業のボランティアをお願いしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお話しボランティアや人形劇団に行事参加していただく。 ・隣の保育所の保育士に手遊び、わらべうた等を利用者に教えてもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童館との交流 ・地域民生児童委員との交流 ・公民館とのおたより等の掲示と配布
<ul style="list-style-type: none"> ・サークルに相談業務で出かける ・健康診断に相談業務で出かける ・地域のサークル等の運動会や人形劇を行う ・自主サークルのスキンシップ講師 ・ファミリーサポートの心得の講話 ・依頼があれば、絵本とわらべうたについて講話・講習
<ul style="list-style-type: none"> ・まつりの共催 ・イベントの案内、司会などを引き受ける
<ul style="list-style-type: none"> ・他の支援センターへ行き、食育劇を行っている。 ・地域の回覧板で、おたよりを回してもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り・通所介護利用者・身体測定・・・保健師、アドバイザーボランティア ・子ども日集会・ひなまつり会・まめまき会・・・読み聞かせボランティア ・芋掘り・・・ボランティアの方の土地
<ul style="list-style-type: none"> ・交流館の催しのご案内
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を代表する利用者運営委員会とこども館の構想段階からオープン後もずっと関わっている市民の運営委員会と行政とが一緒にパートナーシップで運営を行っている。 ・地域のボランティアの方が定期的に訪れ、絵本の読み聞かせ、利用者運営委員会活動時の子どもの見守り、イベント準備、子育て講座の講師などを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設の活動室を借りて、出張ひろばを行う。 ・図書館ボランティア・おもちゃ病院等、他団体の協力をお願いする。 ・市の施設と共催でプログラムを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルの紹介、相談日の設置
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの提供とし、出張保育の実施を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・複合施設であるため、交流する事業を実施している。 ・子育てにかかわる機関・団体との協力で事業等を開催している。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前保育（子育てサークルや保健所のサークルへの応援） ・ 地域や保育園行事への参加
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の担当課と支援拠点のスタッフが集まり、情報交換、共有している（年2～3回）。 ・ 悩み、相談等あった時、専門スタッフがいる子育て支援拠点を紹介している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年1回の秋まつり（利用者や当団体の会員の子ども、またその保護者達で開催。地域の方達を招待。） ・ 発達の課題を抱える親子のためのガイドブック作成したことで病院、専門機関、療育機関、支援機関等とのネットワークを構築。連携した支援が可能に。 ・ その他、地域住民や学校等と連携して地域の親子を支援など。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の他の団体・企業等とコラボしたイベント等を開催（バス、警察、商店街）。 ・ 茶話会の茶菓も地元産の顔のみえるつながりの中で調達し、そのエピソードを参加者と共有する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の行事に参加、読み聞かせ等協力（支援者）。 ・ 地域の子育てサロンの活動にボランティアとして参加（支援者）。 ・ 利用者の地域に子育てサロン等があれば紹介。 ・ 講師が他で行っている活動の紹介。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会で運営されている子育てサロンにスタッフとして参加。 ・ 世代間交流を図るため、老人センターの利用者さんとの講座を行う。 ・ 地域で、子育て支援にかかわっている各種団体との連携会議や事業を共に行う。 ・ ボランティアさんとの交流を持つ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前保育（近くの高校の一室を借りる。地域の民生委員のされているサロン等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健センター、支援保、子育てサロンなどスタッフが出かけて、連携会議やセンター会議など活動の場で、つながっていただけると幸いです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方と行政で、年2回、会議・交流をしています。 ・ ボランティアさん、更生保護女性会さん、民生委員さんに協力していただく時間をもっています。 ・ 中・高校生と子どもの交流の機会をもっています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のイベント（祭り）への参加をする。事業・講座等、ボランティアの協力・支援をもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代間交流を実施。年に1回「こどもフェスタ」を開催。（商工会議所青年部、子育て支援課などと共に実施）。 ・ 出張ひろばで、月に1回、男性料理教室の方と交流。 ・ イベントに「子育て用品フリーマーケット」として参加（売り上げで子育て用品購入などに活用）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の行事等へスタッフがボランティアとして参加。 ・ 地域の子育て支援施設をつなぐイベントの実施。 ・ 地域の行事イベント等のお知らせを告知（利用者へ）。 ・ 他団体への見学（スタッフ、利用者）。 ・ 他団体の受け入れ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で活動している団体を子育て講座の講師に招く。

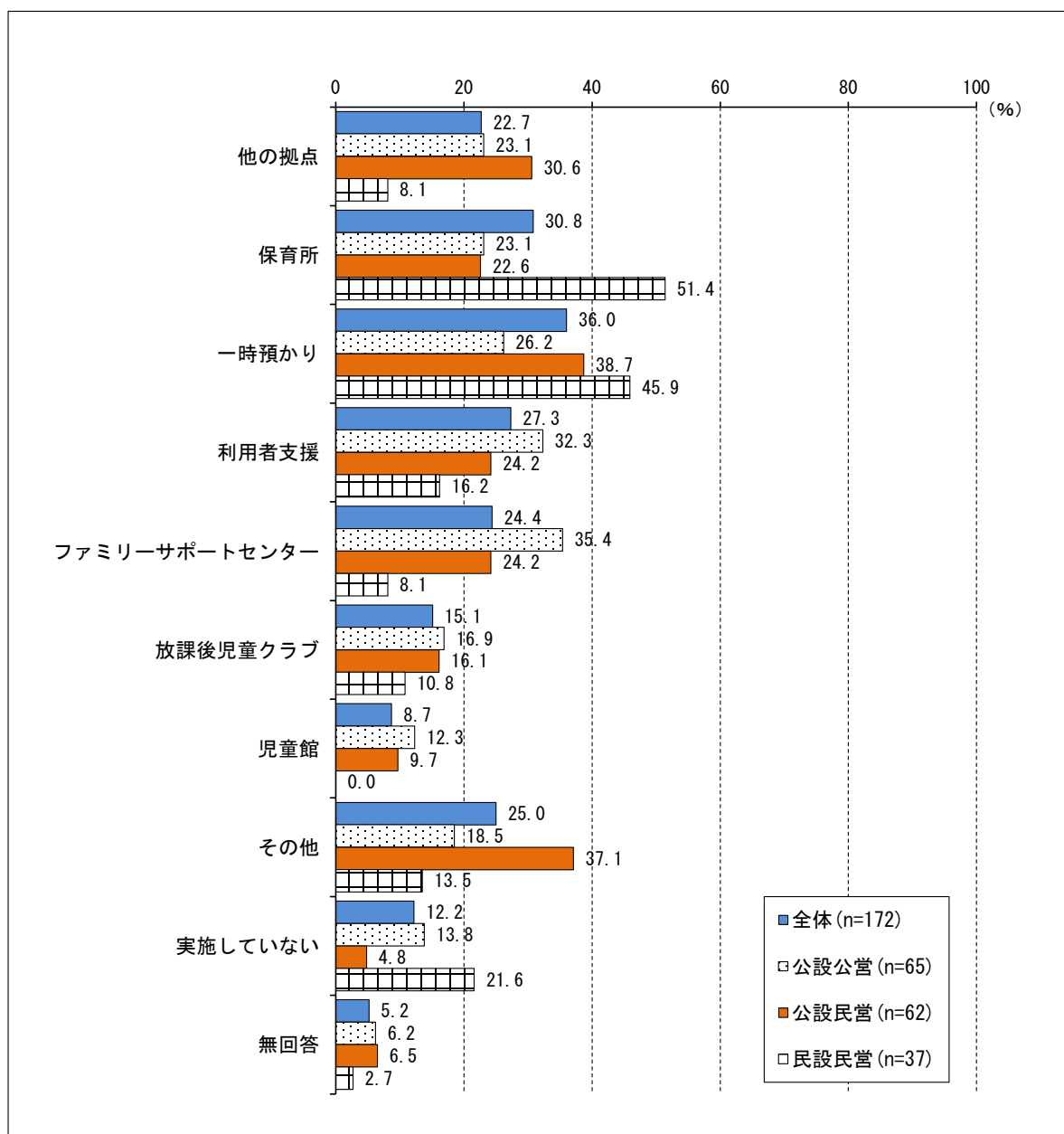
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんが地域の団体と出会える講座を実施する。支援者同士で手遊びや手作りおもちゃなどの遊びを紹介する。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育てサークル・団体が集まって、月に1回、ネットワーク会議をして、情報交換や講演会などを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方にボランティアとして活躍してもらう。 ・学生ボランティアを受け入れる。 ・地域の人や他団体の視察見学を受け入れる。 ・ちらしや通信を持参して、情報交換もしてくる。 ・餅つきの餅を近所に配る。 ・町内会や地域の行事に参加する。 ・他の団体を研修会などに案内する。
<ul style="list-style-type: none"> ・小、中、高校、大学、専門学校の見学や実習の受け入れをしている。 ・行事や講座など、市民団体や市民に協力や講師をしてもらっている。 ・登録市民ボランティア「サポート制度」により、日常運営のサポートをもらっている（花の手入れ、玩具修繕、製作補助など）。
<ul style="list-style-type: none"> ・他の拠点の運営を委託している団体の事業に参加したり、情報交換する機会を設けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の市民センターと共に講演会や行事（避難訓練、餅つき）等を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動 ・研修会
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や企画のパンフレットやチラシを置いている。 ・地域の団体に講座を依頼している。 ・利用者さんが行っている活動のチラシを置いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域食品改善推進員の方に、栄養講座（調理講習）をもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と併設しているので、年に2、3回、運動会や楽器遊びなどをして交流を持っている。また、利用者の年齢や体力などに応じ、他の施設の紹介やイベント情報をお伝えする。
<ul style="list-style-type: none"> ・市からアドバイザーや相談員が定期的に来場している。 ・子育て支援にかかわるチラシ等を常備している。
<ul style="list-style-type: none"> ・他支援拠点のチラシを置いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育てサークル支援者との交流を目的としたイベントの開催。 ・地域の支援団体・行政機関等との日常からの情報交換や連携、地域との交流イベントの実施など。
<ul style="list-style-type: none"> ・発達が気になる子へは、保健センターへつなげる。親子教室など。 ・区内の子育て支援会議に参加。他の事業施設との交流。 ・発達に関する学習会への参加。気になる子への施設の情報を得る。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供、相談を受けた時に紹介
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区ごとに子育て関連機関が集まり、校区連絡会を実施（情報交換、横のつながり）。 ・ボランティアグループが地域の子育てサロンなどに出前講座を実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方にも参加していただけるような取組みを入れている。お孫さん連れのおじいちゃん・おばあちゃん、お子育てを卒業された世代の方も広場に來られるので、多世代交流が可能となっている。

4. 拠点以外に実施している事業

回答団体全体では、「一時預かり」が36.0%で最も多く、次いで「保育所」(30.8%)、「利用者支援」(27.3%)などとなっています。(図表1-4①)

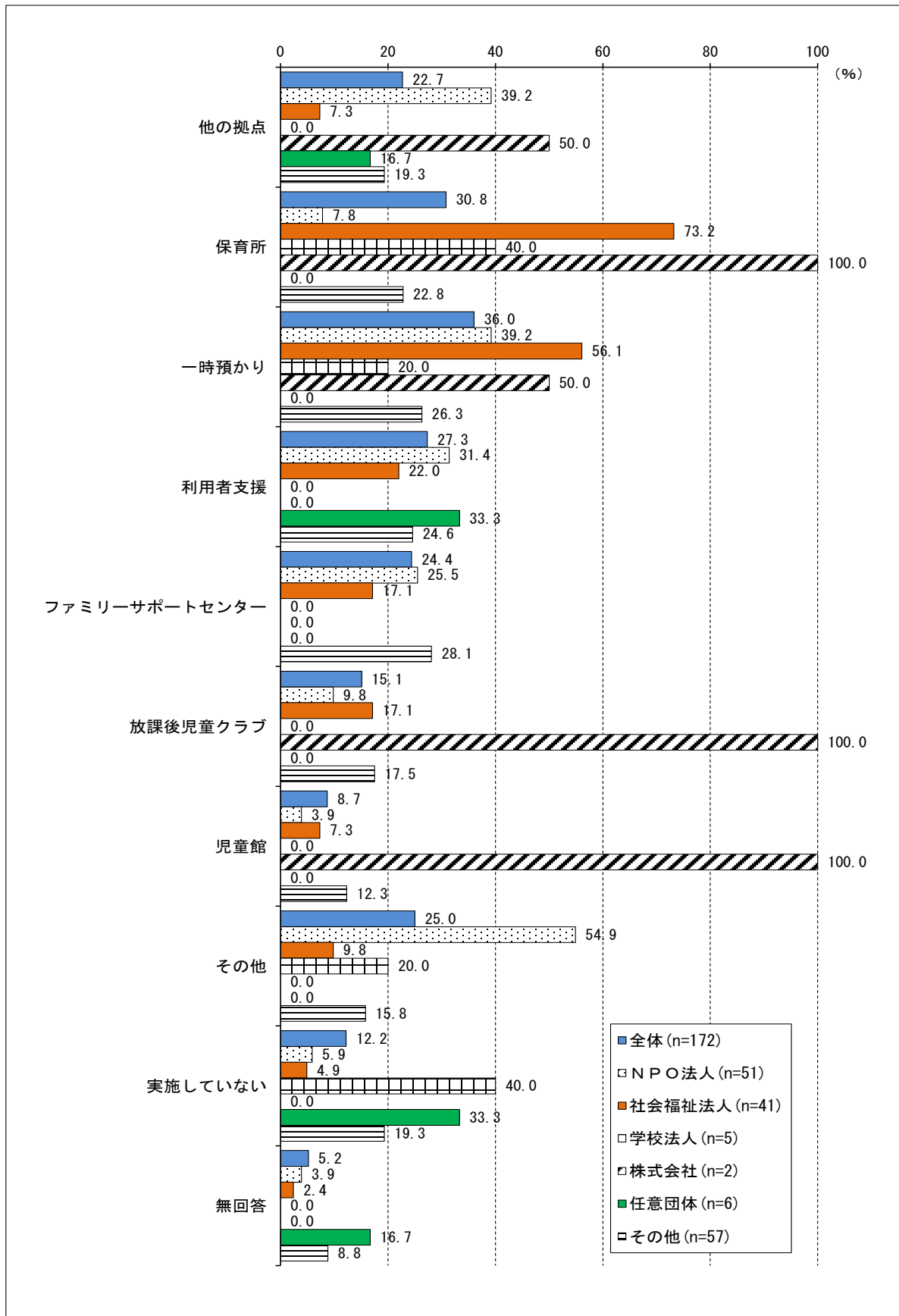
運営形態別では、公設公営の場合は、「ファミリーサポートセンター」(35.4%)が、公設民営では「一時預かり」(38.7%)が、また民設民営では「保育所」(51.4%)がそれぞれ最も多くなっています。(図表1-4①)

【図表 1-4① 拠点以外に実施している事業（全体、運営形態別）】



運営主体別では、NPO法人の場合は、「他の拠点」と「一時預かり」（ともに39.2%）が多く、次いで「利用者支援」の31.4%となっています。社会福祉法人は「保育所」が73.2%で最も多く、次いで「一時預かり」の56.1%です。（図表1-4②）

【図表1-4② 拠点以外に実施している事業（全体、運営主体別）】



5. 会員に関する情報

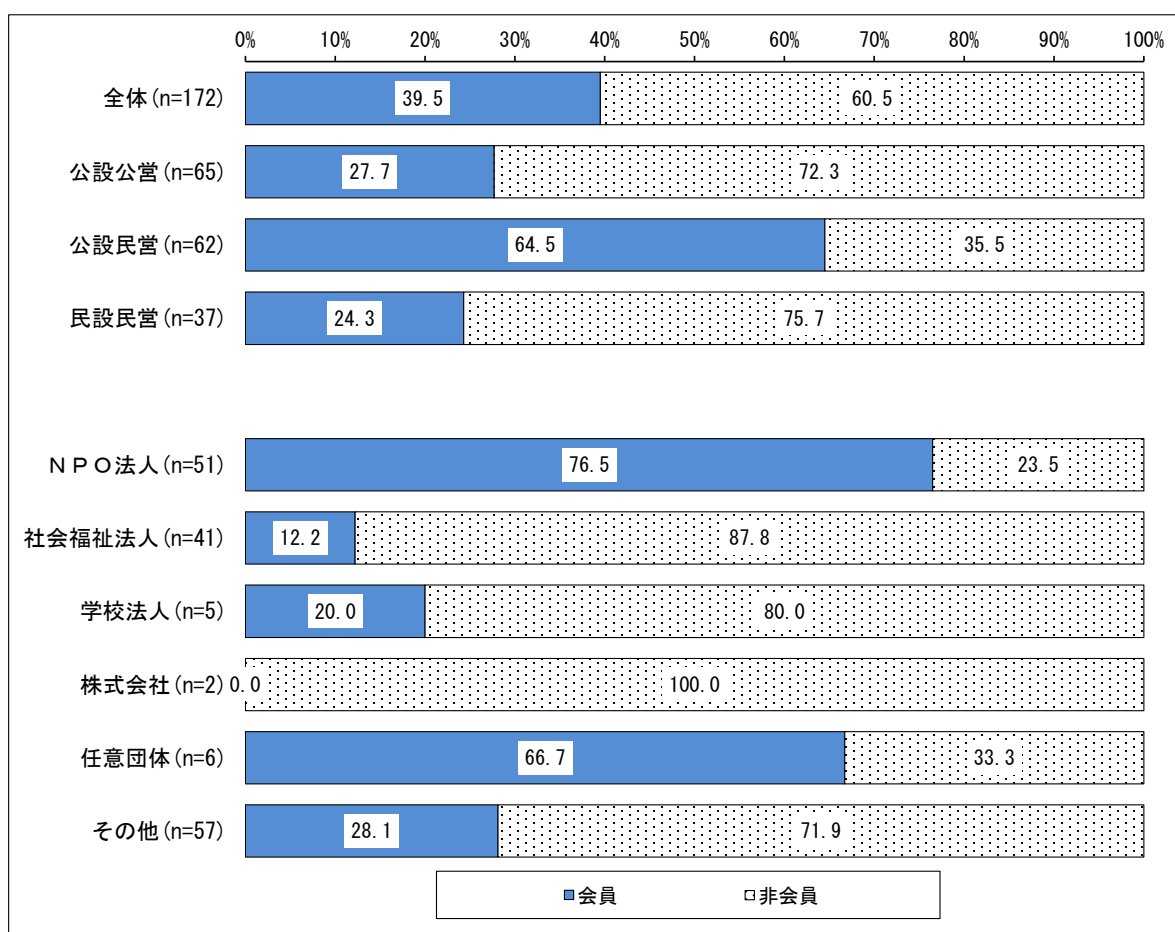
(1) NPO法人子育てひろば全国連絡協議会の会員の有無

回答団体のうち、ひろば全協の会員は39.5%であり、非会員が60.5%と半数を超えています。(図表1-5-1)

運営形態別では、公設民営で会員の割合が64.5%と高く、これに比べ公設公営及び民設民営は3割弱と低くなっています。(図表1-5-1)

運営主体別では、会員の割合は、NPO法人が76.5%で最も高くなっています。また任意団体が66.7%となっていますが、これら以外の法人の会員の割合は低くなっています。(図表1-5-1)

【図表 1-5-1 NPO法人子育てひろば全国連絡協議会の会員の有無(全体、運営形態別、主体別)】

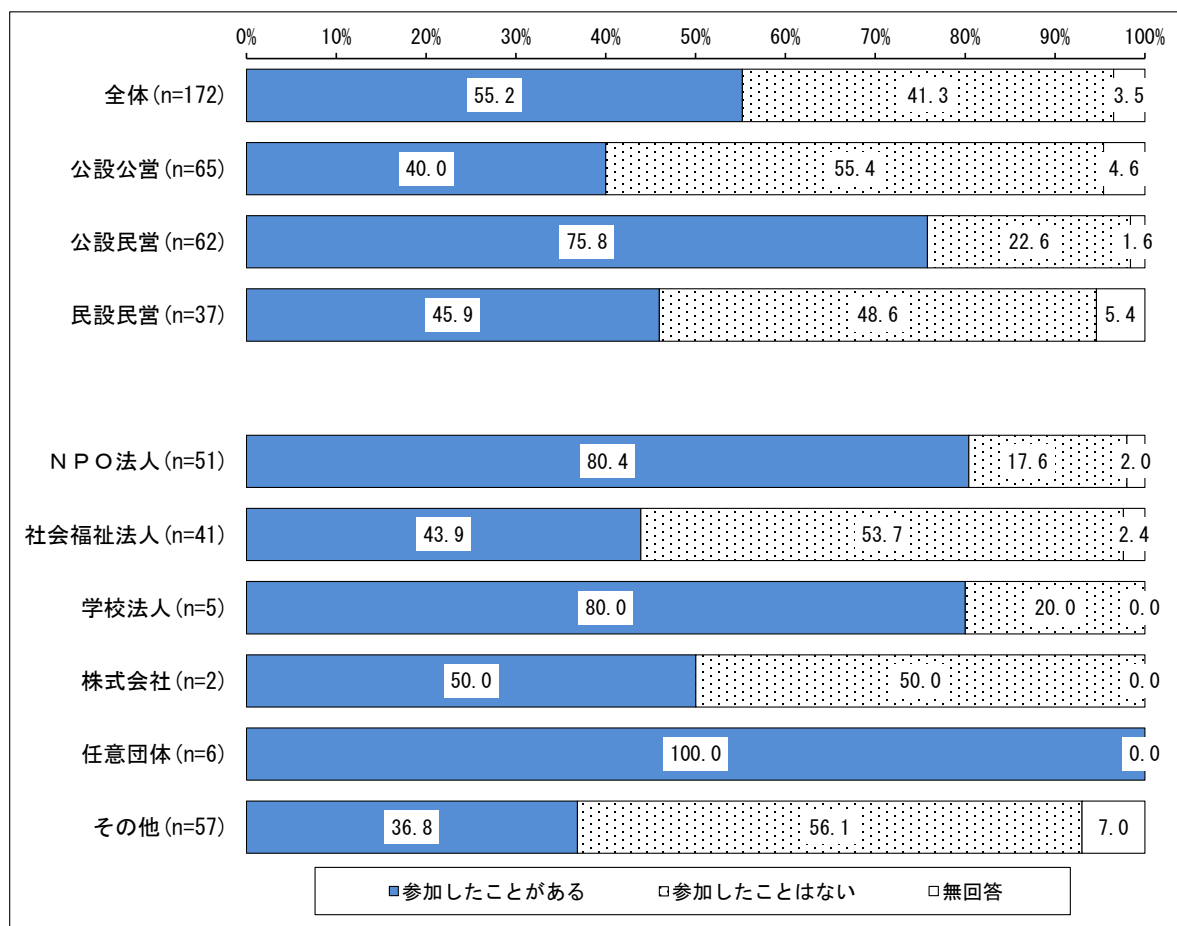


(2) NPO法人子育てひろば全国連絡協議会の研修への参加経験の有無

回答団体のうち、ひろば全協の研修に参加経験がある団体の割合は55.2%で、運営形態別では、公設民営の割合が75.8%と高くなっています。一方、公設公営及び民設民営は4割台と低くなっています。(図表1-5-2)

運営主体別では、会員の割合は、NPO法人や学校法人、任意団体の参加経験の割合が高くなっています。(図表1-5-2)

【図表 1-5-2 NPO法人子育てひろば全国連絡協議会の会員の有無(全体、運営形態別、主体別)】



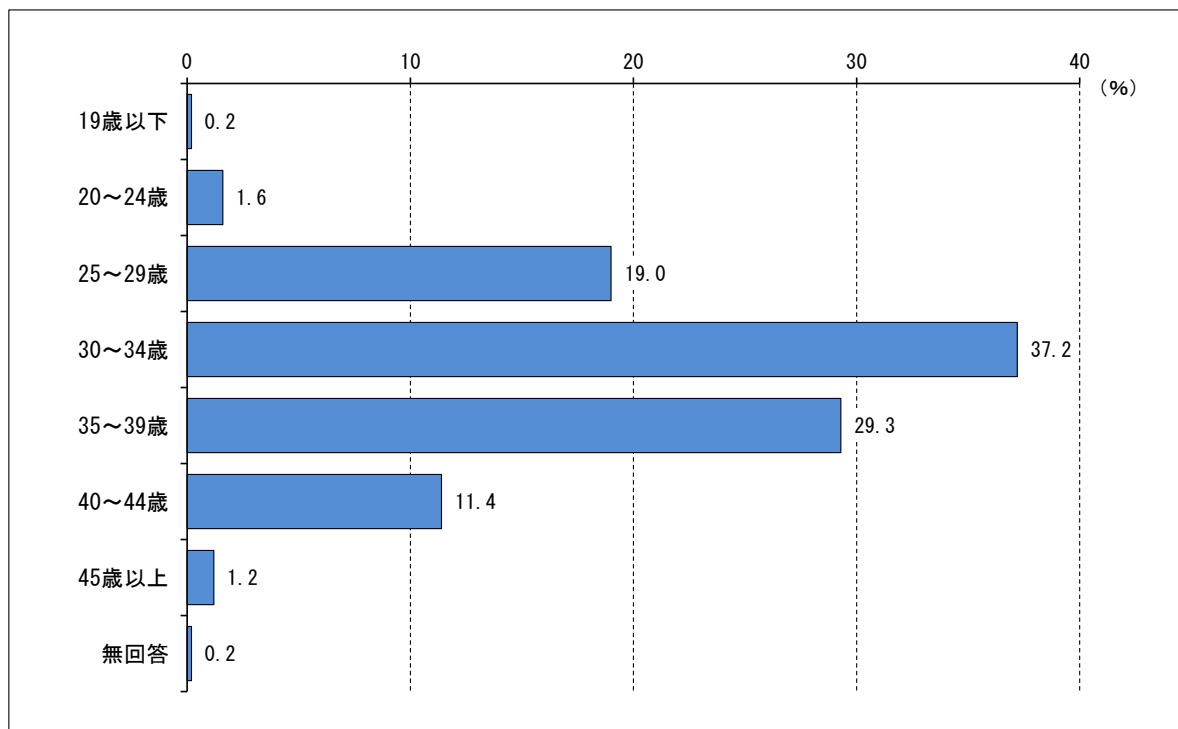
Ⅱ－２ 拠点利用者（母親）の調査結果

1. 利用者（母親）のプロフィール

（1）年代

回答した利用者（以下「母親」という。）の年齢分布をみると、「30～34歳」が37.2%で最も多く、次いで「35～39歳」が29.3%で、30歳代の母親の回答が66.5%を占めています。20歳代の母親は20.6%、40歳以上の母親は12.6%となっています。（図表2-1-1）

【図表 2-1-1 利用者（母親）の年代（全体）】

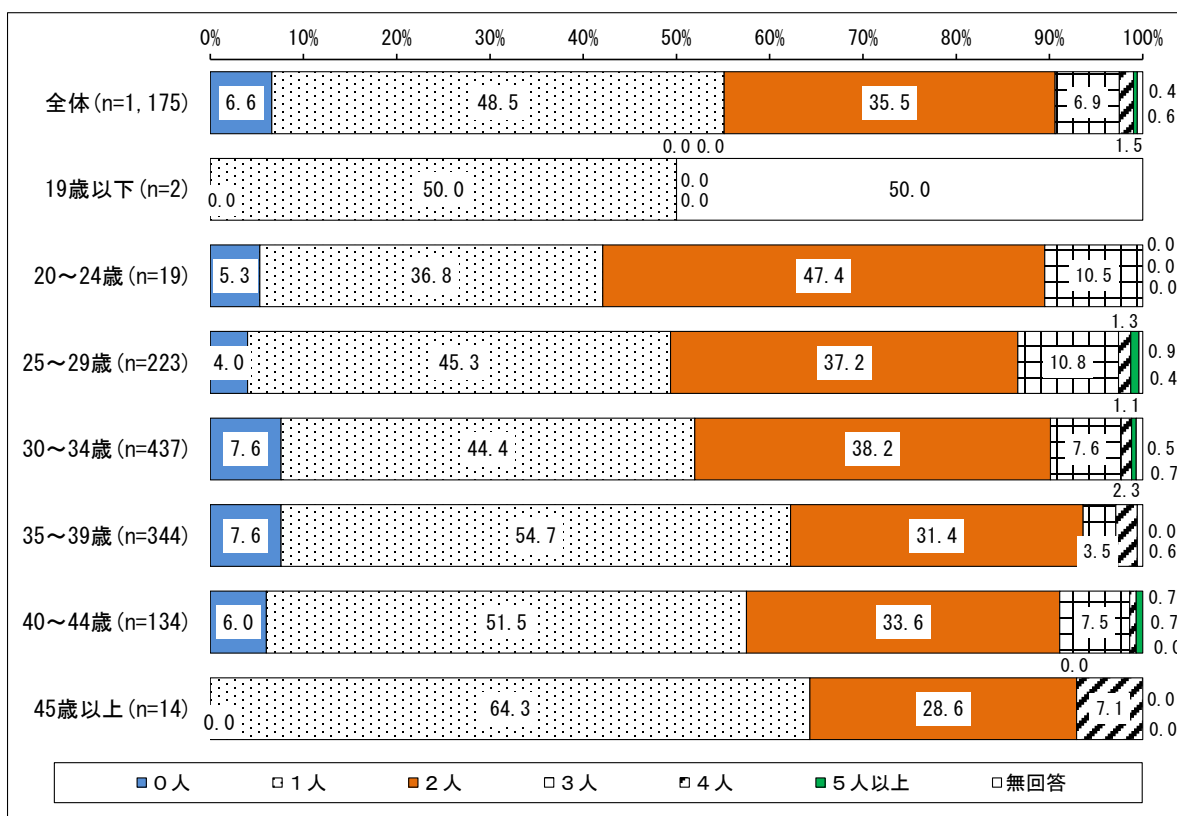


(2) 母親のきょうだい人数

母親のきょうだい人数（本人を除く）は、回答者全体では「1人」が48.5%で最も多く、次いで「2人」が35.5%となっています。2人きょうだい、または3人きょうだいが合わせて8割を超えています。（図表2-1-2）

母親の年代別では、年代の上昇とともに、「1人」（2人きょうだい）の割合が高くなる傾向がみられます。20～24歳の母親のほぼ2人に1人は「2人」（3人きょうだい）であるのに対し、40歳代では、「2人」（3人きょうだい）は3人に1人程度となっています。（図表2-1-2）

【図表 2-1-2 母親のきょうだい人数（全体、母親の年代別）】

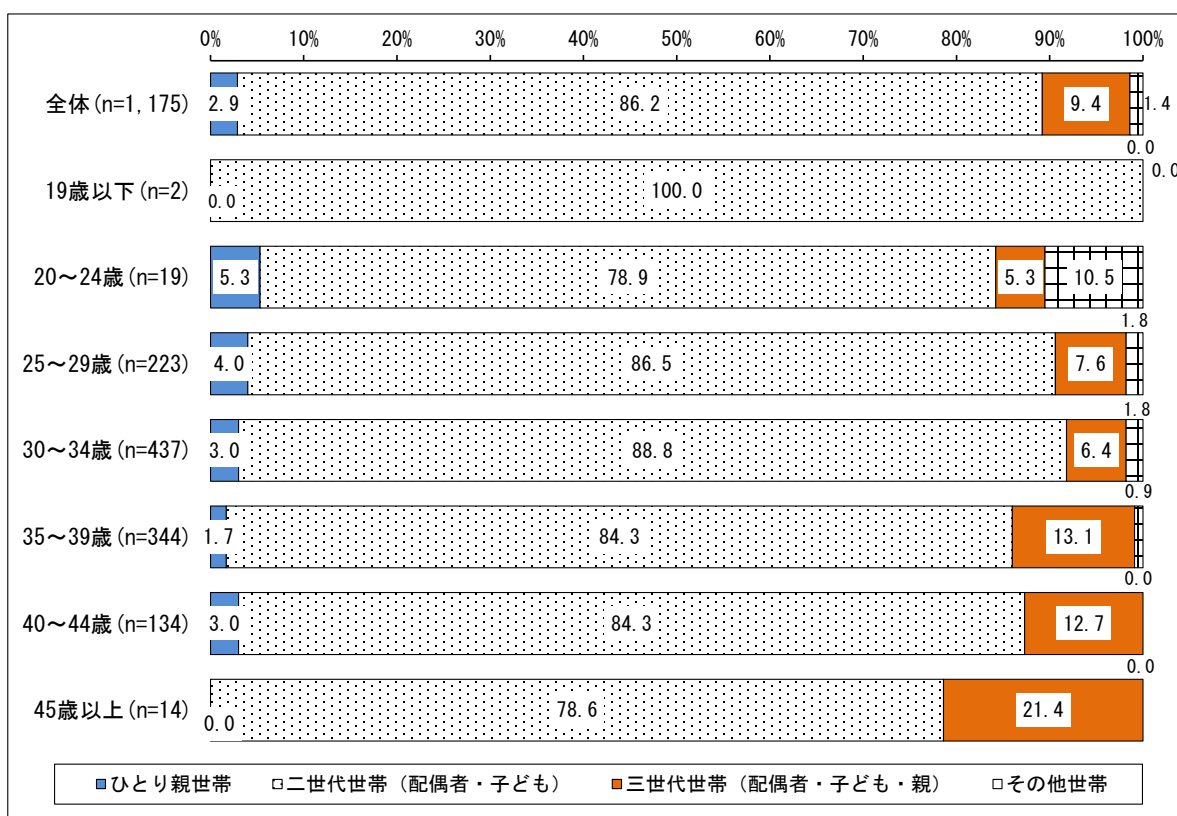


(3) 同居家族の状況

回答者の同居家族の状況は、全体では「二世帯世帯（配偶者・子ども）」が86.2%を占めています。一方、「ひとり親世帯」は2.9%、「三世帯世帯（配偶者・子ども・親）」は9.4%と少なくなっています。（図表2-1-3）

母親の年代別で見ると、年代に関係なく、「二世帯世帯（配偶者・子ども）」の占める割合が8割前後を占めています。「ひとり親世帯」の割合が最も高い年代は、20～24歳で5.3%、「三世帯世帯（配偶者・子ども・親）」の割合が最も高い年代は、45歳以上の21.4%です。（図表2-1-2）

【図表 2-1-3 同居家族の状況（全体、母親の年代別）】



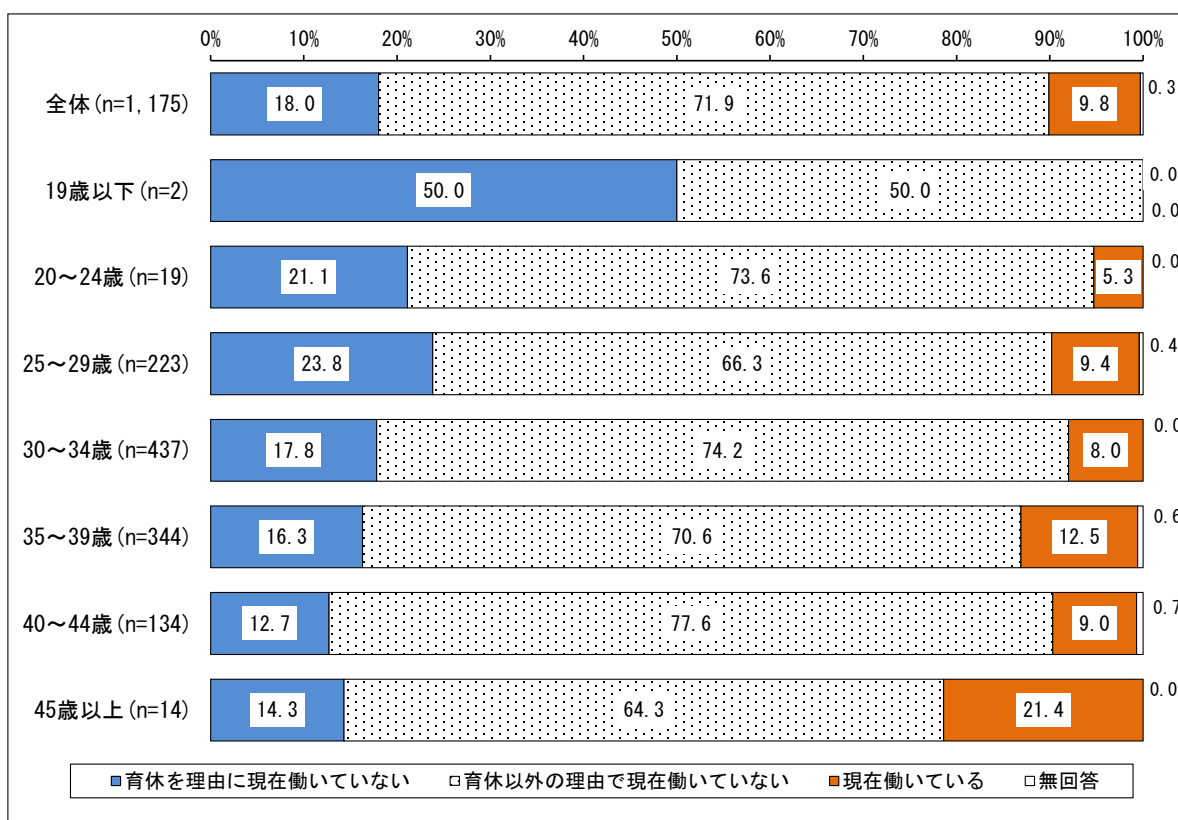
(4) 母親の就労状況

① 就労の有無

全回答者のうち、「現在働いていない」との回答割合は89.9%で、大部分の母親は働いていません。非就労の母親のうち、育休を理由に働いていない割合が18.0%となっています。(図表2-1-2)

母親の年代別では、働いていないとの回答は、34歳までの各年代では9割を占めていますが、35～39歳で86.9%にやや低下し、40～44歳で90.3%に上昇しています。育休を理由に働いていない割合は、19歳以下で50.0%、20～24歳で21.1%、25～29歳で23.8%となっています。(図表2-1-4①)

【図表 2-1-4① 母親の就労の有無（全体、母親の年代別）】

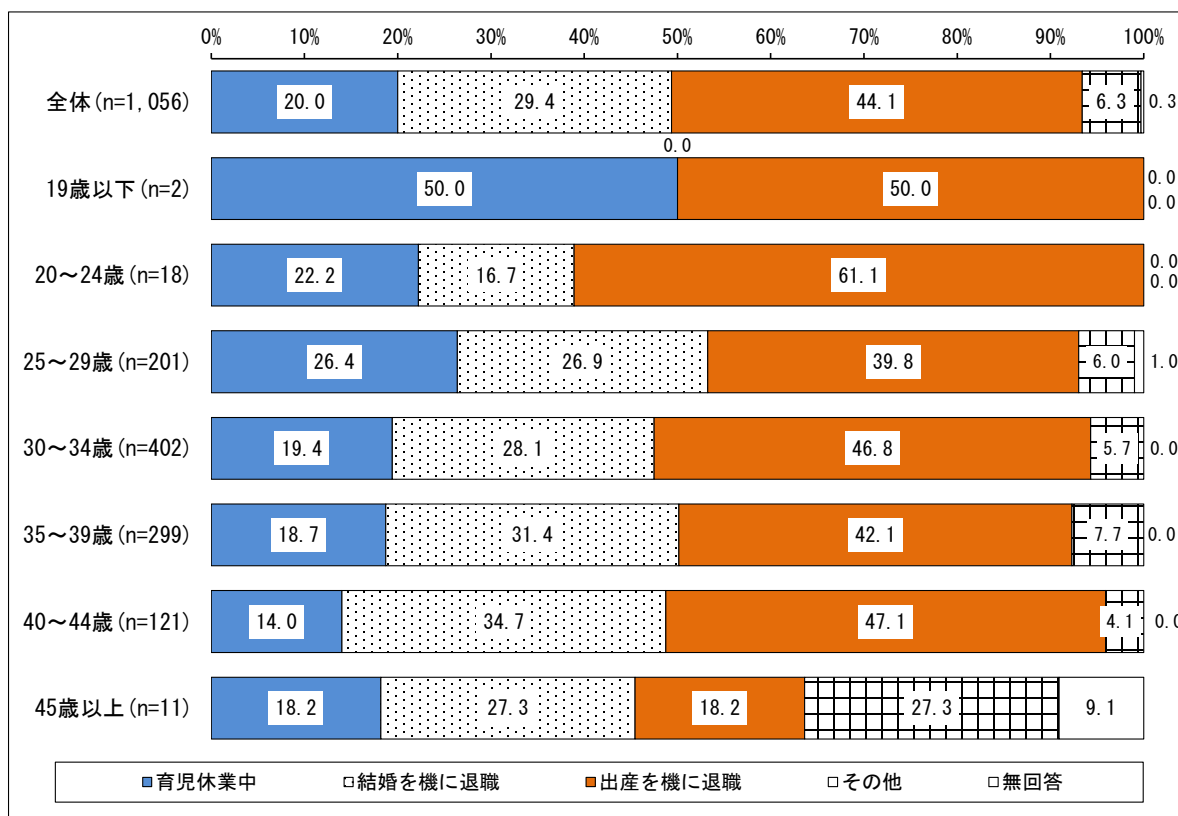


② 現在就労していない理由

母親の働いていない理由は、未就労者全体では、「出産を機に退職」が44.1%で最も多く、次いで「結婚を機に退職」が29.4%となっています。一方、「育児休業中」が20.0%と、現在未就労の母親の5人に1人となっています。(図表2-1-4③)

母親の年代別では、45歳以上を除く各年代で、「出産を機に退職」が最も多くなっています。「結婚を機に退職」は、40～44歳が34.7%で最も高く、「育児休業中」は20歳代以下の年代で高くなっています。(図表2-1-4③)

【図表 2-1-4③ 現在就労していない理由（未就労者全体、母親の年代別）】

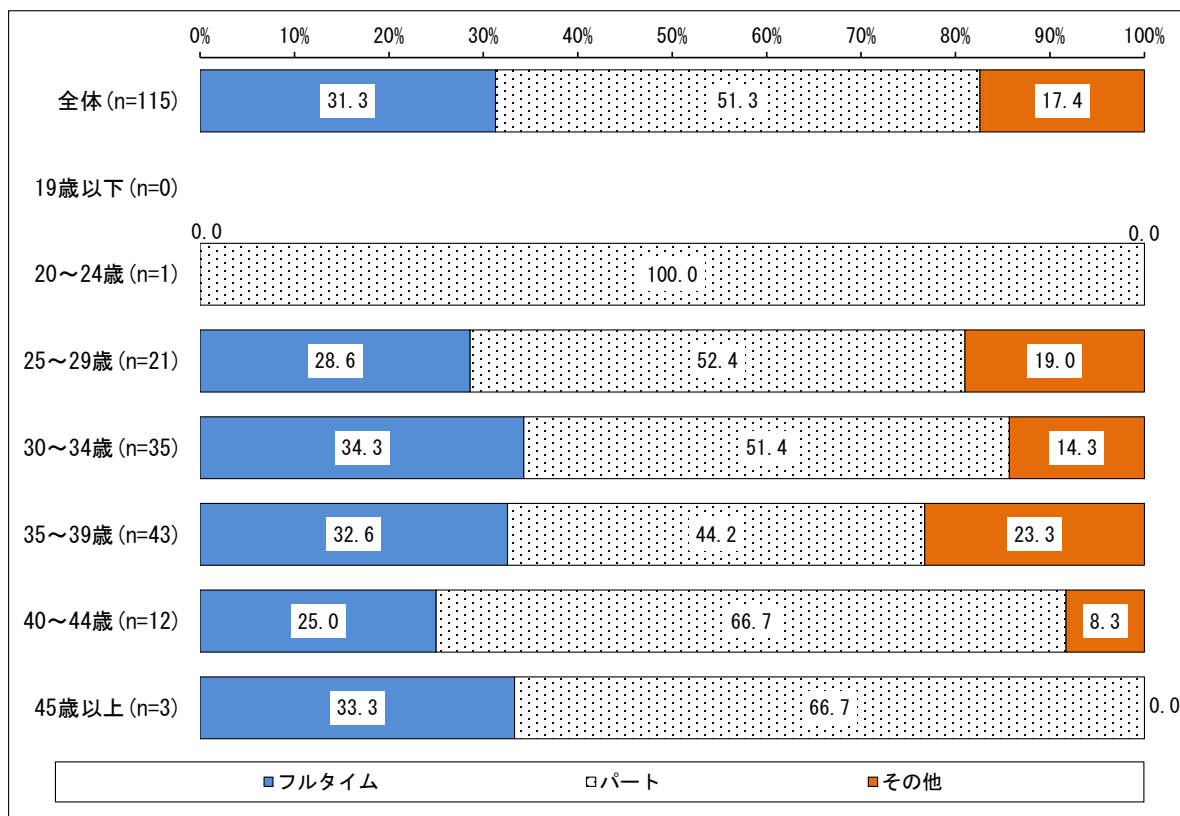


③ 就労する母親の就労形態

就労する母親の就労形態は、「パート」が51.3%で半数を占め、「フルタイム」は31.3%となっています。(図表2-1-4⑤)

母親の年代別では、各年代とも半数は「パート」で、40歳以上の年代では6割を占めています。(図表2-1-4⑤)

【図表 2-1-4⑤ 就労する母親の就労形態（就労者全体、母親の年代別）】

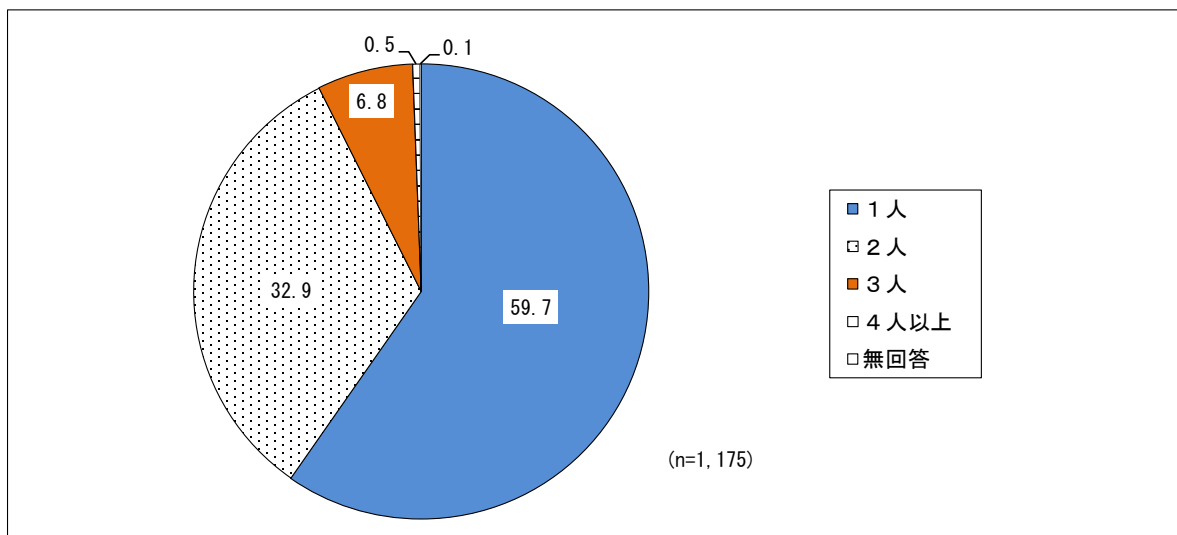


(5) 現在育てている子どもの人数と年齢分布

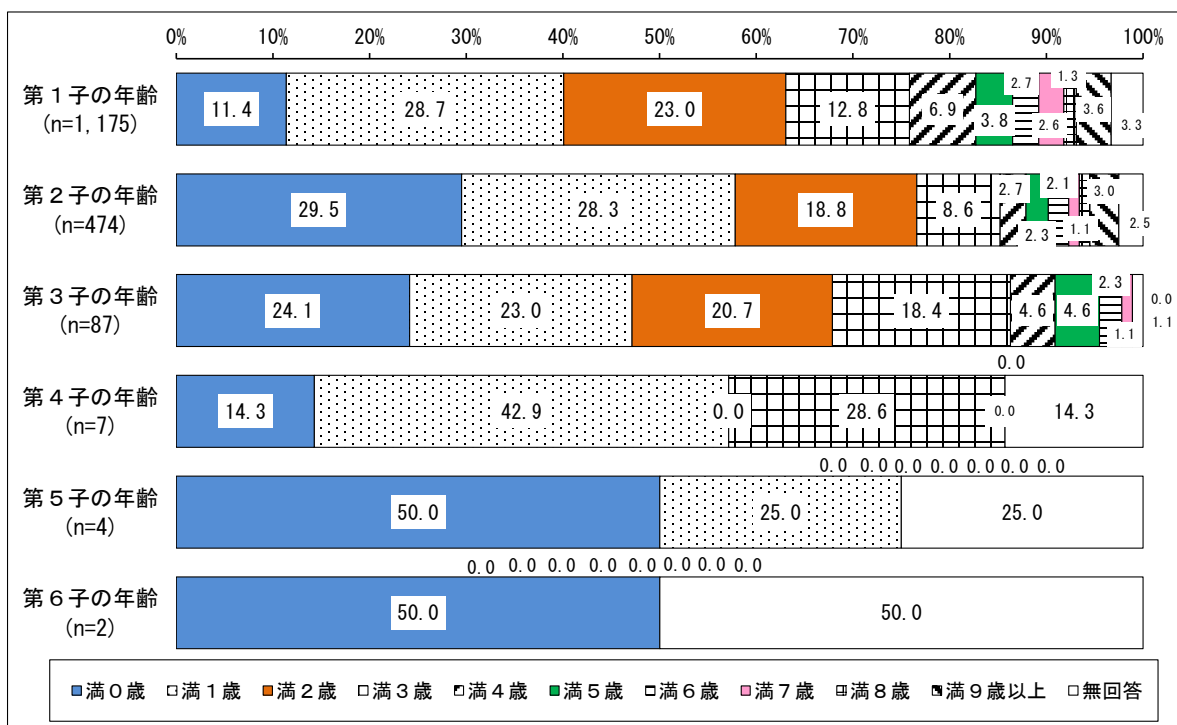
回答者の母親が育てている子どもの人数は、「1人」が59.7%で最も多く、次いで「2人」が32.9%となっています。(図表2-1-5①)

なお、出生順での子どもの年齢分布の状況は、図表2-1-5②で示したとおりです。

【図表 2-1-5① 現在育てている子どもの人数 (全体)】



【図表 2-1-5② 現在育てている子どもの年齢 (全体)】



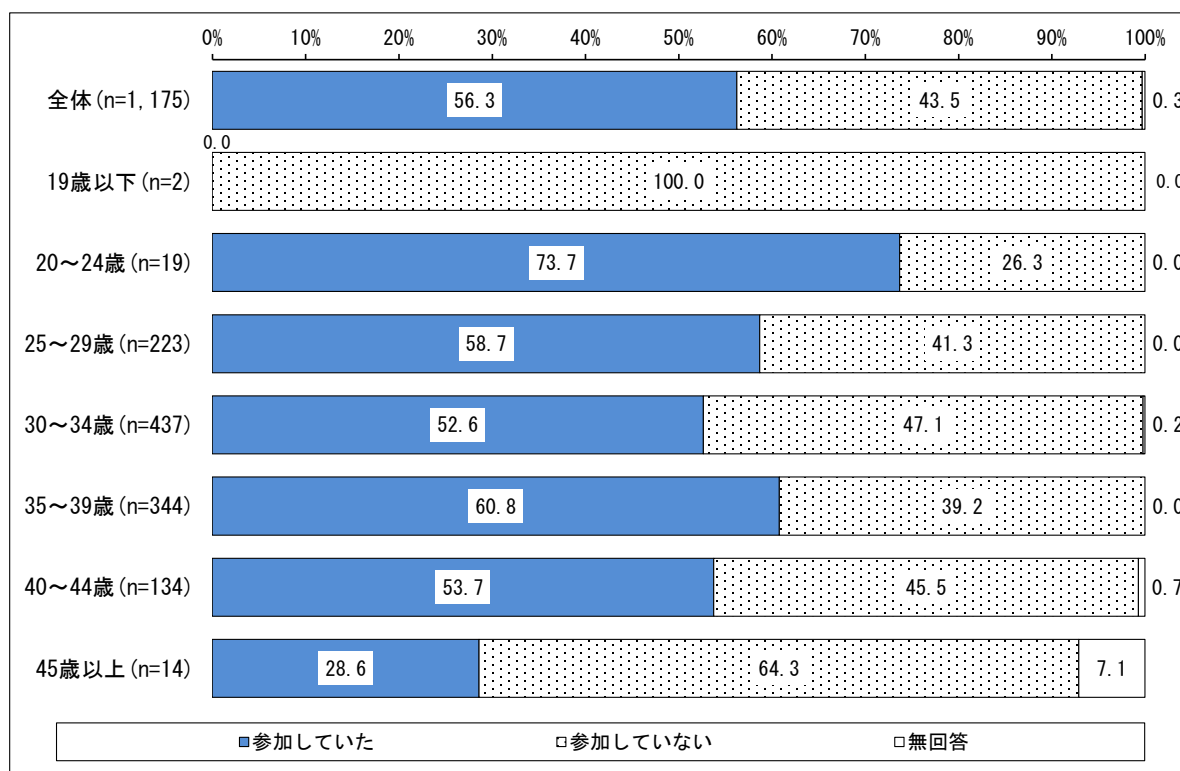
2. 地域子育て支援拠点利用者のつながり状況

(1) 子ども時代に地域活動に参加した経験

子ども時代に地域活動（子ども会やスポーツ少年団、ガールスカウトなど）に参加していた経験がある割合は、回答者全体では56.3%と半数を超えています。（図表2-2-1）

母親の年代別では、サンプル数が2人と少ない19歳以下を除くと、「参加していた」の割合は20～24歳が73.7%で最も高く、それ以降は、年代の上昇とともに低下傾向にあります。（図表2-2-1）

【図表 2-2-1 子ども時代に地域活動に参加した経験（全体、母親の年代別）】

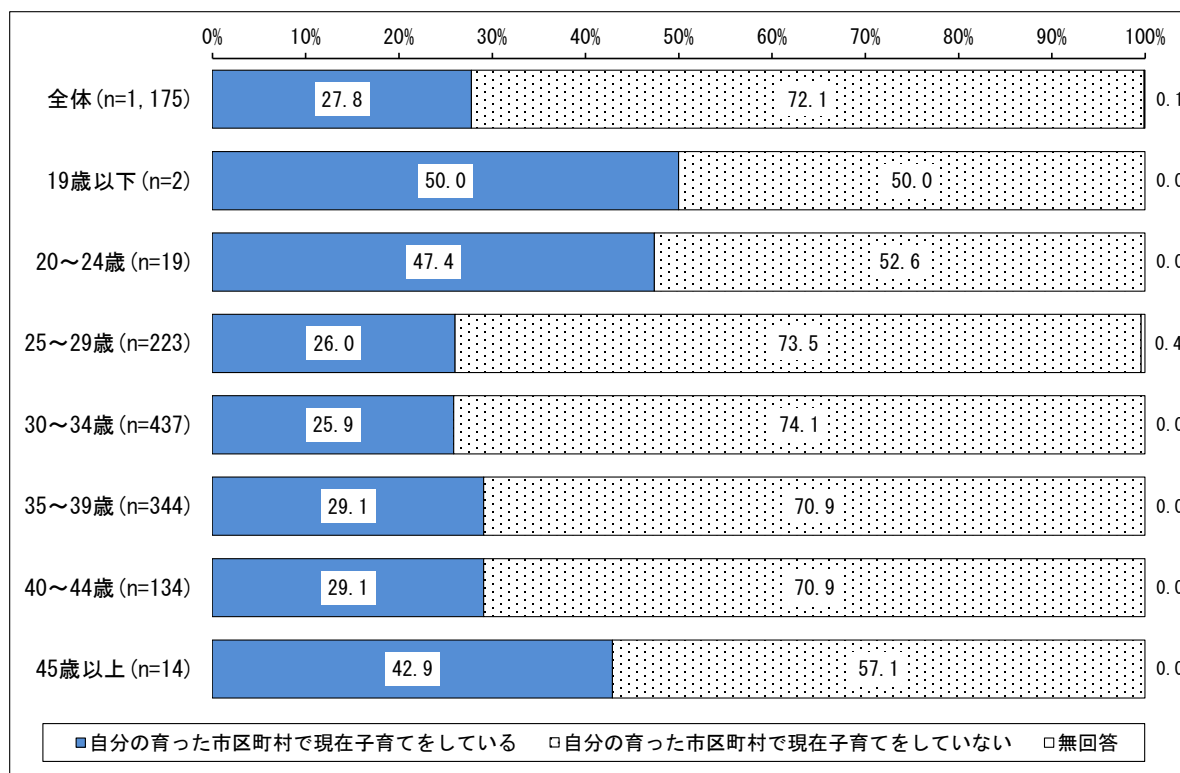


(2) 自分の育った市区町村での子育ての実施状況

現在、回答者の母親自身が育った市区町村で子育てをしているとの回答割合は、全体では27.8%で、72.1%の母親は自身が育っていないまちで子育てを行っています。(図表2-2-2)

母親の年代別では、20～24歳までの年代と45歳以上の年代では、自身が育った市区町村で子育てをしているとの回答割合が5割前後を占めていますが、25歳から44歳までの各年代の7割は自身が育っていないまちで子育てを行っています。(図表2-2-2)

【図表 2-2-2 自分の育った市区町村での子育ての実施状況（全体、母親の年代別）】

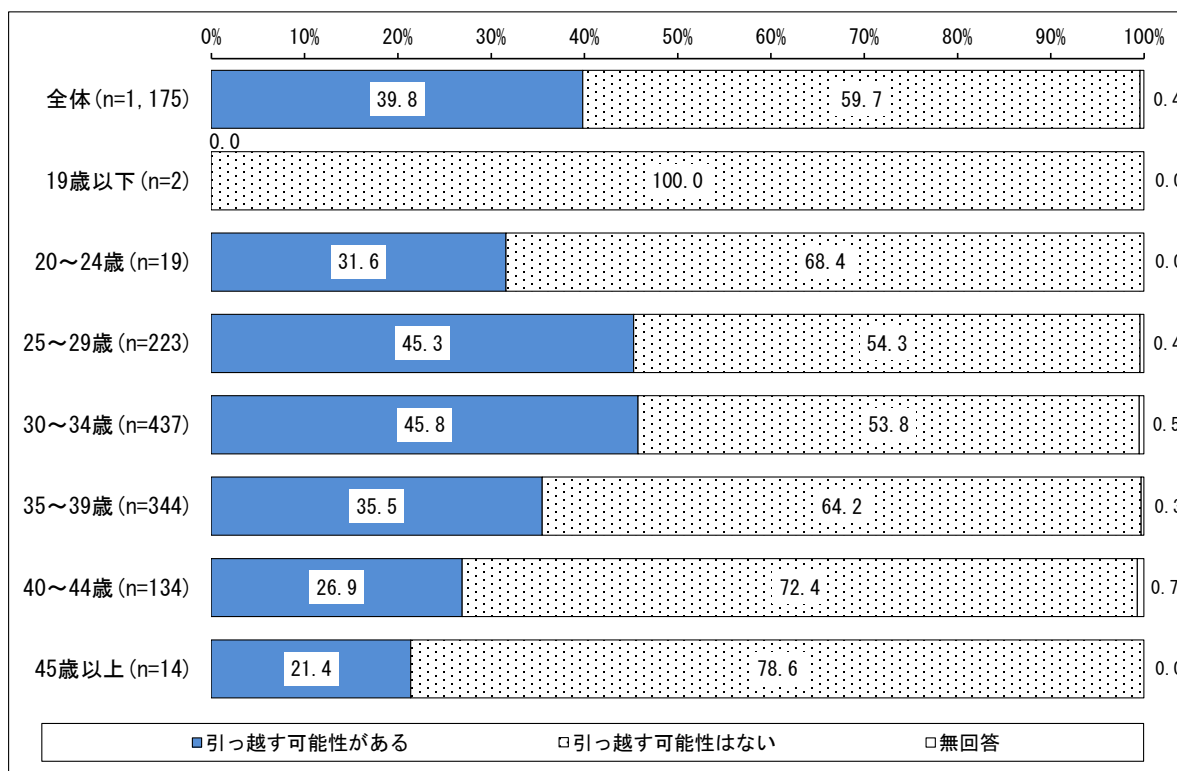


(3) 現在子育てを行っている市区町村から引っ越し可能性の有無

現在、回答者の母親が子育てを行っている市区町村から「引っ越し可能性がある」との回答割合は、全体では39.8%で、59.7%の母親は「引っ越し可能性はない」と回答しています。(図表2-2-3)

母親の年代別では、「引っ越し可能性がある」と回答した割合は、25～34歳までの各年代の割合が高く45%となっています。それ以上の年代では、「引っ越し可能性はない」の割合が上昇しています。(図表2-2-3)

【図表 2-2-3 現在子育てを行っている市区町村から引っ越し可能性の有無(全体、母親の年代別)】

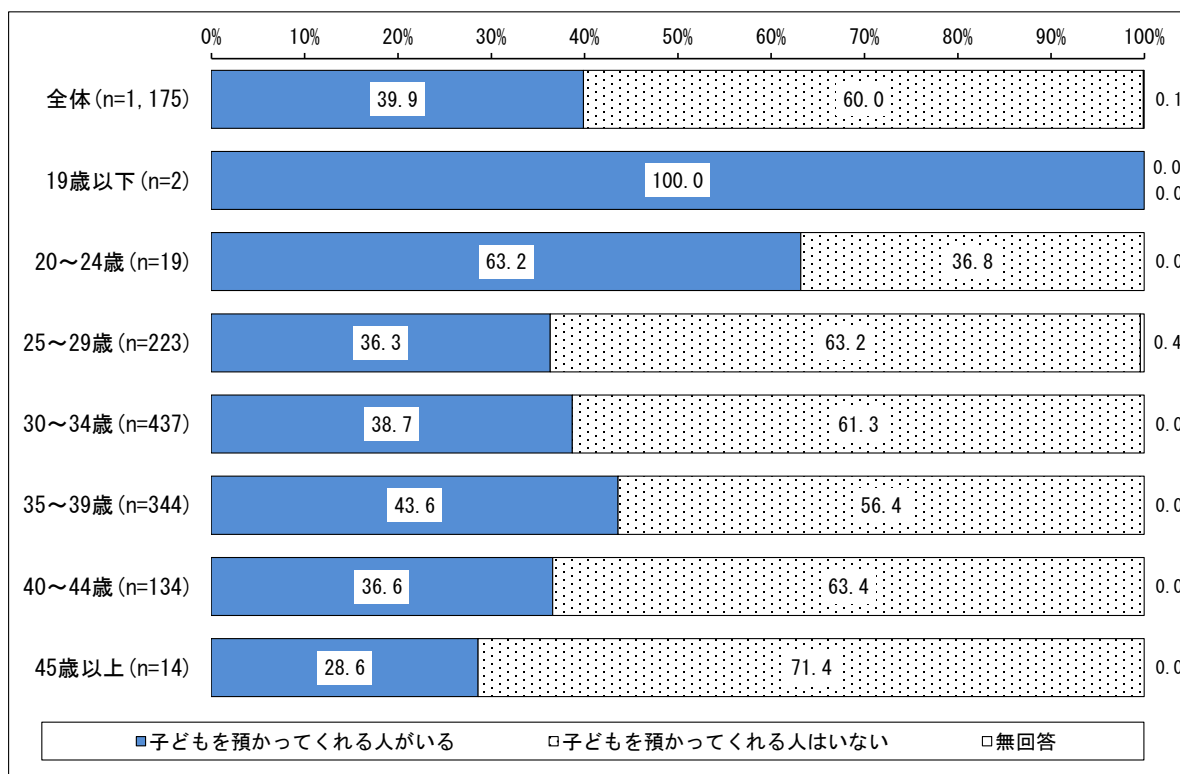


(4) 近所で子どもを預かってくれる人の有無

「近所に子どもを預かってくれる人がある」との回答割合は、全体では39.9%で、60.0%の母親は「子どもを預かってくれる人はいない」と回答しています。(図表2-2-3)

母親の年代別では、「近所に子どもを預かってくれる人がある」との回答割合は、24歳以下の年代で高く、40歳以上の年代では「子どもを預かってくれる人はいない」の回答割合が高くなっています。(図表2-2-4)

【図表 2-2-4 近所で子どもを預かってくれる人の有無 (全体、母親の年代別)】

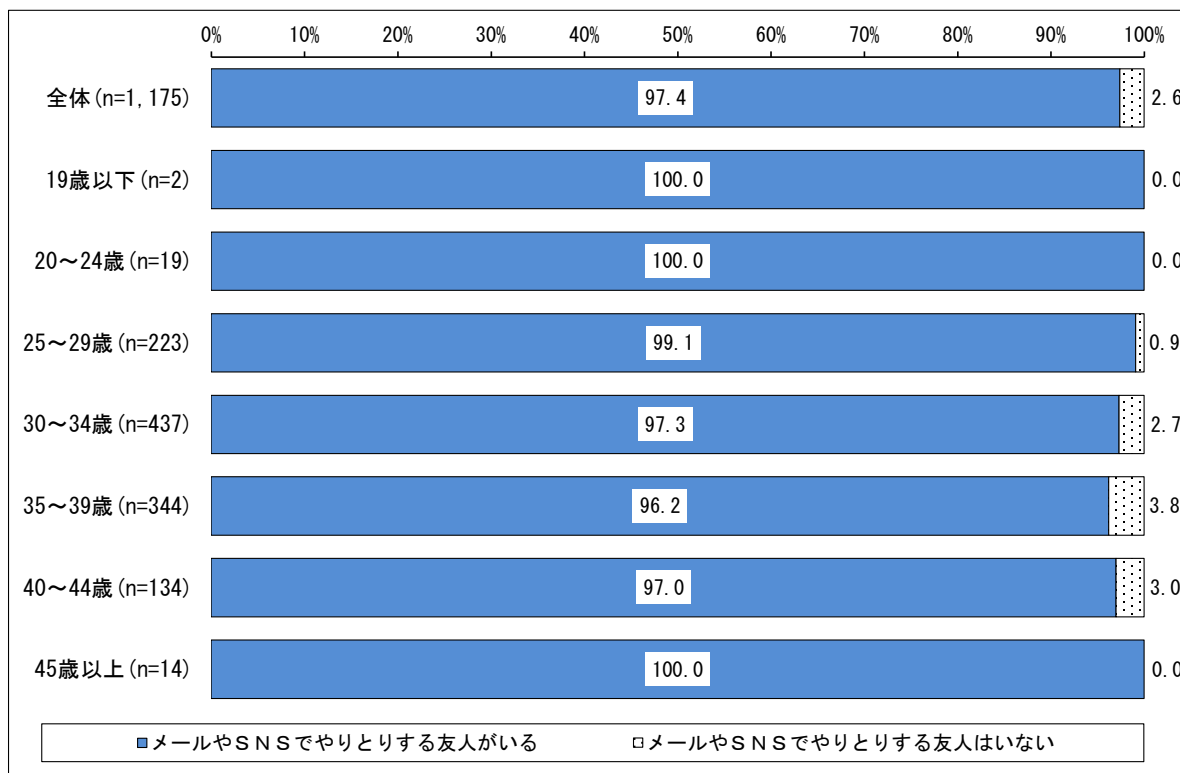


(5) メールやSNSでやりとりする友人の有無

全体の97.4%は「メールやSNSでやりとりする友人がいる」と回答しています。(図表2-2-5)

また、母親の年代別でも、年代に関係なくほぼ全員が、「メールやSNSでやりとりする友人がいる」と回答しています。(図表2-2-5)

【図表 2-2-5 メールやSNSでやりとりする友人の有無 (全体、母親の年代別)】



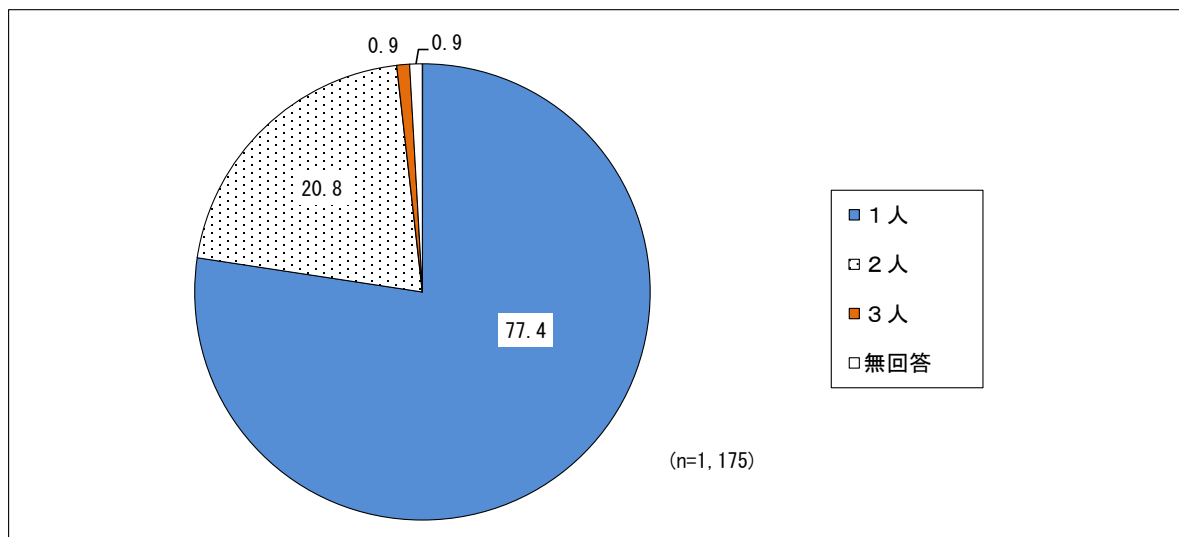
3. 地域子育て支援拠点の利用状況

(1) 子どもの拠点の利用状況

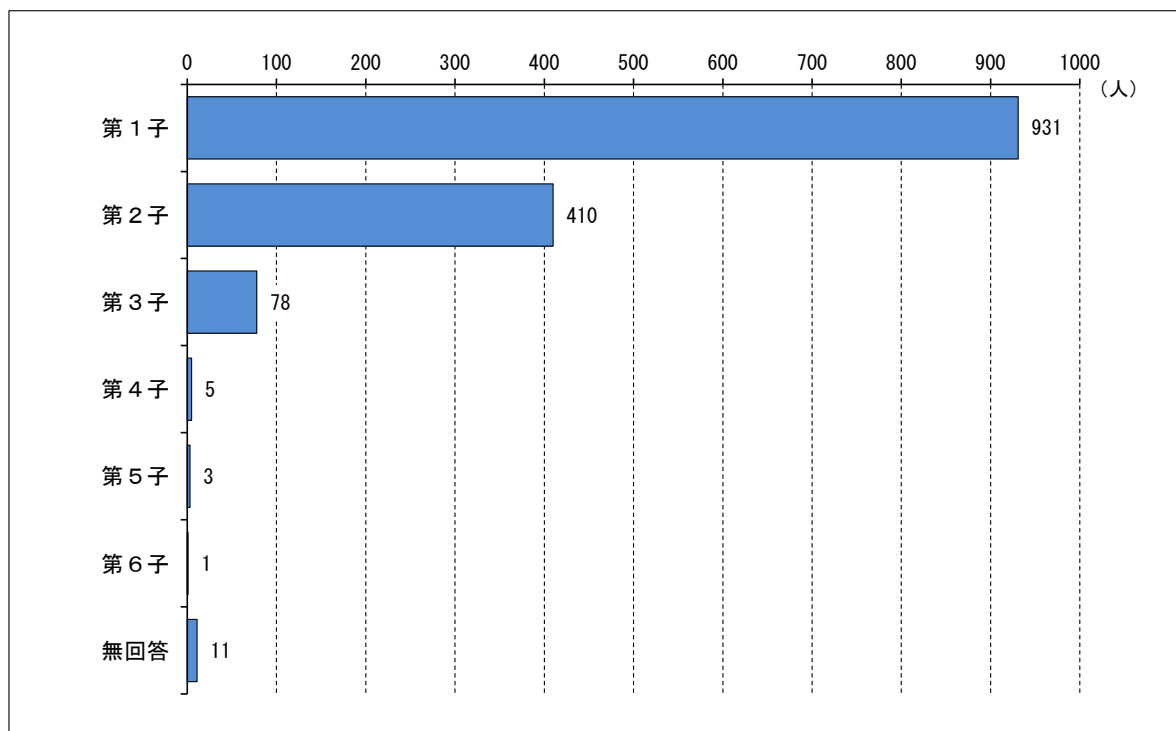
回答者の母親が育てている子どものうち、現在拠点を一緒に利用している子どもの人数は「1人」が77.4%で最も多く、次いで「2人」の20.8%です。(図表2-3-1①)

出生順では、「第1子」と利用している母親が931人で最も多く、次いで「第2子」が410人となっています。(図表2-3-1②)

【図表 2-3-1① 拠点を一緒に利用する子どもの人数 (全体)】



【図表 2-3-1② 出生順でみた拠点を利用する母親の人数 (全体)】

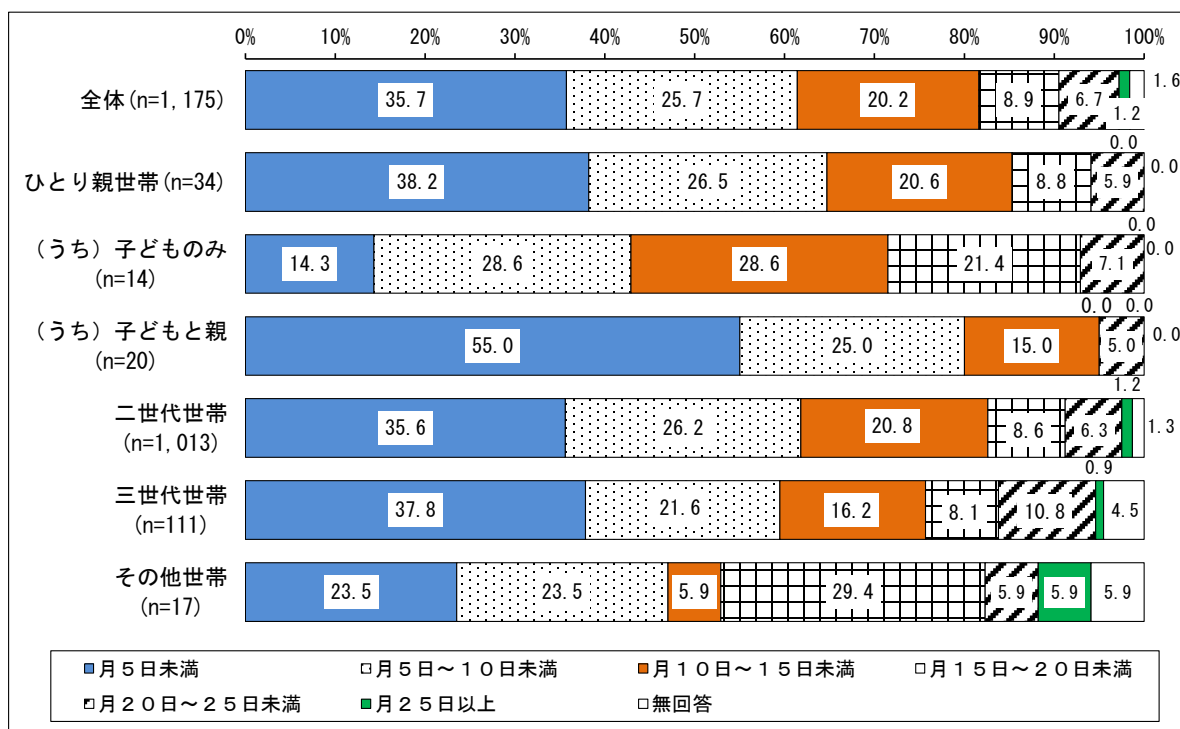


(2) 家族形態別でみた拠点の月あたりの利用頻度

全回答者のうち、拠点の利用は「月5日未満」が35.7%と最も多く、次いで「月5日～10日未満」が25.7%、「月10日～15日未満」が20.2%となっています。(図表2-3-2)

家族形態別では、「月5日未満」の割合は、ひとり親世帯が38.2%、「三世帯世帯」が37.8%で全体に比べやや高くなっていますが、ひとり親世帯のうち、母子世帯（親は未同居）では、「月5日未満」の割合は14.3%と低く、月5日以上各割合が高くなっています。特に「月15日～20日未満」の割合は21.4%で全体平均の8.9%を大きく上回っています。(図表2-3-2)

【図表 2-3-2 拠点の月あたりの利用頻度（全体、家族形態別）】

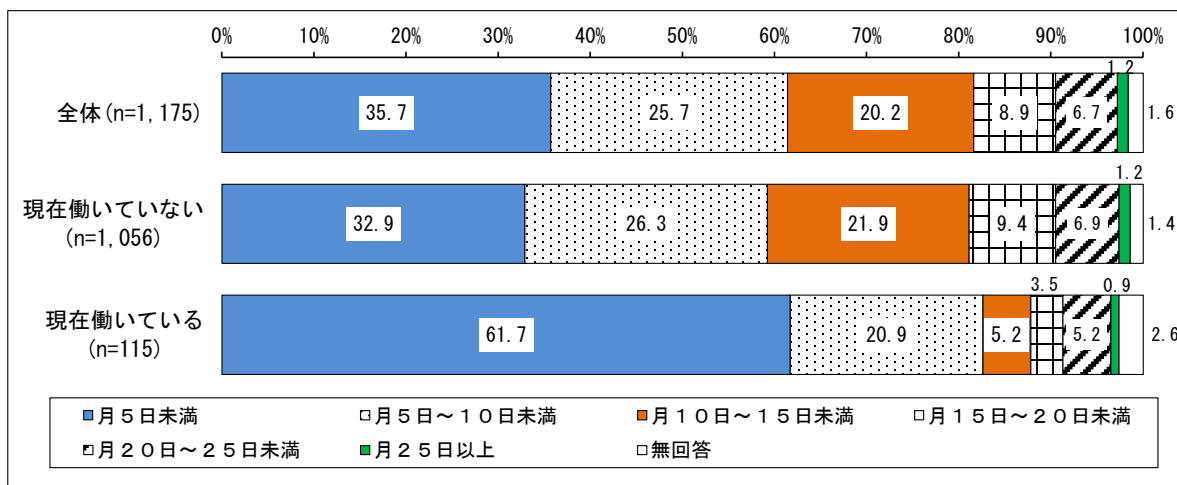


(3) 就労状況別でみた拠点の月あたりの利用頻度

① 就労の有無別の利用頻度

就労状況別では、就労の有無に関わらず、拠点の利用が「月5日未満」の割合が最も高くなっていますが、現在働いていない母親の割合（32.9%）は、働いている母親の割合（61.7%）のほぼ半分と低く、月5日以上の各割合が高くなっています。（図表2-3-3①）

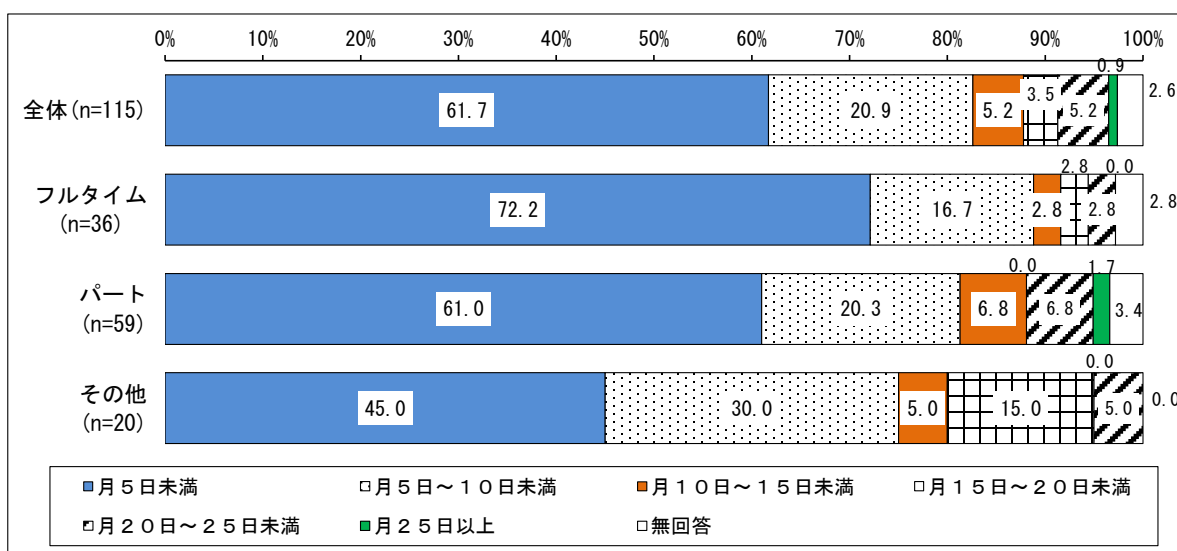
【図表 2-3-3① 拠点の月あたりの利用頻度（全体、就労の有無別）】



③ 就労形態別の利用頻度

就労形態別で見ると、拠点の利用が「月5日未満」の割合は、フルタイム就労（72.2%）のほうが、パート就労（61.1%）に比べ11.2ポイント高くなっています。（図表2-3-3②）

【図表 2-3-3② 拠点の月あたりの利用頻度（全体、就労形態別）】



4. 地域子育て支援拠点の利用前後の子育て状況や心理状況

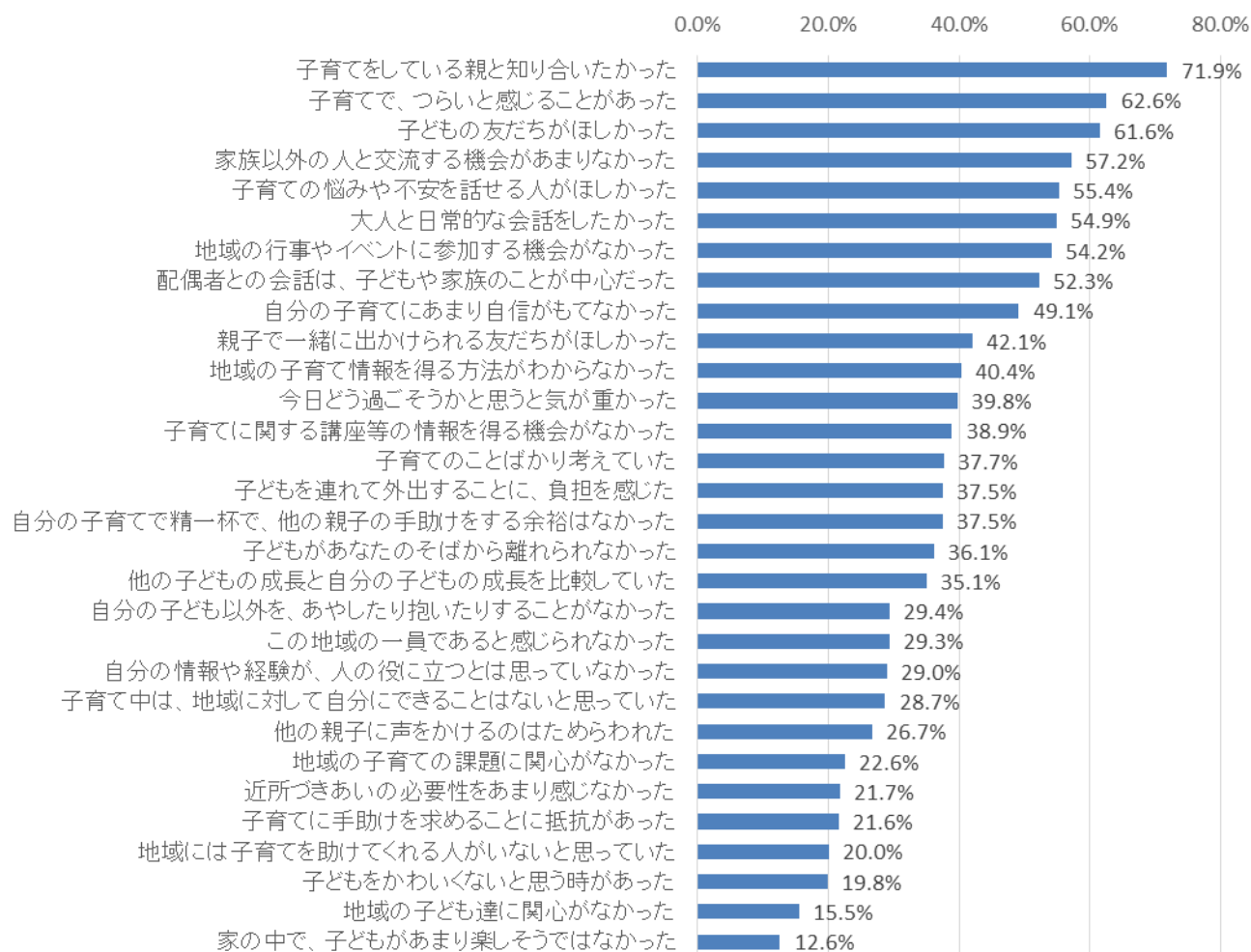
(1) 単純集計結果による利用前後の状況

地域子育て支援拠点を利用している母親に対し、拠点を利用する前の自身の子育ての状況や子育て中の心理状況が利用後どのように変わったかについてたずねました。質問は30項目について、あてはまるかどうかを聞いており、以下では「はい」と答えた母親の割合を示しています。質問文は、子育てにおける不足や願望、悩みなどのマイナス要素に着目しており、「はい」と答えた母親が多い項目は、多くの母親が悩んだり、課題と考えたりしている項目だと考えられます。

利用前の各選択肢の回答分布の状況は、図表2-4-1で示すとおりで、子育てをしている親と知り合いたかった(71.9%)が最も多くなっています。これに次いで「子育てで、つらいと感じることがあった」(62.6%)で、以下「子どもの友だちがほしかった」(61.6%)、「家族以外の人と交流する機会があまりなかった」(57.2%)、「子育ての悩みや不安を話せる人がほしかった」(55.4%)、「大人と日常的な会話をしたかった」(54.9%)、「地域の行事やイベントに参加する機会がなかった」(54.2%)、「配偶者との会話は、子どもや家族のことが中心だった」(52.3%)などが5割を超えています。

【図表 2-4-1 拠点を利用する前の子育て状況に関する答え（全体）】

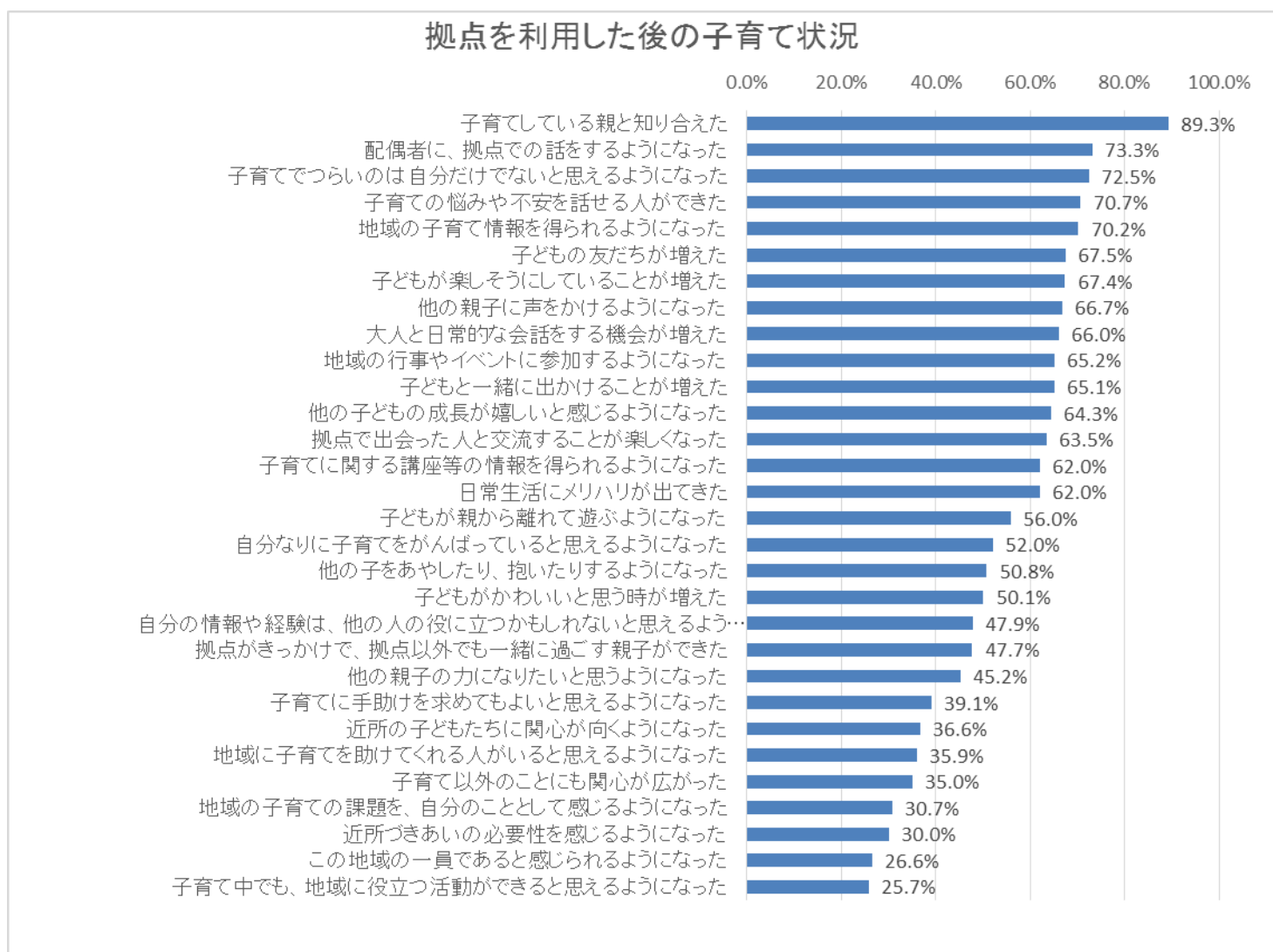
拠点を利用する前の子育て状況



一方、拠点を利用した後に子育ての状況がどう変化したかについても、30項目について聞きました。以下では「はい」と答えた母親の割合を示しています。こちらの質問文は、拠点利用前の課題や悩みが解決されたり、子育ての状況がよくなったりしたか、というプラス要素に着目しており、「はい」と答えた母親が多い項目は、多くの母親が拠点利用後に改善されたと感じている項目だと考えられます

利用後の各選択肢の回答分布の状況は、図表2-4-2で示すとおりで、「子育てをしている親と知り合えた」(89.3%)が最も多くなっています。これに次いで「配偶者に、拠点での話をするようになった」(73.3%)で、以下「子育てでつらいのが自分だけでないと思えるようになった」(72.5%)、「子育ての悩みや不安を話せる人ができた」(70.7%)、「地域の子育て情報を得られるようになった」(70.2%)、「子どもの友だちが増えた」(67.5%)、「子どもが楽しそうにしていることが増えた」(67.4%)、「他の親子に声をかけるようになった」(66.7%)などが3分の2を超えています。

【図表2-4-2 拠点を利用した後の子育て状況に関する答え（全体）】



(2) 拠点利用後、子育ての状況がプラスに変化した利用者（事業の寄与率）

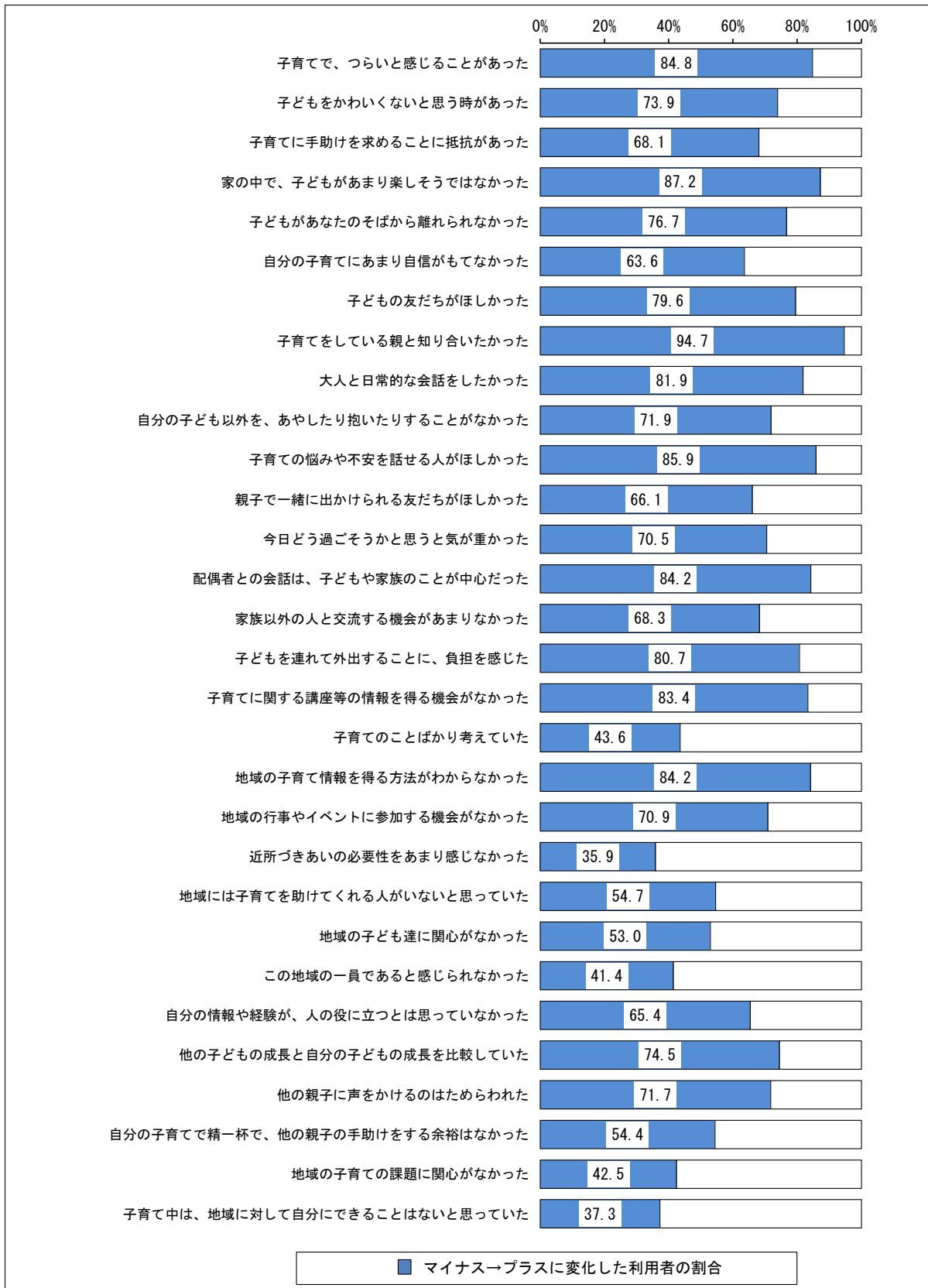
ここでは、拠点利用前の子育ての状況や子育て中の心理状況に関しネガティブ項目を選択した母親の中で、利用後、子育てに対して何らかのポジティブな効果を得られたりプラスの変化があったりした母親の割合を算出し、それを「マイナス→プラスに変化した利用者の割合」とし、「拠点が子育て状況にプラス効果を与えた寄与率(事業の寄与率)」ととらえ、どの項目の寄与率が高いのかについて把握を行いました。

具体的に一例をあげると、利用前の状況で「1. 子育てで、つらいと感じることがあった」を選択した利用者のうち、利用後の対となっている選択肢項目である「1. 子育てでつらいのは自分だけでないと思えるようになった」の割合を算出しました。これをすべての選択肢について行いました。なお、事業が与える心理的効果の効果・影響度をみることが目的のため、寄与率の算出は、利用前後のどちらかしか選択していない回答は対象外とし、対となっている選択項目の両方とも選択している回答のみを対象に行っています。

以上の考え方にに基づき、30項目の選択項目の中で、特に他者とのつながりや他者と積極的に関わる意識・態度に深く関与すると考えられる項目に着目し、拠点の利用により子育て状況や心理状況に対しプラス変化に寄与すると考えられる選択項目を列挙すると、次に示す項目群です。

- ①「子育てをしている親と知り合いたかった」＜寄与率94.7%＞
 - ②「家の中で、子どもがあまり楽しそうではなかった」＜寄与率87.2%＞
 - ③「子育ての悩みや不安を話せる人がほしかった」＜寄与率85.9%＞
 - ④「配偶者との会話は、子どもや家族のことが中心だった」＜寄与率84.2%＞
「地域の子育て情報を得る方法がわからなかった」＜寄与率84.2%＞
 - ⑥「子育てに関する講座等の情報を得る機会がなかった」＜寄与率83.4%＞
 - ⑦「大人と日常的な会話をしたかった」＜寄与率81.9%＞
 - ⑧「他の親子に声をかけるのはためらわれた」＜寄与率71.7%＞
 - ⑨「自分の情報や経験が、人の役に立つとは思っていなかった」＜寄与率65.4%＞
- (図表2-4-2参照)

【図表 2-4-2 拠点利用後、子育ての状況がプラスに効果を与えた寄与率（全体）】



(3) 拠点利用後のプラス変化による利用者（母親）の特性

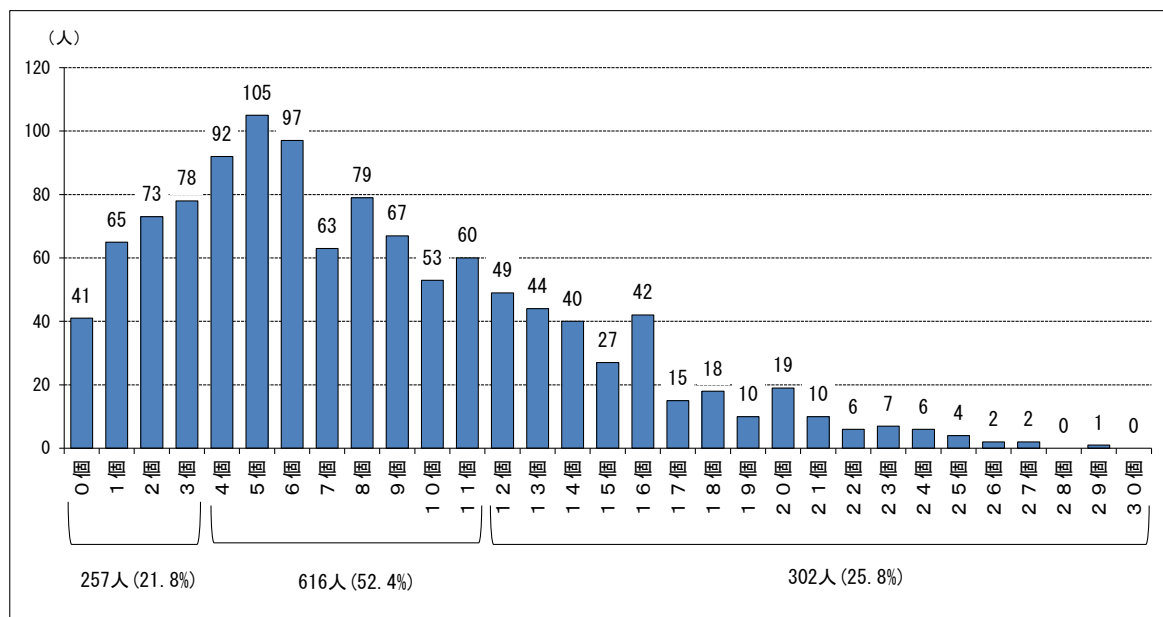
① 拠点の利用によりもたらされたプラス変化の個数のカウント

拠点前後の子育て状況や心理状況に関する選択項目30項目の中で、拠点利用によりプラスの状況に変化した選択項目数をカウントし、その総数を25：50：25の比に応じ3つの変化区分に分類しました。

【分類基準】

- ・「プラス変化・少」：プラス変化個数が0個から3個まで（総数のうち概ね25%のところまで。総数の約25%）
- ・「プラス変化・中」：プラス変化の個数が4個から11個まで（総数のうち概ね25～75%のところまで。総数の約50%）
- ・「プラス変化・多」：プラス変化の個数が12個から30個まで（総数のうち概ね75～100%のところまで。総数の約25%）

【図表 2-4-3① プラスに変化した選択項目の個数分布（全体）】



プラスに変化した選択項目の個数が多いほど拠点の利用効果が高く、個数が低いほどその利用効果は低いととらえることとしました。

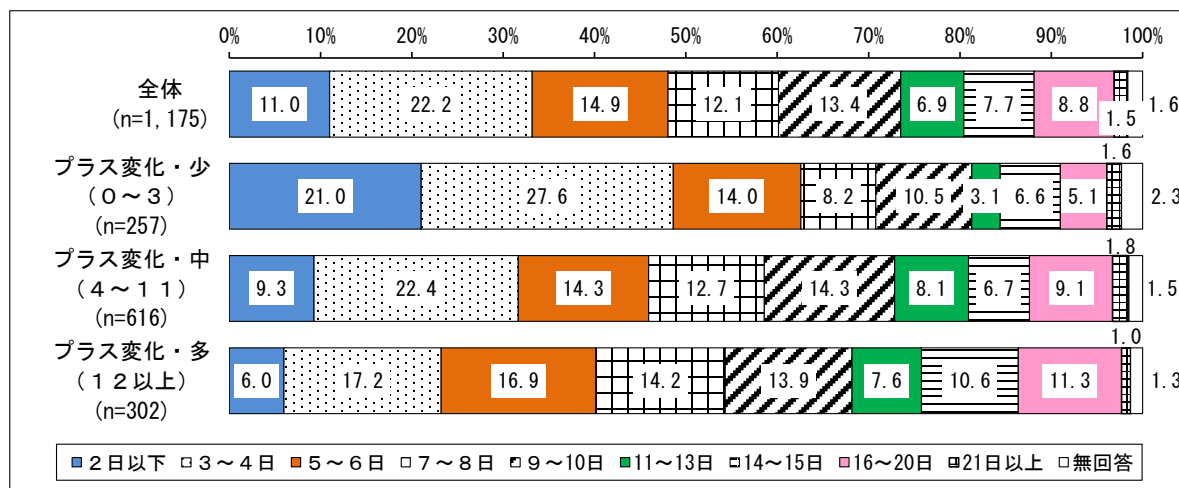
次にプラスに変化した選択項目数の多寡により利用者（母親）の特性の違いを把握するため、拠点の利用頻度のほか、母親の年代や就労状況などのプルフィール、つながり状況などに関する項目との相関をクロス集計により分析しました。

その結果は次のページ以降に示すとおりです。

② 拠点の月あたりの利用頻度

拠点の月当たりの利用頻度をみると、プラス変化・少の母親は、全体平均に比べ「2日以下」と「3～4日」の割合が高くなっています。プラス変化・中と多は、少に比べ「2日以下」と「3～4日」の割合は低く、利用頻度は、特にプラス変化が多い方で高くなっています。(図表2-4-3②)

【図表 2-4-3② 拠点の月あたりの利用頻度（拠点利用によるプラス変化個数別）】

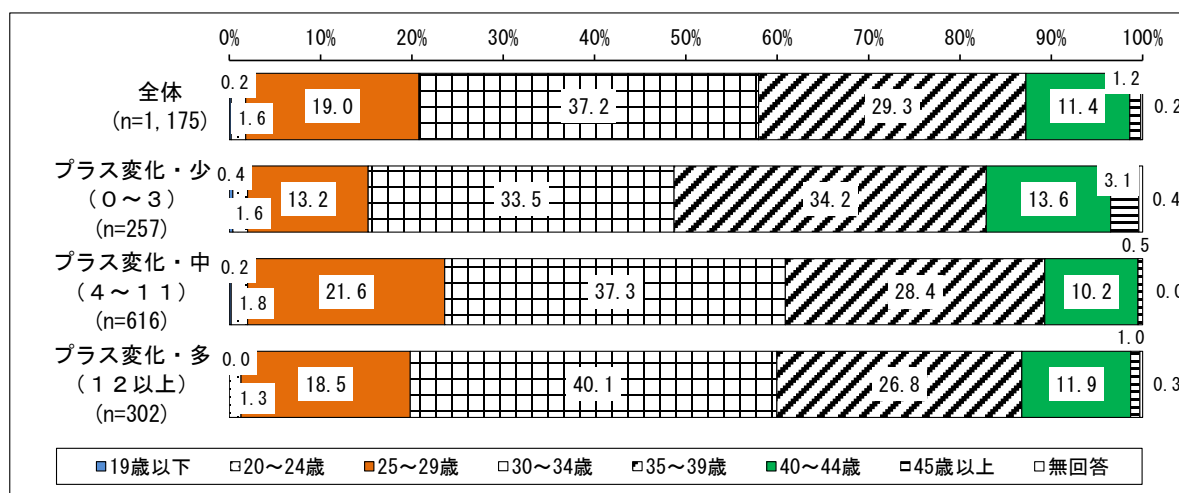


③ 母親のプロフィールの状況

(ア) 年代

プラス変化の多寡に関係なく、「30～34歳」と「35～39歳」の割合が高くなっています。その中でも拠点利用によるプラス変化・少では「35～39歳」、プラス変化・中では「25～29歳」が、プラス変化・多では「30～34歳」の割合がそれぞれ高くなっています。(図表2-4-3③)

【図表 2-4-3③ 母親の年代（拠点利用によるプラス変化個数別）】

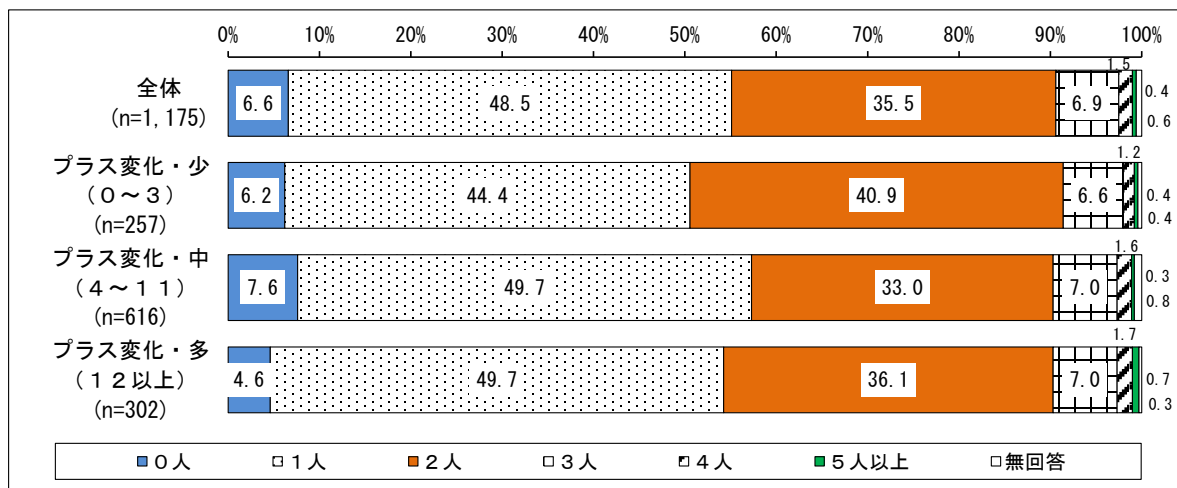


(イ) 母親のきょうだい人数

プラス変化の多寡に関係なく、「1人」(2人きょうだい)の割合が高くなっています。

拠点利用によるプラス変化・少では「2人」(3人きょうだい)の割合がプラス変化・中、多に比べやや高くなっています。(図表2-4-3④)

【図表 2-4-3④ 母親のきょうだい人数 (拠点利用によるプラス変化個数別)】

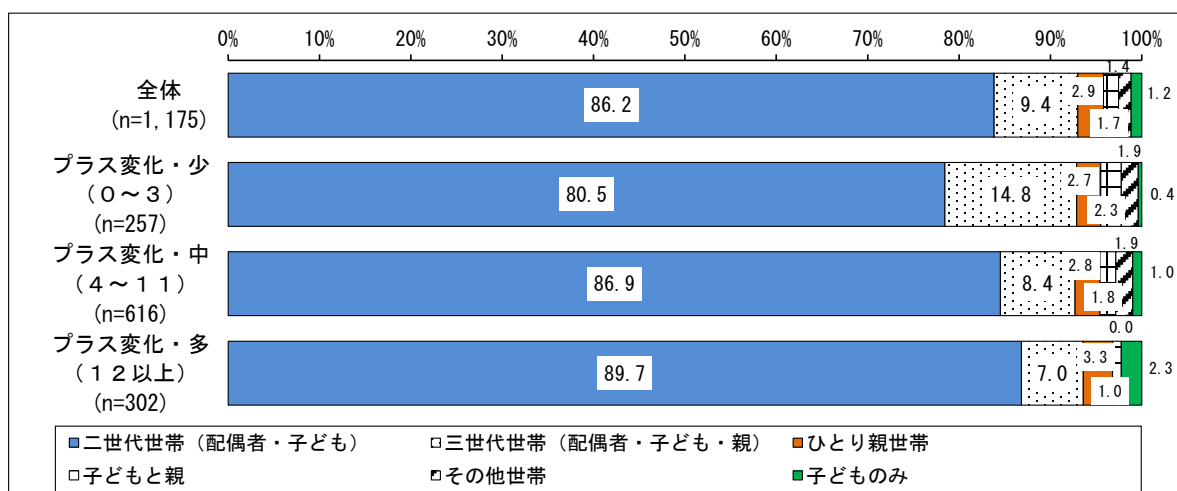


(ウ) 家族構成

プラス変化の多寡に関係なく、「二世帯世帯」の割合が高くなっています。

拠点利用によるプラス変化・少では「三世帯世帯」の割合がプラス変化・中、多に比べやや高くなっています。(図表2-4-3⑤)

【図表 2-4-3⑤ 家族構成 (拠点利用によるプラス変化個数別)】

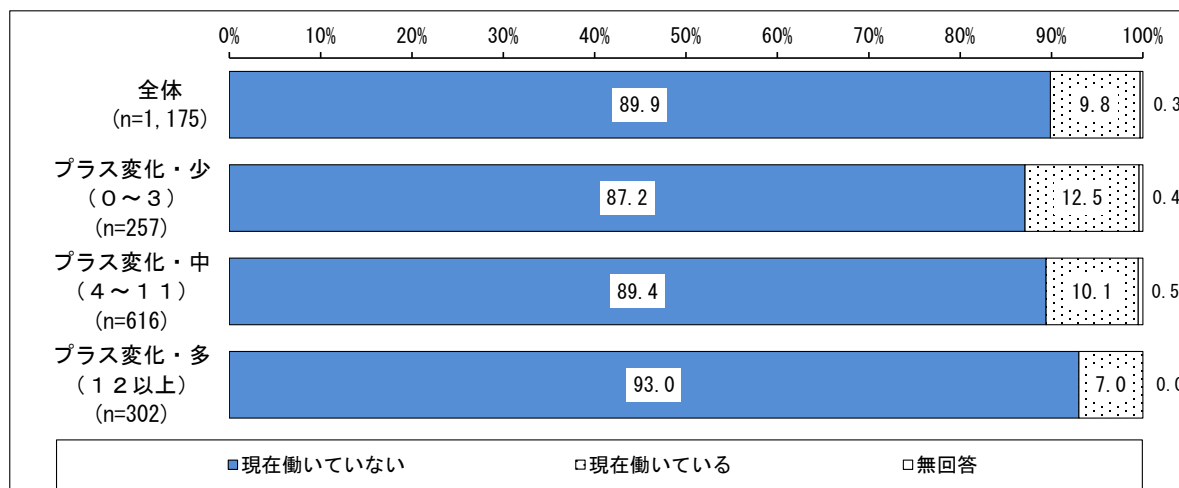


(エ) 就労状況

母親の現在の就労の有無をみると、プラス変化の多寡に関係なく、「現在働いていない」の割合が9割前後を占めています。

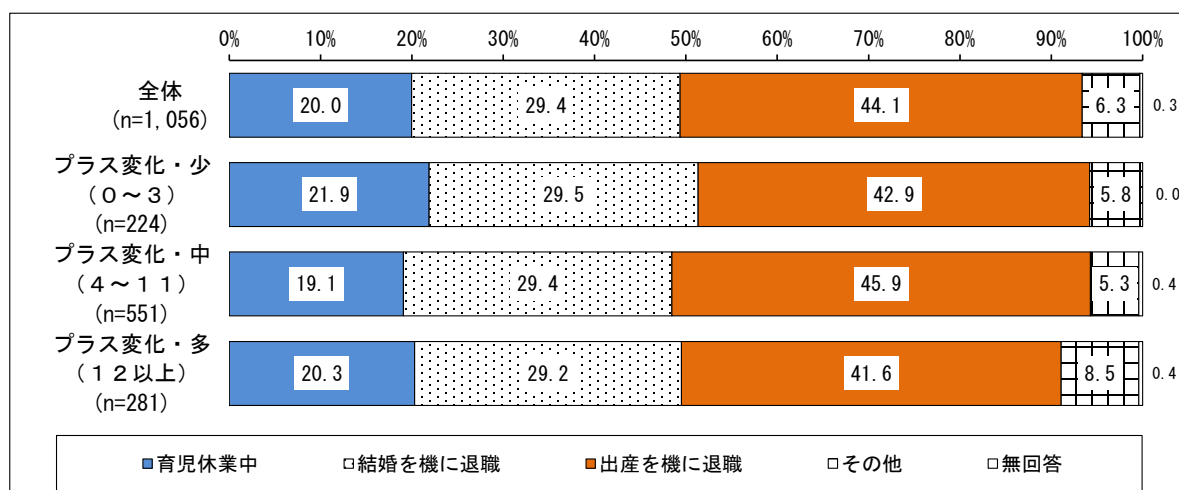
拠点利用によるプラス変化・少では「現在働いている」の割合がプラス変化・中、多に比べやや高くなっています。(図表2-4-3⑤)

【図表 2-4-3⑥ 就労の有無 (拠点利用によるプラス変化個数別)】



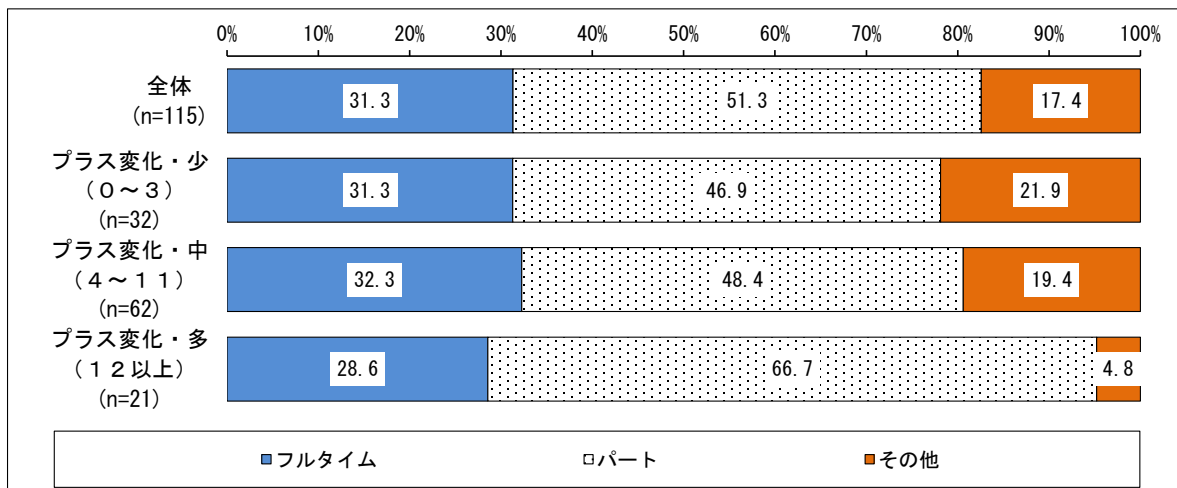
現在働いてない母親の未就労の理由をみると、プラス変化の多寡に関係なく、「出産を機に退職」の割合が高くなっています。(図表2-4-3⑦)

【図表 2-4-3⑦ 働いていない理由 (拠点利用によるプラス変化個数別)】



現在就労している母親の就労形態をみると、プラス変化の多寡に関係なく、「パート」の割合が高くなっています。特に、拠点利用によりプラス変化・多の母親の割合が66.7%と高くなっています。(図表2-4-3⑧)

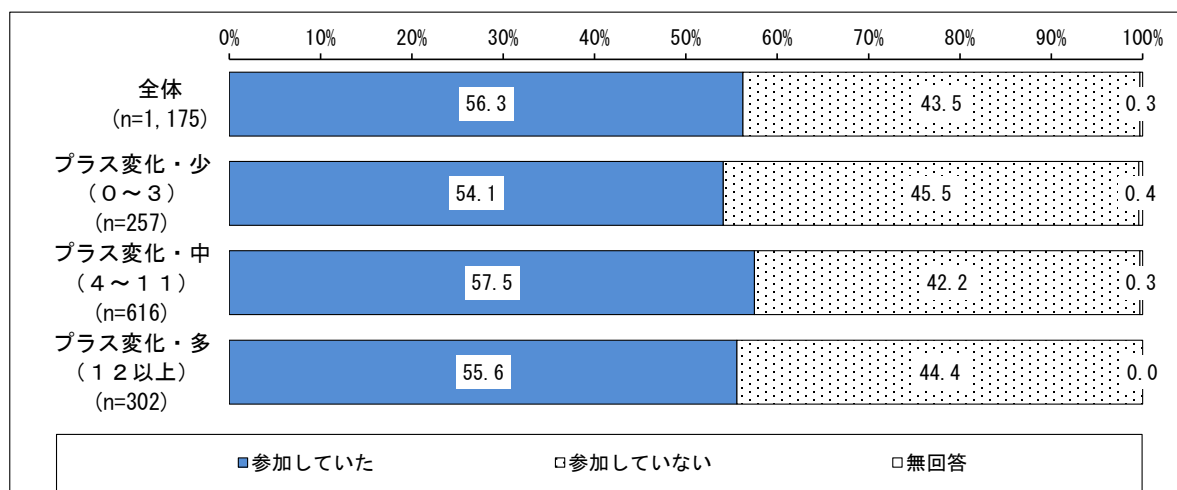
【図表 2-4-3⑧ 就労形態（拠点利用によるプラス変化個数別）】



(オ) つながり状況

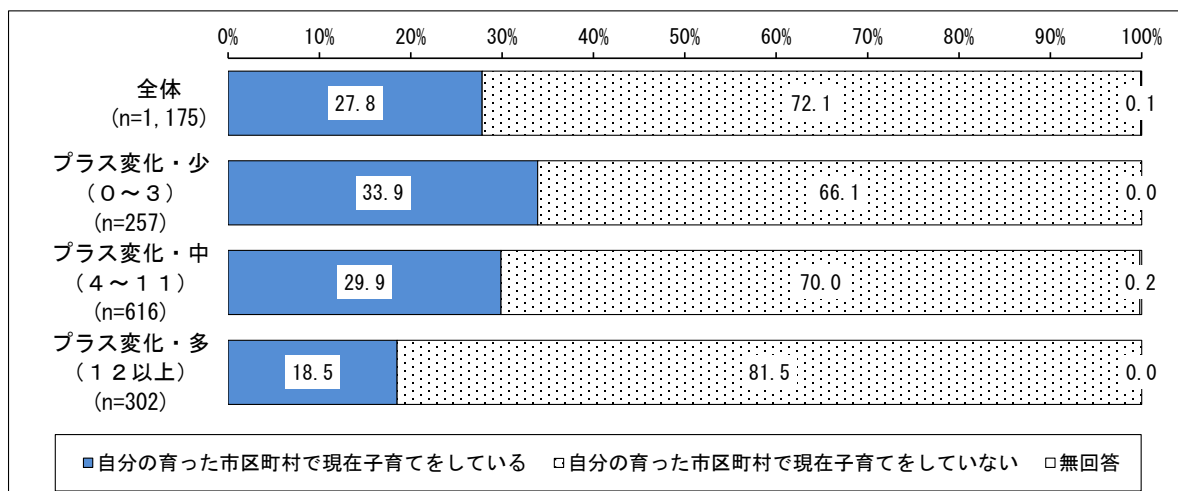
子ども時代に地域活動に参加した経験の状況をみると、プラス変化の多寡に関係なく、「参加していた」の割合が半数を占め、それぞれの違いはみられません。(図表2-4-3⑨)

【図表 2-4-3⑨ 子ども時代に地域活動に参加した経験（拠点利用によるプラス変化個数別）】



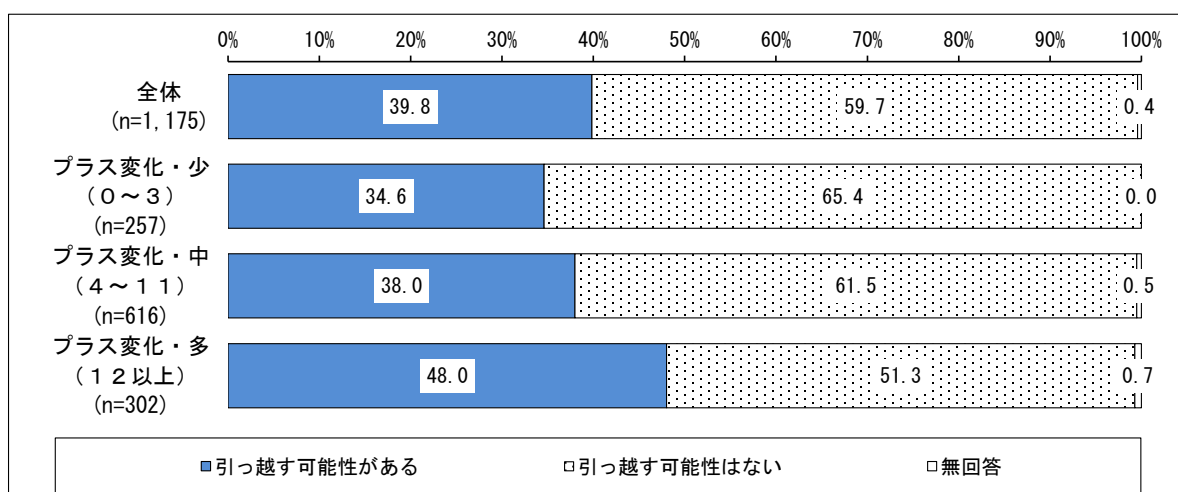
拠点利用によるプラス変化が多い層をみると、自分が育った市町村で子育てしていない母親（＝アウェイ育児）が81.5%を占め、プラス変化が少ない層における66.1%や中間の層における70.0%に比べて高くなっています。言い換えれば、アウェイ育児の母親の方が、プラス変化が多い傾向にあると言えます。（図表2-4-3⑩）

【図表 2-4-3⑩ 自分の育った市区町村での子育ての実施状況（拠点利用によるプラス変化個数別）】



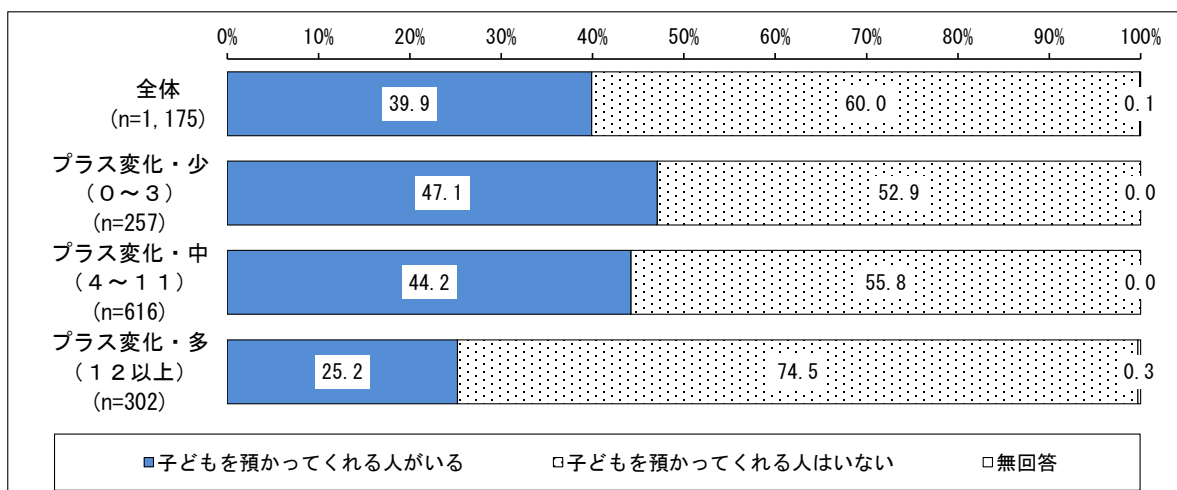
現在子育てを行っている市区町村から引っ越す可能性の有無をみると、プラス変化の多寡に関係なく、「引っ越す可能性はない」の占める割合が高くなっています。一方、「引っ越す可能性がある」割合は、拠点利用によるプラス変化・多の母親が48.0%で、プラス変化・少に比べ13.4ポイント高くなっています。（図表2-4-3⑪）

【図表 2-4-3⑪ 現在子育てを行っている市区町村から引っ越す可能性の有無（拠点利用によるプラス変化個数別）】



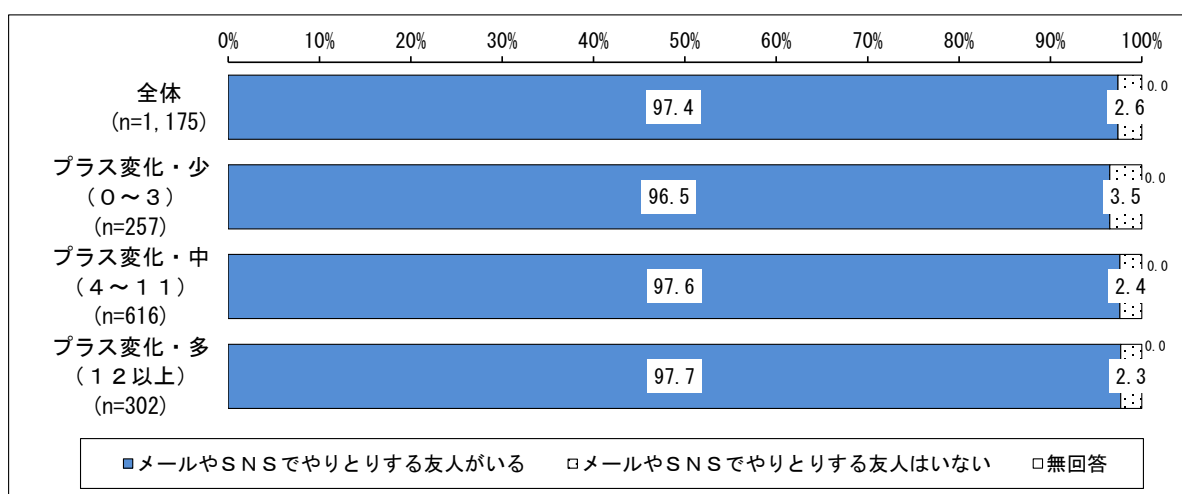
拠点利用によるプラス変化が多い層をみると、「近所で子供を預かってくれる人がいない」という母親が74.5%を占め、プラス変化が少ない層における52.9%や中間の層における55.8%に比べて高くなっています。言い換えれば、「近所で子供を預かってくれる人がいない」母親の方が、プラス変化が多い傾向にあると言えます。(図表2-4-3⑫)

【図表 2-4-3⑫ 近所で子どもを預かってくれる人の有無（拠点利用によるプラス変化個数別）】



メールやSNSでやりとりする友人の有無をみると、拠点利用によるプラス変化の多寡に関係なく、「メールやSNSでやりとりする友人がいる」の割合が9割台を占めています。(図表2-4-3⑬)

【図表 2-4-3⑬ メールやSNSでやりとりする友人の有無（拠点利用によるプラス変化個数別）】



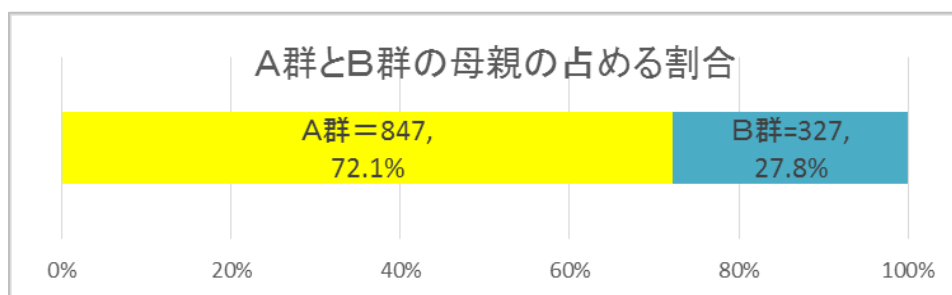
(4) 自分で育った市町村で子育てしているか否かによる違い

前節の図表 2-4-3⑩からは、自分で育った市町村で子育てしている母親よりも、自分で育った市町村以外で子育てしている母親の方が、拠点利用によるプラス変化が高いことが読み取れた。ここに着目し、拠点を利用している母親を2つのカテゴリーに分け、それぞれの状況と拠点利用の効果をより詳細に分析する。便宜上、自分で育った市町村以外で子育てしている母親をA群、自分で育った市町村で子育てしている母親をB群とする。

① A群とB群の母親の属性などの相違

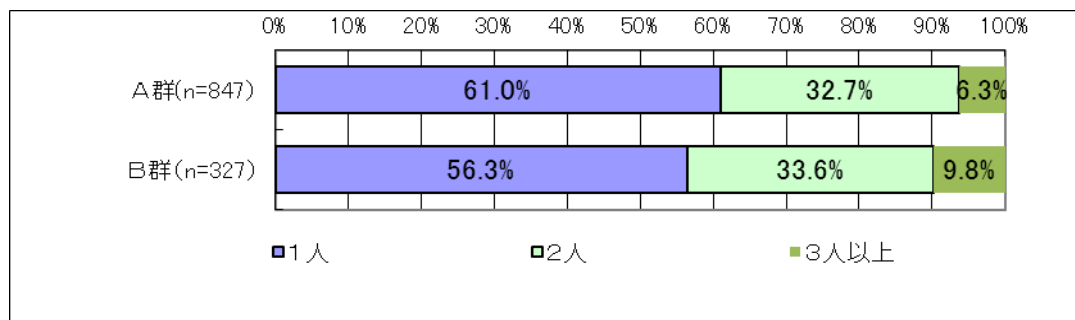
全体の中で、自分の育った市町村以外で子育てしている母親＝A群は72.1%、自分の育った市町村で子育てしている母親＝B群は27.8%を占めます。(図表2-4-4①)

【図表 2-4-4① A群とB群の割合】



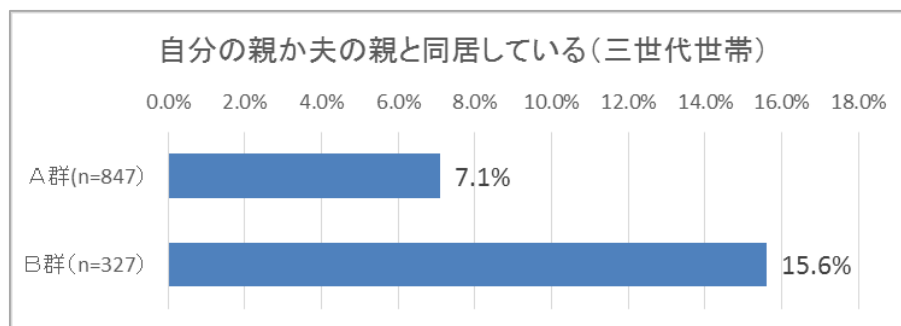
子どもの数を比較すると、A群では1人が61.0%、2人が32.7%、3人以上が6.3%。これに対しB群はそれぞれ56.3%、33.6%、9.8%となっており、自分の育った市町村で子育てしている母親の方がやや多い傾向がみられます。(図表2-4-4②)

【図表 2-4-4② 子どもの数】



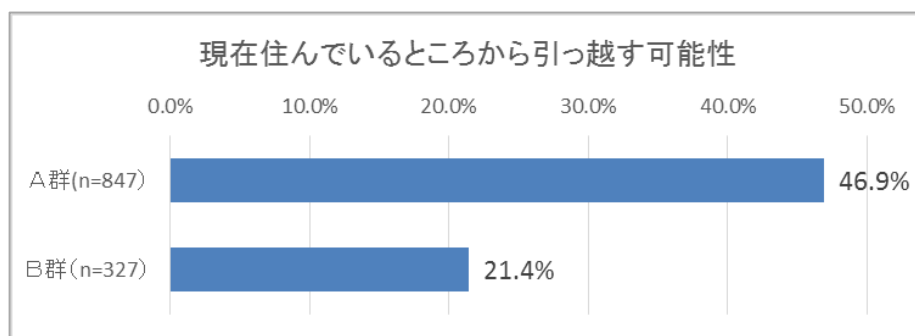
家族の状況を比較すると、自分の親か夫の親と同居している三世帯同居の割合が、A群の7.1%に対し、B群は15.6%と2倍以上になっています。(図表2-4-4③)

【図表 2-4-4③ 自分の親か夫の親と同居しているかどうか】



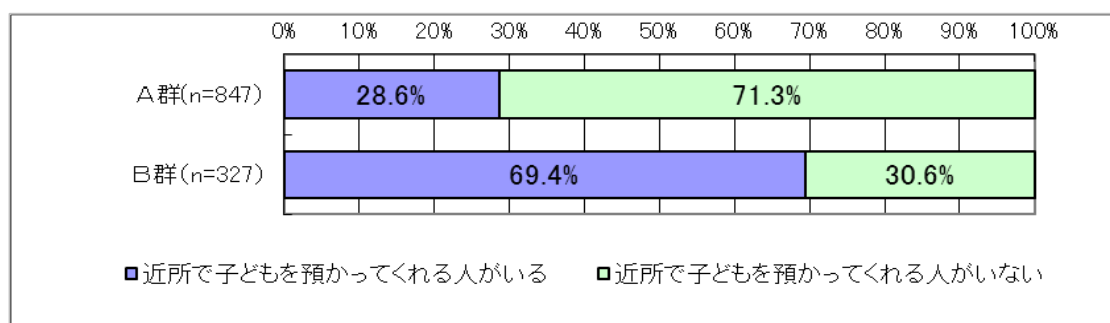
現在住んでいるところから引っ越す可能性があるかどうかを訪ねた質問には、A群の46.9%が「はい」と答えたのに対し、B群は21.4%と半分以下でした。自分の育った市町村で子育てしていない母親の方が、現在の地域からも引っ越す可能性が高いと考えられます。(図表2-4-4④)

【図表 2-4-4④ 現在住んでいるところから引っ越す可能性】



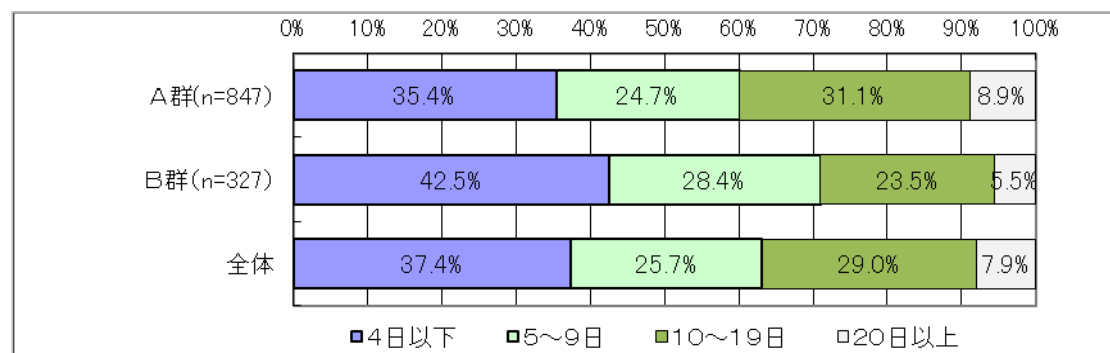
近所で子どもを預かってくれる人がいるかどうかという質問には、顕著な差がみられました。「いる」と答えた母親がA群では28.6%だったのに対し、B群は69.4%で、2.4倍に達しました。前の2つの質問と合わせて考えると、自分の育った市町村以外で子育てしている母親の方が、地域とのつながりが弱く、その結果として子育ての手助けも得にくい状況にあることがわかります。(図表2-4-4⑤)

【図表 2-4-4⑤ 近所で子どもを預かってくれる人がいるかどうか】



拠点を月にどれぐらい利用するかという質問への答えを分析すると、10日以上母親がA群では40.0%を占め、B群の29.0%に比べ顕著に高くなっています。A群では20日以上母親も8.9% (B群は5.5%) おり、自分の育った市町村以外で子育てしている母親の方が、拠点の利用回数が多い傾向がみられます。(図表 2-4-4⑥)

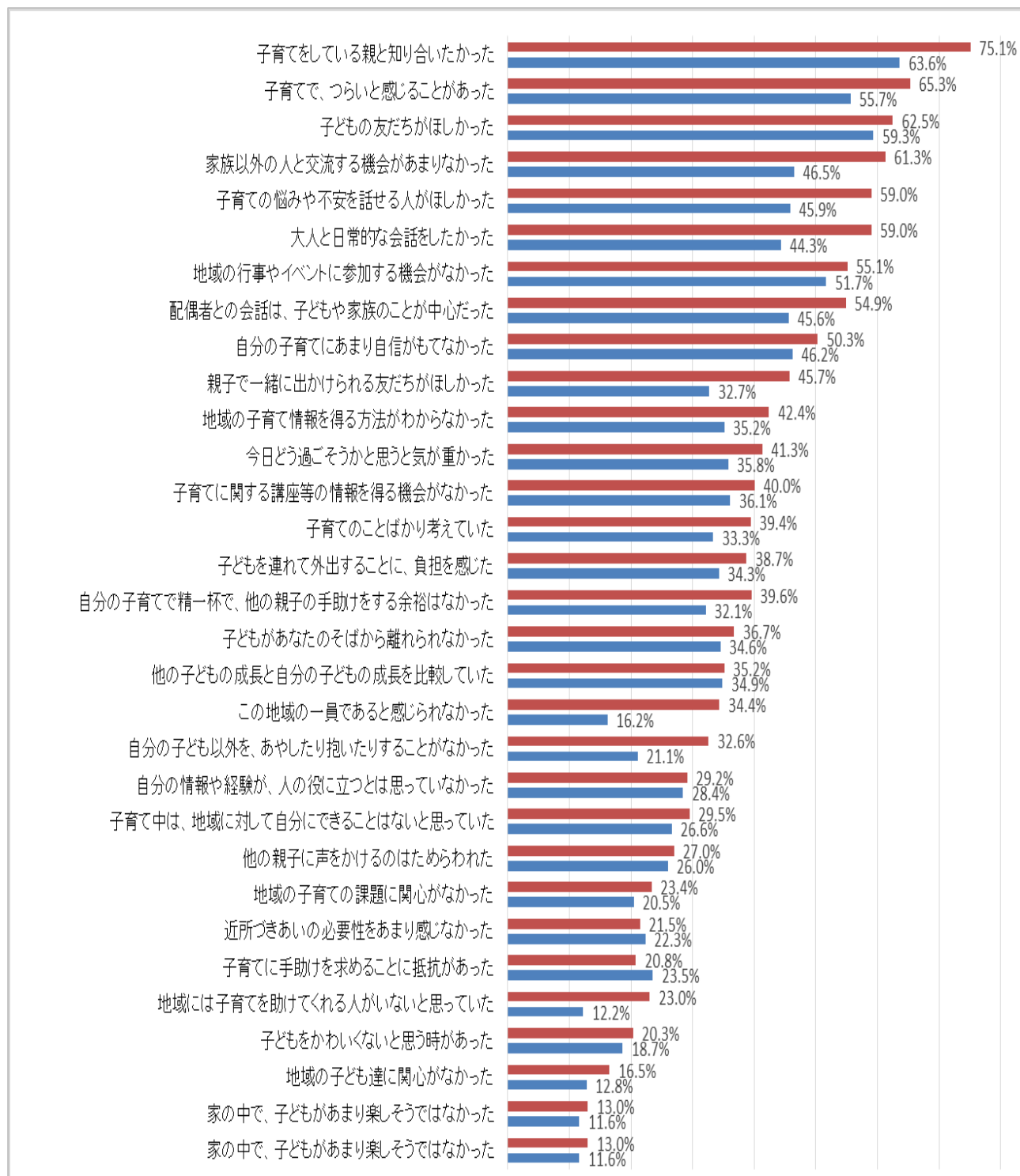
【図表 2-4-4⑥ 拠点を月にどれぐらい利用するか】



② A群とB群の母親の拠点利用前の子育て状況の違い

4-1でまとめた、地域子育て支援拠点を利用する前の自身の子育ての状況についての質問で、「はい」と答えた割合をA群の母親とB群の母親で比較しました。

30項目の質問は、子育てにおける不足や願望、悩みなど、マイナス要素に着目した質問文になっています。つまり、「はい」と答えた母親が多い項目は、多くの母親が悩んだり、課題と考えたりしている項目だと考えられます。



※無回答数の処理の違いにより、一部概要版と数字の異なる所があります。

30項目中28項目で、「はい」と答えた母親の割合がA群>B群となっています。特に、「子育てをしている親と知り合いたかった」「家族以外の人と交流する機会があまりなかった」「子育ての悩みや不安を話せる人がほしかった」「大人と日常的な会話をしたかった」の4項目については、A群の59～75%の母親が「はい」と答え、それぞれB群の母親より10ポイント以上高い数字を示しています。また、「この地域の一員であると感じられなかった」という設問には、A群は34.4%、B群は16.2%の母親が「はい」と答え、2倍以上という大きな差を示しています。以上の5項目について平均の差が統計学的に意味があるかどうかt検定を実施したところ、いずれも1%水準で有意な差があると判定されました。

さらに、30項目のうち「はい」と答えた項目数を拠点利用前の育児マイナス要因を示すスコアとして計算したところ、A群の平均が11.98、B群の平均が10.23となり、t検定で1%水準で有意な差と判定されました。

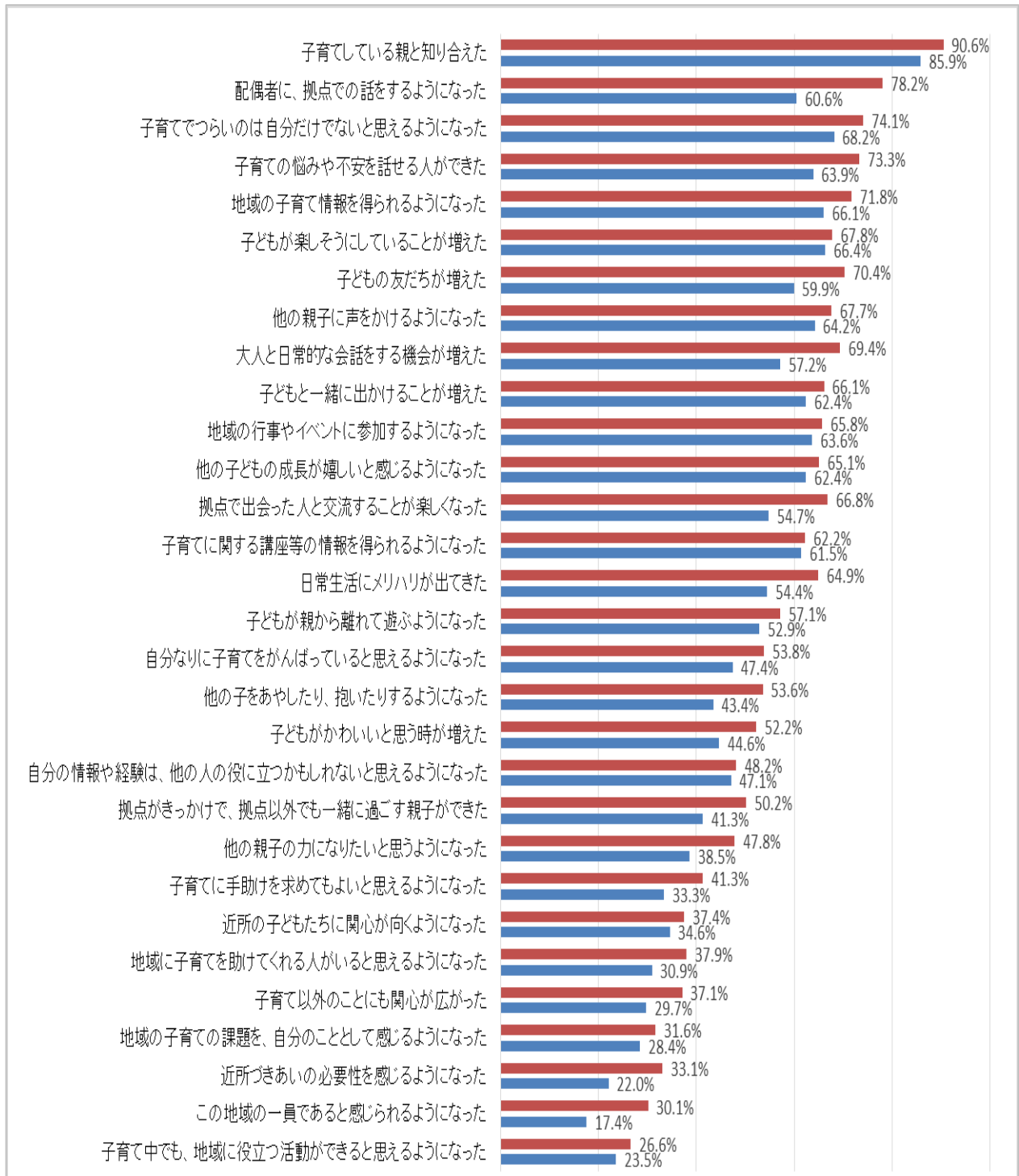
これらの結果から、A群の母親はB群の母親に比べ、全体として子育てに関する問題をより多く抱えている、という傾向が見て取れます。とりわけ大きな差があった5項目は、家族以外の人間関係の不足に関する質問で、自分の育った市町村以外で子育てしている母親が置かれた孤立状況を示唆しています。

また、A群がB群より5～10ポイント高い項目には、「子育てで、つらいと感じることがあった」「今日どう過ごそうかと思うと気が重かった」「子育てのことばかり考えていた」などがありました（t検定を実施したところ、5%水準で有意な差がありました）。このことから、子育てに伴う不安や「つらさ」についても、A群の母親の方が深刻な状況にあることがうかがわれ、上に挙げた孤立状況が影響している可能性も考えられます。

③ A群とB群の母親の拠点利用後の子育て状況の違い

また、拠点を利用した後に子育ての状況がどう変化したかについても、「はい」と答えた割合をA群の母親とB群の母親で比較しました。

30項目の質問文は、拠点利用前の課題や悩みが解決されたり、子育ての状況がよくなったか、というプラス要素に着目しており、「はい」と答えた母親が多い項目は、多くの母親が拠点利用後に改善されたと感じている項目だと考えられます。



■ A群

■ B群

30項目すべてで、「はい」と答えた母親の割合がA群>B群となっています(必ずしも有意な差がみられるといえない項目も含まれます)。10ポイント以上の差がみられた項目は、「配偶者に、拠点での話をするようになった」「子どもの友だちが増えた」「大人と日常的な会話をする機会が増えた」「拠点で出会った人と交流することが楽しくなった」「日常生活にメリハリが出てきた」「他の子をあやしたり、抱いたりするようになった」「近所づきあいの必要性を感じるようになった」「この地域の一員であると感じられるようになった」の8つあり、いずれもt検定を実施すると、1%水準で有意な差があると判定されました。

さらに、30項目のうち「はい」と答えた項目数を拠点利用後の育児プラス要因を示すスコアとして計算したところ、A群の平均が16.98、B群の平均が15.10となり、t検定で1%水準で有意な差と判定されました。

この結果から、A群の母親はB群の母親に比べ、拠点利用後に子育てに関する状況が改善したと感じている割合が高い、という傾向が見て取れます。大きな差があった項目には、自身および子どもの人間関係が広がったことを示す項目が含まれるほか、現在住んでいる地域とのつながりが強まっていることを示す項目も含まれています。

あとがき

親子の居場所づくりの活動がはじまり、20年以上が経った現在、拠点事業が親子の仲間づくりにどの程度貢献し、地域に根差した取り組みとなっているのかを検証し、拠点事業の果たしている役割を明らかにするため、研究会を立ち上げアンケート調査を実施しました。

今回の調査では、拠点利用者の72.1%が自分の育った市区町村以外で子育てしていました。拠点を利用する前の子育ての状況を尋ねた質問では、そのうちの71.4%が「近所で子どもを預かってくれる人がいない」と答え、自分の育った市区町村で子育てしている母親(30.6%)の2倍以上の数値を示しています。自分の育った市区町村以外で子育てしている母親が抱える孤立感・疎外感は、自分の育った市区町村で子育てしている母親に比べて高いことが浮かび上がりました。自分の育った市区町村以外での子育ては、物理的な手助けの不足にとどまらず、心理的に孤立しているという状況をもたらし、「アウェイ感」を母親に与えているものと考え、私達はこうした状況での子育てを「アウェイ育児」と位置づけました。

知り合いのいない土地で母親が感じる孤立感、手助けが得にくい中での子育ての負担感など、拠点の支援者は、日々、数多くの母親から切実な声を受け止めています。

また、利用者全体でも拠点を利用する前には「子育てをしている親と知り合いたかった」が71.9%、「子育てで、つらいと感じることがあった」が62.6%に達したことは、母親たちが「つながり」を求めつつも孤立している状況がうかがえます。

拠点を利用した後に得られたことや変化を尋ねた質問からは、利用者全体で「子育てしている親と知り合えた」(89.3%)、「子育てでつらいのは自分だけでないと思えるようになった」(72.5%)、「地域の子育て情報を得られるようになった」(70.2%)、と、答えた比率がそれぞれ3分の2を超え、拠点利用を通じて親子の仲間ができ、育児不安が軽減され、情報や地域とのつながりが広がっていることも確認できました。このことから、すべての母親が多かれ少なかれ抱えている「アウェイ感」を理解することが、人や地域とのつながりを紡ぎ出し、安心して子育てできる環境を創造していくと考えます。

本年度の調査では、利用者の現状分析と、利用者の「つながり」に拠点がどのような効果を発揮しているのかを検証するにとどまっています。アンケートでは、拠点を運営する団体に対しても、実施主体や、実施年数、スタッフ配置、取り組みの工夫などをうかがいましたので、来年度は、集まったデータをもとに、団体の取り組みと利用者の変化や効果などをさらに分析し、拠点事業の質的向上のための手がかりにしたいと思います。

今回のアンケート調査にご協力いただいた団体、利用者みなさまに感謝申し上げます。

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事 主任研究委員 岡本 聡子

平成 27 年度「住友生命～未来を強くする子育てプロジェクト」助成事業

地域子育て支援拠点事業に関するアンケート調査 2015

地域子育て支援拠点における「つながり」に関する調査研究事業

主任委員：岡本 聡子

委員：奥山千鶴子 坂本 純子 柴田 恒美 中條美奈子 中橋恵美子
野口比呂美 松田 妙子 安田 典子 山田 智子

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

〒222-0037 神奈川県横浜市港北区大倉山 3-19-18

TEL: 045-531-2888 Fax: 045-512-4971

Mail: info@kosodatehiroba.com

HP: <http://kosodatehiroba.com>